

高松市埋蔵文化財調査報告 第24集

一般国道11号高松東道路建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第三冊

SAKO  
浴・NAGA  
長池 II 遺跡  
IKE

1994.3

高松市教育委員会  
建設省四国地方建設局

浴・長池Ⅱ遺跡 正誤表

頁	行	正 →	誤
2	3	範囲内に本の	範囲内に7本の
5	左5~6	いっ区西端より	1区西端より
9	28	弥生前期初等の	弥生前期初頭の
10	10	塩江町	香川町
13	9	遺跡地名表	第3表 遺跡地名表
16	24	黄褐色祖砂礫	黄褐色粗砂礫
39	19	さかのぼる可能性	さかのぼれる可能性
55	29	工具に刻目文を	工具による刻目文を
57	7	刻目突文	刻目突帯文
60	5	西側わ	西側は
63	1	1区SP08	2区SP08
78	9	二段堀	二段掘り
	17	深行	桁行
96	8	(注 文献に加筆)	(注4 文献に加筆)
101	5	整形	正形
	24	安全な形	完全な形





1. 不定形小区画水田完掘状況（南から）



2. 同（東から）





1. 1区 完掘状況（西から）



2. 2区 完掘状況（南から）





1区西端 SD01,02 完掘状況



## 序

讃岐の国の中央、現在の行政区画で高松市とされる地域には、古くから文化が栄え、多くの歴史的・文化的遺産が残されております。それは高松市の北側に広がる、文化の回廊・瀬戸内海に負うところが、多いとされています。

瀬戸内海は、文化だけでなく、気候風土の面から、また、産業経済の面からも、様々な影響を、高松市に与えております。それは現在に限らず、古くからも同様であったと思われまます。あるいは、それ以上であったかも知れません。

今回報告いたします「浴・長池Ⅱ遺跡」につきましても、弥生時代初期の水田遺構が検出されており、稲作がこの高松の地域にどのように導入され、水量の乏しいこの高松平野で、どのように展開していったのか、当時の状況をかいま見ることができました。郷土史に新たな1ページを、加えたところでございます。

昨今、埋蔵文化財を調査することによって、忘れ去れた、また埋められた郷土の歴史を復元することが、可能になりました。高松市教育委員会におきましても、積極的な発掘調査などの事業を実施することによりまして、郷土の歴史を明らかにし、豊かで文化的な都市「高松」を、築いていきたいと考えております。

今回の調査におきまして、あらゆる方面から、惜しみない御協力を賜りました、関係機関・関係者の方々に、厚くお礼申し上げるとともに、文化財行政を通じて、文化都市造りに全力を傾注したいとの決意を表し、挨拶とさせていただきます。

平成6年3月

高松市教育委員会  
教育長 山口 寮弼







## 例言

- 1 本書は、一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第3冊目で、高松市林町に所在する浴・長池Ⅱ（さこ・ながいけⅡ）遺跡の調査報告を収録した。
- 2 本事業は、高松東道路、上天神ー前田東間8kmのうち太田第2土地区画整理事業地に含まれる約1.7kmを対象とする。
- 3 本事業は、建設省四国地方建設局から高松市が受託し、高松市教育委員会が発掘調査を実施した。
- 4 事業費は、建設省四国地方建設局が全額を負担した。
- 5 調査にあたって下記の関係諸機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。

建設省四国地方建設局 建設省四国地方建設局香川工事事務所  
香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
高松市都市開発部太田第2土地区画整理事務所

香川大学 吉田重幸 木原溥幸 丹羽佑一 東京大学 石上英一  
京都大学 金田章裕 奈良国立文化財研究所 工楽善通 牛嶋茂  
高松工業高等専門学校 権藤典明 立命館大学 高橋学 高知大学 内田忠賢

(敬称略)

- 6 本書の報告にあたっては、次の方々に分析および鑑定を依頼した。  
プラントオパール分析鑑定 皇学館大学 外山秀一
- 7 調査全般を通じて、高松市内在住、末光甲正氏の協力を得た。
- 8 本遺跡の調査および整理作業は、文化財係長藤井総括のもと山本、山元があたった。本報告書の執筆は、第2章 周辺の環境を山本が担当した以外は山元が執筆し、全体の編集も山元が行った。



- 9 写真は、遺構については調査担当者が撮影し、遺物写真については写房 楠華堂（楠本真紀子）に委託した。
- 10 本遺跡の調査における各業務の委託先は次のとおりである。
- |          |        |           |
|----------|--------|-----------|
| 発掘調査掘削工事 | （一次調査） | 東海興業株式会社  |
|          | （二次調査） | 株式会社中塚工業  |
| 遺跡写真測量業務 |        | アジア航測株式会社 |
- 11 本書で使用する遺構略号は次のとおりである。
- |    |      |    |        |    |      |    |    |
|----|------|----|--------|----|------|----|----|
| SH | 竪穴住居 | SB | 掘立柱建物  | SD | 溝状遺構 | SK | 土坑 |
| SP | 柱穴   | SX | 性格不明遺構 |    |      |    |    |
- 12 遺物番号は、挿図（遺物実測図）ごとに1から順に付した。遺物写真図版番号の標記については、例えば挿図番号1の遺物番号1であれば1-1と記述した。挿図中に遺物が1点しかない場合は挿図番号のみを記している。
- 13 報告書中の各遺構等の土層名については『新版 標準土色帖』 1990年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修 を使用した。
- 14 浴・長池Ⅱ遺跡の概要はこれまでに下記の文献によって一部報告をおこなっているが、いずれも調査終了時点のものや、整理作業中の成果であり、その後の整理作業の中で事実誤認が確認されたり、新しい成果が加わり遺構の時期に違いがでてきている。これらの時期については、今回の報告が正式なものとなる。
- 1.山元敏裕 「浴・長池Ⅱ遺跡」『讃岐国弘福寺領の調査』 高松市教育委員会 1992. 3
  - 2.『むかしの高松 創刊号』 高松市教育委員会 1992. 3

# 浴・長池Ⅱ遺跡発掘調査報告書目次

はじめに

例言

## 第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯…………… 1

第2節 調査の経過…………… 2

第3節 整理作業の経過…………… 4

## 第2章 周辺的环境…………… 7

## 第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定…………… 13

第2節 遺跡の概要と層序…………… 14

第3節 弥生時代前期以前の遺構と遺物…………… 24

第4節 弥生時代中・後期の遺構と遺物…………… 39

第5節 古墳時代の遺構と遺物…………… 67

第6節 古代から中世の遺構と遺物…………… 68

第7節 近世の遺構と遺物…………… 73

## 第4章 調査のまとめ

第1節 遺構の変遷について…………… 85

第2節 水田遺構について…………… 92



## 挿表目次

第1表	一般国道11号高松東道路埋蔵文化財調査事業工程表	1
第2表	整理作業工程表	6
第3表	遺跡地名表	13
第4表	不定形小区画水田一覽表(1)	33~34
第5表	不定形小区画水田一覽表(2)	35~36
第6表	溝觀察表(弥生時代中・後期)	61~62
第7表	A群土坑觀察表	84
第8表	C群土坑觀察表	84~85
第9表	浴・長池Ⅱ遺跡検出水田面積と比高差	101
	遺物觀察表	106

## 挿写真目次

写真1	2区発掘作業風景	8
写真2	1・2区上面精査出土遺物	66
写真3	SD15土層堆積状況	69

## 付図目次

付図1	浴・長池Ⅱ遺跡1区遺構配置図
付図2	浴・長池Ⅱ遺跡1区東部、2区遺構配置図(第1遺構面)
付図3	浴・長池Ⅱ遺跡1区東部、2区遺構配置図(第2遺構面)
付図4	浴・長池Ⅱ遺跡1区東部、2区不定形小区画水田

## 挿図目次

第1図	試掘トレンチ設定図	2	第30図	2区西部ピット群	52
第2図	高松東道路路線内 遺跡調査位置図	3~4	第31図	SD21断面図	52
第3図	遺跡分布図	11~12	第32図	SD21出土遺物実測図	53
第4図	調査区設定位置図	15	第33図	SD22断面図	53
第5図	調査地周辺微地形図	17~18	第34図	SD22出土遺物実測図	53
第6図	1区西端土層図	19~20	第35図	SD24断面図	53
第7図	1区東端、2区土層図(1)	21~22	第36図	SD24出土遺物実測図	53
第8図	2区土層図(2)	23~24	第37図	SD26断面図	54
第9図	SD13断面図	26	第38図	SD26出土遺物実測図	54
第10図	SD13出土遺物実測図	26	第39図	SD28断面図	54
第11図	SK35遺物出土状況図	26	第40図	SD28出土遺物実測図	55
第12図	SK35出土遺物実測図	27	第41図	SD29断面図	55
第13図	水田面積分布図	28	第42図	SD29出土遺物実測図	55
第14図	水田遺構図	29~30	第43図	SD30断面図	55
第15図	水田区画図	31~32	第44図	SD30出土遺物実測図	56
第16図	浴・長池遺跡、 浴・長池Ⅱ遺跡水田遺構図	37~38	第45図	SD31断面図	56
第17図	2区洪水砂層出土遺物実測図	40	第46図	SD31出土遺物実測図	56
第18図	SH01実測図	41	第47図	SD34出土遺物実測図	57
第19図	SH01出土遺物実測図	42	第48図	SD35断面図	58
第20図	SH02実測図	43	第49図	SD35出土遺物実測図	58
第21図	SH02-I期実測図	44	第50図	SD36断面図	58
第22図	SH02-II期実測図	45	第51図	SD36出土遺物実測図	58
第23図	SH02-III期実測図	46	第52図	SD37断面図	59
第24図	SH02-IV期実測図	47	第53図	SD37出土遺物実測図	59
第25図	SH03実測図	48	第54図	SD39断面図	59
第26図	SH04実測図	49	第55図	SD39出土遺物実測図	60
第27図	SH05実測図	50	第56図	SD43断面図	60
第28図	SB07実測図	51	第57図	SD43出土遺物実測図	60
第29図	SB08実測図	51	第58図	SD44断面図	60
			第59図	SD44出土遺物実測図	60
			第60図	SK32実測図	62



第61図	SK32出土遺物実測図……………	62	第85図	SK01出土遺物実測図(1)……………	81
第62図	SK36実測図……………	62	第86図	SK01出土遺物実測図(2)……………	81
第63図	SK36出土遺物実測図……………	62	第87図	SK02実測図……………	82
第64図	2区SP08出土遺物実測図……………	63	第88図	SK02出土遺物実測図……………	82
第65図	SX01実測図……………	63	第89図	SK05出土遺物実測図(1)……………	82
第66図	SX01出土遺物実測図……………	64	第90図	SK05出土遺物実測図(2)……………	82
第67図	SX02実測図……………	64	第91図	SK06出土遺物実測図……………	82
第68図	SX02出土遺物実測図……………	65	第92図	SK07出土遺物実測図……………	83
第69図	1・2区上面精査出土 遺物実測図(1)……………	67	第93図	SK20出土遺物実測図……………	83
第70図	1・2区上面精査出土 遺物実測図(2)……………	68	第94図	SK25出土遺物実測図……………	83
第71図	SD15断面図……………	69	第95図	SK30出土遺物実測図……………	83
第72図	SD15出土遺物実測図……………	69	第96図	浴・長池Ⅱ遺跡遺構変遷図(1)…	89~90
第73図	SD01、02実測図……………	70	第97図	浴・長池Ⅱ遺跡遺構変遷図(2)…	91~92
第74図	SD46実測図……………	71	第98図	高松市林町周辺水田遺構 検出遺跡位置図……………	94
第75図	1区SP11実測図……………	71	第99図	弘福寺田図北地区 C区第Ⅸ層検出水田……………	95
第76図	1区SP11出土遺物実測図……………	71	第100図	浴・長池遺跡検出 不定形小区画水田……………	96
第77図	1区西半近世遺構配置図……………	73~74	第101図	浴・松ノ木遺跡SX01……………	97
第78図	SB01実測図……………	75	第102図	林・坊城遺跡SR01流路A……………	98
第79図	SB02実測図……………	76	第103図	高知県南国市市田村遺跡 Loc23・37水田遺構……………	99
第80図	SB03実測図……………	77	第104図	各遺跡検出水田面積分布……………	100
第81図	SB04実測図……………	78	第105図	神戸市戎町遺跡水田遺構……………	101
第82図	SB05実測図……………	79			
第83図	SB06実測図……………	80			
第84図	SK01実測図……………	80			

## 図版目次

巻頭図版 1-1	不定形小区画水田完掘状況	- 2	2区	洪水層堆積状況（北から）
- 2	同（東から）	図版10-1	東部	南壁土層堆積状況
巻頭図版 2-1	1区完掘状況（西から）	- 2	2区	南壁土層堆積状況
- 2	2区完掘状況（南から）	図版11-1	2区	SK35遺物出土状況
巻頭図版 3	1区西端SD01、02完掘状況	- 2	同	完掘状況
図版 1-1	1区完掘状況（東から）	図版12-1	SH01完掘状況（東から）	
- 2	2区 第1遺構面完掘状況（西から）	- 2	SH01中央土坑土層堆積状況	
図版 2-1	1区西部 完掘状況（北から）	図版13-1	SH01南北セクション南部	土層堆積状況
- 2	1区中央部 完掘状況（北から）	- 2	SH01南北セクション北部	土層堆積状況
図版 3-1	1区東部-1 完掘状況（北から）	- 3	SH01東西セクション西部	土層堆積状況
- 2	1区東部-2 完掘状況（北から）	図版14-1	SH02完掘状況（北から）	
図版 4-1	第2次調査 第1遺構面完掘状況	- 2	同（東から）	
- 2	第2次調査 第2遺構面完掘状況	図版15-1	SH03完掘状況（東から）	
	（東から）	- 2	SH03Pit内部状況	
図版 5-1	2区 不定形小区画水田完掘状況	図版16-1	SH04完掘状況（西から）	
- 2	同（西から）	- 2	同（南から）	
図版 6-1	2次調査 不定形小区画水田	図版17-1	SH05完掘状況（南から）	
- 2	完掘状況（東から）	- 2	SH05Pit内部状況	
- 2	1区東部 不定形小区画水田	図版18-1	SB07完掘状況（北から）	
	完掘状況（西から）	- 2	SX01完掘状況（東から）	
図版 7-1	2区 不定形小区画水田内水路	図版19-1	SX01東西セクション土層堆積状況	
- 2	同（北西から）	- 2	同 南北セクション土層堆積状況	
- 2	同（南東から）	- 3	SX02検出状況（南から）	
図版 8-1	2次調査 不定形小区画水田細部	図版20-1	SD01、02完掘状況（北から）	
- 2	同（南西から）	- 2	SD01（上）、SD02（下）土層堆積状況	
- 2	2区 不定形小区画水田	図版21-1	SD46完掘状況（北から）	
	土層堆積状況	- 2	同 土層堆積状況	
図版 9-1	2区 不定形小区画水田	図版22-1	1区西端 土層堆積状況	
	洪水破壊状況（南から）			



- 2 1区西端 完掘状況-1 (北から)
- 2 SD34出土土器
- 図版23-1 1区西端 完掘状況-2 (北から)
- 3 SD22出土土器
- 2 SB01完掘状況 (東から)
- 4 SD34出土土器
- 図版24-1 SB02完掘状況 (北から)
- 5 SD30出土土器
- 2 SB03完掘状況 (南から)
- 6 SD37出土土器
- 図版25-1 SK02遺物出土状況 (北から)
- 7 SD28出土土器
- 2 同 土層堆積状況
図版29-1 2区SP08出土土器
- 図版26-1 SK01完掘状況 (東から)
- 2 SK36出土土器
- 2 SK04完掘状況 (北東から)
- 3 SX01出土土器
- 図版27-1 SD13出土土器
- 4 SX02出土土器
- 2 SK35出土土器
図版30-1 1区SP11出土土器
- 3 2区 洪水砂層出土土器
- 2 SK02出土土器
- 図版28-1 SH01出土土器
- 3 SK01出土遺物

# 第 1 章

## 調査の経緯と経過





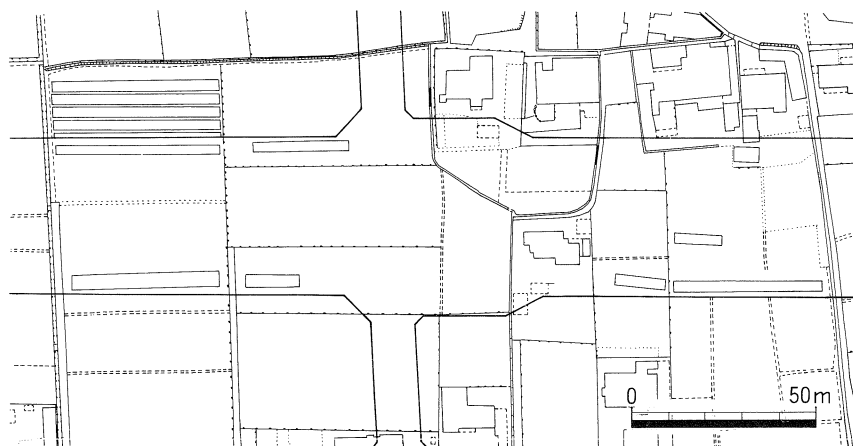
## 第1節 調査の経緯

昭和62年2月2日の香川県都市計画審議会都市計画決定された香川県中央都市計画事業太田第2土地区画整理事業地内には、当事業のメインストリートである一般国道11号高松東道路が通過している。このうち区画整理事業地内を通過する部分の埋蔵文化財の発掘調査は、区画整理事業の施工者が高松市であることから、高松市教育委員会が実施することとなった。調査の実施に当たっては昭和62年12月15日に建設省四国地方建設局、香川県教育委員会、高松市の3者間で、太田第2土地区画整理事業区域内の一般国道11号高松東バイパス用地にかかる埋蔵文化財調査に関する覚書が締結された。実際の調査は平成元年8月15日から平成2年3月20日にかけて行われた浴・長池遺跡の調査を最初に、都合7遺跡を発掘調査し、平成4年9月末の蛙股遺跡の調査終了をもって、足かけ4年にわたる調査を無事終了し、当初の予想を上回る成果を上げることができた。調査によって得られた成果は、速報的な成果については啓発を目的としたパンフレット「むかしの高松」創刊号、3号において成果の一部を公表している。調査の終了した平成4年10月からは本格的な整理作業にかかり、平成4年度末に第1冊目、浴・長池遺跡を無事刊行し、平成5年度中に第2冊、浴・松ノ木遺跡（印刷中）、第3冊、浴・長池Ⅱ遺跡（本報告書）を刊行し、残り4冊を平成7年度までに刊行する予定である。（第1表参照）

第1表 一般国道11号高松東道路埋蔵文化財調査事業工程表

年度	試掘調査	発掘調査	整理作業	報告書刊行
平成元	浴・長池、松ノ木	浴・長池		
2	浴・長池Ⅱ， 井手東Ⅰ，Ⅱ，居石，	浴・松ノ木 浴・長池Ⅱ		
3	蛙股	井手東Ⅰ，Ⅱ 居石，蛙股	浴・長池	
4		蛙股	浴・松ノ木	浴・長池（既刊）
5			浴・長池Ⅱ 井手東Ⅰ，Ⅱ	浴・松ノ木（印刷中） 浴・長池Ⅱ（本報告書）
6			居石，蛙股	井手東Ⅰ，Ⅱ（予定）
7				居石，蛙股（予定）

## 第2節 調査の経過



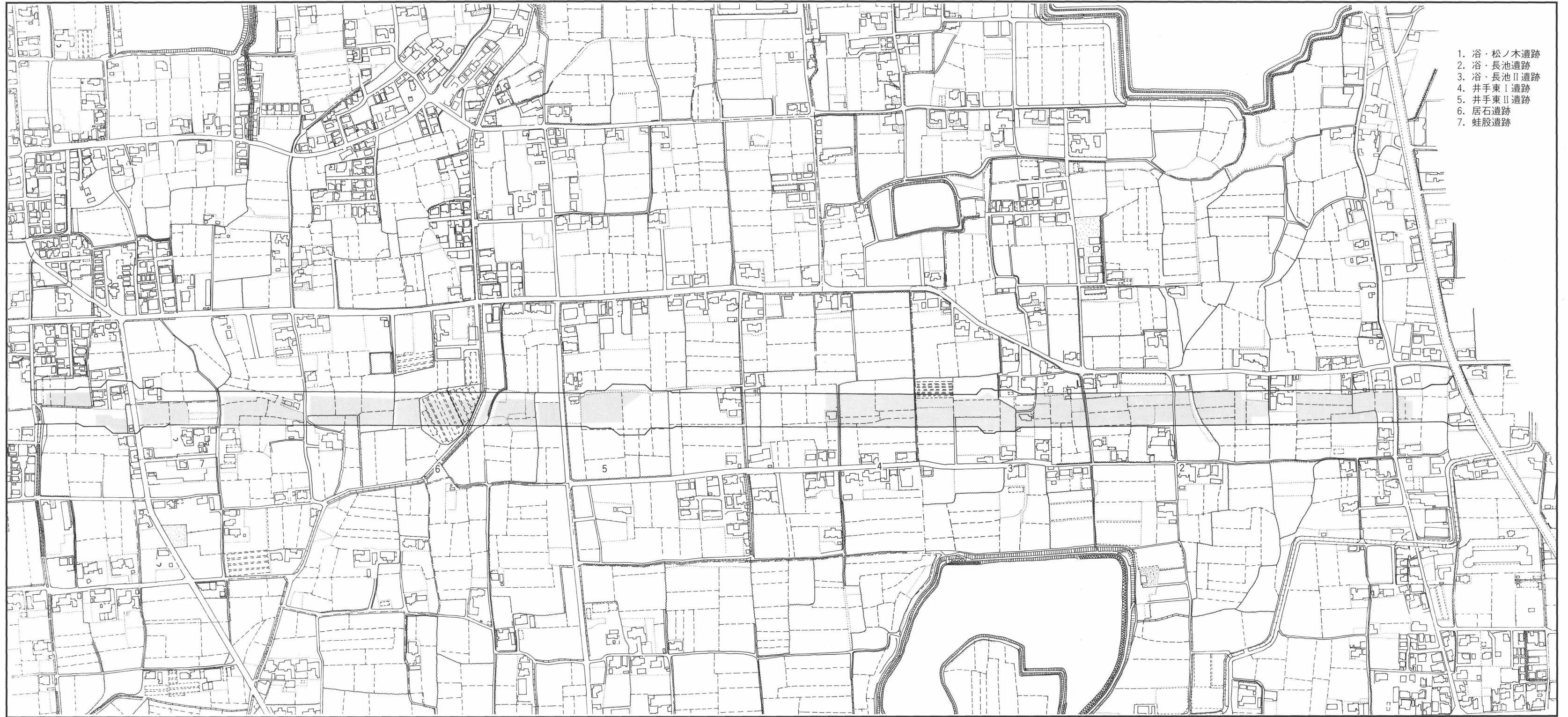
第1図 試掘トレンチ設定位置図

浴・長池Ⅱ遺跡の発掘調査に先立つ試掘調査は平成2年6月7～10日にかけて行われた。試掘調査地は平成元年度仮換地の西端に位置し、長池の真北約130mにあたる。平成元年度調査の浴・長池遺跡の西側に位置する。試掘調査は東西約40mの範囲内に本のトレンチを設定し、バックホーによる掘削で土層断面及び平面の状況で遺跡の有無を確認した。試掘による実掘面積は547.5㎡である。試掘調査の結果、西半部では床土直下に地山である黄色粘土層があり、その上面に溝状遺構等の遺構を確認した。一方東半部では、浴・長池遺跡1・3区の延長で、黄色粘土層が浅く谷状にくぼんだ中を、砂礫層が充填していた。粘土層の上面は土壌化した黒色粘土層が存在し畦畔状の高まりが認められた。砂礫層上面では堅穴住居、溝等を確認し、試掘調査対象地全域に遺構が認められた。

以上の試掘調査の結果を受けて平成2年11月21日から平成3年3月27日にかけて工事請負によって実施することになり、入札の結果東海興業株式会社に発注した。調査面積は7,420㎡であり、中央部未退去家屋・畑地については次年度調査となった。発掘調査は年度末近くで調査期間も少なく、春先の悪天候が続き調査は難航したが、予定通り調査を終了することができた。前年度調査ができなかった部分については未退去家屋部分についてのみ2次調査として平成3年7月29日から平成3年9月30日にかけて工事請負によって実施することになり、入札の結果株式会社中塚工業に発注した。調査面積は440㎡である。

発掘作業の経過については以下に調査日誌を掲げる。





1. 浴・松ノ木遺跡
2. 浴・長池遺跡
3. 浴・長池Ⅱ遺跡
4. 井手東Ⅰ遺跡
5. 井手東Ⅱ遺跡
6. 居石遺跡
7. 蛙股遺跡

第2図 高松東道路線内遺跡調査位置図

調査日誌抄

(第1次調査)

平成2年

- 11. 21 準備工開始
- 12. 17 本日より作業員の就労を開始。いっ  
区西端より遺構検出を開始。ピット、溝等を確認。条里遺構に関係すると思われる2条の平行した南北溝を確認。
- 26 1区東半部に東へむかって落ちる包含層を確認。
- 27 本日にて年内の発掘作業を終了する。年末・年始の安全対策準備。

平成3年

- 1. 7 作業再開。SD13より縄文時代晩期突  
帯文土器片出土。
- 8 1区東部南側にトレンチを設定。  
現遺構面下に土壌層を確認。
- 14 1区遺構実測開始。
- 16 1区東部に炭化材等を確認。住居  
跡の可能性。
- 17 雨天の為、現場作業中止。(～21)
- 23 2区上面精査開始。竪穴住居、溝、  
土坑等を確認。
- 30 2区遺構検出終了。遺構掘り下げ  
開始。弘福寺田図調査委員会委員  
総勢6名来現。
- 2. 4 1区航空測量のための清掃。
- 5 2区航空測量のための清掃。
- 8 1区清掃終了。完掘状況写真撮影。
- 12 1・2区第1遺構面航空測量。2

区完掘状況写真撮影。

- 14 1区東部第2遺構面(水田層)上面  
検出開始。
- 15 雨天のため現場作業を中止する。
- 19 1区東部小区画水田検出中。上面  
において検出できなかった竪穴住  
居の柱穴を確認。柱穴数から何回  
かの立て替えが考えられる。
- 22 2区小区画水田上面検出開始。1  
区東部と同様の状況が認められ  
る。
- 28 雨天の為、現場作業を中止する。  
(～1)
- 3. 4 航空測量の為の清掃。
- 5 雨天の為、現場作業を中止する。  
(～11)
- 12 作業再開。排水作業。
- 15 第2回航空測量終了。完掘状況写  
真撮影。
- 18 2区南壁土層分層。
- 19 2区南壁土層分層終了。土層写真  
撮影。土層断面実測開始。
- 22 雨天の為、現場作業を中止する。  
(～23)
- 25 2区南壁土層断面図注記作業。
- 26 1区東部、2区南壁プラントオ  
パール分析用試料採集。
- 27 調査にかかる作業をすべて終了す  
る。

- (第2次調査)  
平成3年
- 7.29 昨年度未退去家屋部分の調査を開始する。
  - 8.9 調査区壁際にトレンチを掘り下げ、下部の状況を観察する。
  - 10 盆休みのため、作業を休止する。
  - 19 第1遺構面上面精査。遺構検出中。
  - 20 検出遺構平板実測。
  - 22 遺構掘り下げ中。
  - 9.2 航空測量のための清掃。
  - 3 航空測量。完掘状況写真撮影。
  - 4 第2遺構面検出中。南東部分に掘立柱建物を確認。
  - 6 第2遺構面検出ピットの掘り下げを終了する。
  - 7 第2遺構面完掘状況写真撮影。一部下層水田遺構掘り下げ開始。
  - 10 水田遺構検出中。
  - 12 水田遺構検出終了。
  - 20 水田遺構航空測量。完掘状況写真撮影。
  - 23 調査区内壁面土層断面実測開始。
  - 30 本日にて工事請負による調査を終了する。
  - 10.3 調査終了後、水田面畦畔の平面はぎ取り作業を実施する。
  - 4 水田面はぎ取り終了。良好な成果を得た。

### 第3節 整理作業の経過

第2表 整理作業工程表

1992									1994		
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
←————— 土器実測 —————→											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
←————— 遺物トレース —————→		←————— 土器補足実測 —————→				←————— 遺物トレース —————→					
←————— 石器実測 —————→											
←————— 復元作業 —————→											
←————— 遺構図トレース —————→				←————— 遺構図トレース —————→							
							←————— 原稿執筆 —————→				
								←————— 編集 —————→			
										入札	発行



整理作業は当初6名の整理補助員で行っていたが、平成4年6月末で1名退職したことから7月から5名体制で行った。

浴・長池Ⅱ遺跡の整理作業は浴・松ノ木遺跡の整理と平行して行ったこともあり、やや浴・松ノ木遺跡の整理作業より遅れることとなった。作業の進行は別表に示したとおりである。この理由は刊行時期の重なった両報告書の編集を担当するのが山元一人で行っていたこともあり、浴・松ノ木遺跡の編集作業を行っている間、浴・長池Ⅱ遺跡の報告書作成作業が停滞することとなった。しかし、出土遺物が少なかった点、また整理作業の多くを松田重治氏（仏教大学通信教育部 学生）の協力が得られたこともあり、無事終了することができた。記して謝意を表したい。

なお、発掘調査および整理作業の関係者は次のとおりである。

#### 発掘調査（平成2年度）

教育長	三木義夫	太田第2土地	小坂信夫
教育部長	多田 孜	区画整理事務所	為定典生
教育部次長	増田昌三	文化振興課	中西克也
文化振興課長	多田恒男	非常勤嘱託	岡田信子
文化振興課長補佐	亀井 俊		玉田和子
文化財係長	藤井雄三		金森澄子
文化財係主事	山本英之		井口敬三
	川畑 聡		宮内秀樹
文化財係事務員	山元敏裕		

#### 整理作業（平成4・5年度）

教育長	三木義夫（～H4.9） 山口寮弒（H4.10～）
文化部長	増田昌三（～H4.9） 上里文磨（H4.10～）
文化部次長	上里文磨（～H4.9） 宮内秀起（H5.12～）
文化振興課長	多田恒男
文化振興課長補佐	藤田容三

文化財係長  
文化財係主事

藤井雄三  
山本英之  
山元敏裕

太田第2土地  
区画整理事務所

為定典生（～H.5.4）  
小田薫（H.5.5～）

文化振興課  
非常勤嘱託

中西克也（～H.5.3）  
岡田信子  
竹林弘子  
井口夫美子

大川玲子

吉本みどり

出石真理子

佐々木由美子（H3.4～H5.7）



写真1 2区発掘作業風景

## 第 2 章

### 周辺の環境





本書に報告する浴・長池Ⅱ遺跡は、高松市林町に所在し、高松市街から南南東に約6km、高松平野のほぼ中央部に位置する。地形的には香東川によって形成された扇状地から沖積平野への移行部分にあたる。

ここ林町を始め太田、多肥の一带は、扇状地末端という地形から出水と呼ばれる地下水の湧出が豊富で、瀬戸内海沿岸の寡雨地帯の代名詞ともされる溜池灌漑に出水灌漑を複合した特徴的な水利慣行を残した田園地帯であったが、それも昭和49年の香川用水の通水によって急速に失われつつある。そして現在では、市街から至近で起伏の少ない利便さから土地区画整理、道路建設等のプロジェクトが集中し、市街化が急速に進んでいる。

林町・木太町・太田下町・多肥下町を含む通称太田地区では、これまでは天満・宮西遺跡<sup>(1)</sup>、白山神社古墳<sup>(2)</sup>等二、三の遺跡が知られるのみであったが、昭和63年以降の先述した諸開発（太田第2土地区画整理事業・高松東道路建設事業・空港跡地再開発事業等）の結果多くの埋蔵文化財が確認されつつある。これらに伴う発掘調査結果の公表はようやく緒についたばかりで全容が明らかになるにはもう数年を要すると考えられるが、縄文晩期から近世にかけての貴重な成果が確認されている。

高松平野の遺跡の変遷を概観するには、時代ごとの旧河道の位置を把握しておくことが不可欠である。前述のように高松平野の西半部では香東川がその形成に大きく関わってきたことが知られているが、このうち春日川から上天神町までの約2.3kmが昭和62年以降の高松東道路の建設に伴って発掘調査され、この間で7乃至は8本の旧河道が確認されている。遺跡名で示すと東から林・坊城遺跡<sup>(3)</sup>、浴・松ノ木遺跡<sup>(4)</sup>～浴・長池遺跡<sup>(5)</sup>SR01、浴・長池遺跡SR02、井手東Ⅰ遺跡<sup>(6)</sup>、居石遺跡<sup>(7)</sup>、蛙股遺跡<sup>(8)</sup>、太田下・須川遺跡<sup>(9)</sup>、上天神遺跡<sup>(10)</sup>で、いずれもが香東川のかつての流路であろうと考えられている。

これらの中で、時期的にもっとも古いものは井手東Ⅰ遺跡のもので、旧河道埋土の中間にアカホヤ火山灰層の堆積がみられる。しかし、縄文期の遺構遺物は確認されておらず、旧河道の南北への広がりも現地形等からは読みとりにくい。なお、上層の遺物から最終の埋没時期は弥生時代中期中葉と考えられる。

これに続くのは林・坊城遺跡と浴・長池遺跡SR02で、河床で縄文晩期から弥生前期初等の遺物が出土している。しかし前者が縄文晩期から古墳時代の初頭にかけて徐々に埋没するのに対し、後者は弥生時代前期末から中期初頭の大規模洪水で一気に埋まってしまう点に相違がある。

浴・松ノ木遺跡～浴・長池遺跡SR01の旧河道は川幅約150mに復元できる大規模なもので、現地形でも旧河道の名残が分々池・下池・長池・大池といった溜池として残存している。河床部で弥生時代中期前半を中心として弥生前期初頭から弥生後期にかかる期間の土器群が大量に

出土している。河道沿岸には弥生時代中後期の集落が営まれるとともに、河川内および自然堤防上では弥生前期から13世紀にかけて3時期4面の水田層を確認している。また、400mほど下流の弘福寺領讃岐国山田郡田岡北地区比定地の発掘調査<sup>(1)</sup>においても弥生時代前中期の水田層3面を検出するなど、長期間にわたって開発の手が加わってきた河川であるといえる。

居石遺跡の旧河道は、川底に布留式土器と小型仿製鏡を出土し、その直後に一時に埋没してしまったとみられる。すぐ東側に幅10mほどの支流が併走し、河底から縄文晩期前半の原下層式の土器を出土しているため、埋没までの存続期間は長かったのかもしれない。

このほか、上天神遺跡では弥生時代中期の旧河道と沿岸の後期末の集落、太田下・須川遺跡では弥生後期から古墳前期の旧河道とそれぞれの時期の集落、蛙股遺跡でも埋没後の河道上面で弥生後期の壺棺群が出土している。

現在までに判明しているこれらの調査データを総合すると、かつての香東川は、現在の塩江町岩崎橋付近で平野部へ出た後、現在の林町、六条町付近から石清尾山塊の東裾に及ぶ範囲で流れを変じながら沖積地を形成し、近世の初期には現在の香東川本流と御坊川筋に流れを固定していったものと想像できる。また完新世期の平野形成については、高橋学が弥生中期と古代末の大規模洪水による2面の段丘面の存在を推定しているが<sup>(2)</sup>、高松平野では弥生中期の段丘崖の位置は確定し得ていない。いずれにせよ、香東川の旧河道は何回かの画期的な大洪水によって形成された崖によって次第に氾濫原をせばめられ、近世初頭の位置に固定してきたものである。

高松平野全域にわたる時代ごとの旧河道ルートは未だ確定していないが、それぞれの時期の遺跡分布や遺跡相互の流通は、同時期の河川に大きな影響を受けるであろうと予想できる。したがって今後日を追って充実してくるであろう調査例、報告例によって一層のデータの充実を図りたい。

#### 注・参考文献

- (1) 「香川県埋蔵文化財調査年報」平成元年度 香川県教育委員会 1990
- (2) 「高松の古代文化」高松市図書館 昭和63年
- (3) 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 林・坊城遺跡」香川県教育委員会 1993
- (4) 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 浴・松ノ木遺跡」高松市教育委員会、建設省四国地方建設局 1994
- (5) 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 浴・長池遺跡」高松市教育委員会 建設省四国地方建設局 1993



第3図 遺跡分布図 (1 : 20,000)

- (6) 本報告書
- (7) 山元敏裕 「讃岐国弘福寺領の調査 第2章第3節」 高松市教育委員会 1992
- (8) 「香川県埋蔵文化財調査年報」平成4年度 香川県教育委員会 1993
- (9) 「香川県埋蔵文化財調査年報」平成元年度 香川県教育委員会 1990  
「香川県埋蔵文化財調査年報」平成2年度 香川県教育委員会 1991
- (10) 「香川県埋蔵文化財調査年報」昭和59年度～昭和62年度 香川県教育委員会 1988
- (11) 「讃岐国弘福寺領の調査」 高松市教育委員会 1992
- (12) 高橋学『高松平野の環境復原』「讃岐国弘福寺領の調査」 高松市教育委員会 1992

### 遺跡地名表

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 鹿腹遺跡                   | 13 井手東Ⅰ遺跡                 |
| 2 キモンドー遺跡                | 14 浴・長池Ⅱ遺跡                |
| 3 天満・宮西遺跡                | 15 浴・長池遺跡                 |
| 4 松縄下所遺跡                 | 16 浴・松ノ木遺跡                |
| 5 境目・下西原遺跡               | 17 林・坊城遺跡                 |
| 6 白山神社古墳                 | 18 六条上所遺跡                 |
| 7 弘福寺領讃岐国<br>山田郡田岡比定地北地区 | 19 東山崎・水田遺跡               |
| 8 上天神遺跡                  | 20 凹原遺跡                   |
| 9 太田下・須川遺跡               | 21 日暮・松林遺跡                |
| 10 蛙股遺跡                  | 22 多肥松林遺跡                 |
| 11 居石遺跡                  | 23 弘福寺領讃岐国<br>山田郡田岡比定地南地区 |
| 12 井手東Ⅱ遺跡                | 24 一角遺跡                   |
|                          | 25 空港跡地遺跡                 |





## 第 3 章

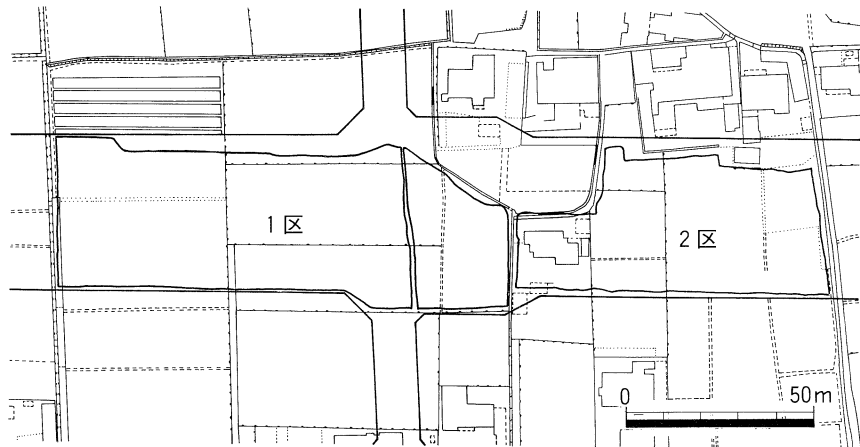
### 調査の成果



## 第1節 調査区の設定

調査区の設定は、平成2年6月7～10日にかけて行った試掘調査の結果に基づいて設定している。調査地は試掘調査を行った東西200m、南北40mの範囲を全面調査することとなり、調査地中央やや東寄りに未退去家屋が存在し、調査地が寸断されることより、未退去家屋より西側を1区、東側を2区と呼称し調査を行った。また、未退去家屋部分は調査終了までに家屋の除去が間に合わなかったことより、日を改めて調査を行う形となった。

試掘調査の結果によって、1区は耕作土直下で地山である黄色粘土上面において簡単に遺構が確認でき、遺構密度も多くなき調査は容易であるが、2区は浴・長池遺跡西部から続く浅い凹地が存在し、その下部では水田遺構の存在が想定できる土壌層の存在が認められ、その土壌層を覆いつくす灰色砂礫層の上面においても堅穴住居、溝などの遺構を確認しており、1区に比べ調査に時間を要することが予想された。実際の調査は、1区から開始し、次に2区の上層遺構、下層遺構と順に行い、当初予定していた以上の成果を上げることができた。



第4図 調査区設定位置図

## 第2節 遺跡の概要と層序

### 1 遺跡の概要

遺跡は、後背湿地及び埋没旧中州（埋没自然堤防）部分に当たり、<sup>(1)</sup>現在の地形では南西から北東に向かって緩やかに下る地形をし、標高は12.40m～11.90mである。

検出した遺構は1区において堅穴住居、堀立柱建物、溝状遺構、土坑、柱穴等を確認した。遺構密度は高くなく、中央部は希薄で西部及び東部はやや多い。1区東部では2区から広がる水田遺構を確認した。この水田遺構を形成する土壌層は1区中央部まで広がっていたが、中央部の用水より西側において平面的に畦畔を確認することはできなかった。

一方東側の2区では2面の遺構面を平面で確認した。上層である第1遺構面では堅穴住居、堀立柱建物、溝状遺構、土坑、柱穴等を確認した。2区では2面で遺構の確認作業を行ったが、遺構面と遺構の区別がつきにくく、遺構検出に予想以上の時間を費やした。年度末近くの調査で期間の短かったため、これ以外遺構面が存在していたらしく、その面から切り込んでいると考えられる遺構が、小区画水田上面及び水田土壌層を除去した段階でも確認された。また、これ以外にも確認できなかった遺構がある可能性も想定される。

### 2 層序

#### (1) 1区

1区の大半では現耕作土、床土を除去すると遺構面でありベースである黄橙色粘土になる。この面では縄文時代から近世にわたる時代の遺構が同一面で確認されており、縄文時代から弥生時代の遺構は特に残存度が悪いいため、相当削平されているものと思われる。1区東部を除く1区全体ではベースのレベルは一定しており標高12m前後である。

#### (2) 2区（1区東部）

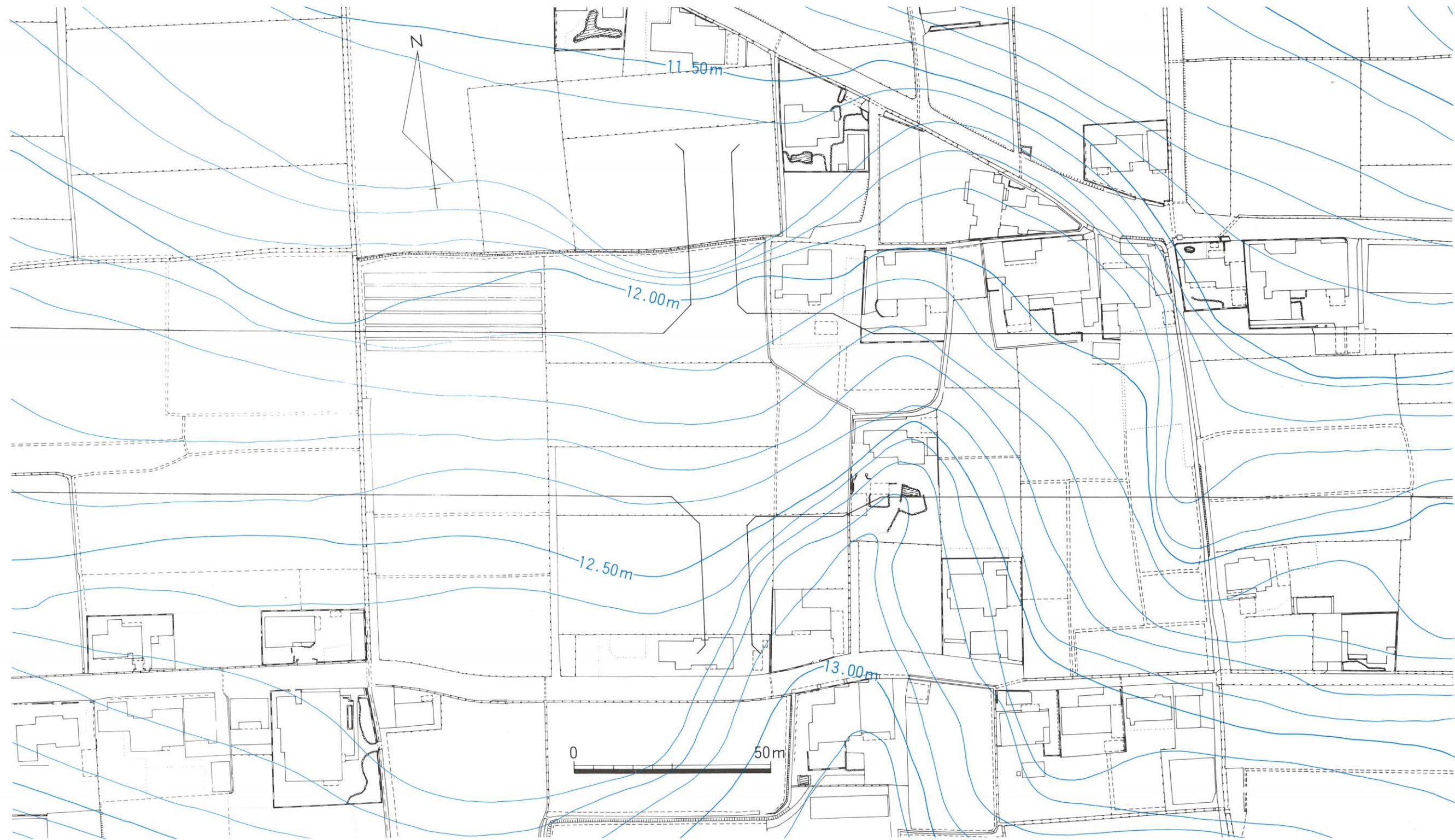
1区東部の層序は、下層で小区画水田が確認されていることもあり層序的には2区の堆積状況と同様であるため、ここでは2区に含めて記述する。

1 a層 現耕作土

1 b層 床土

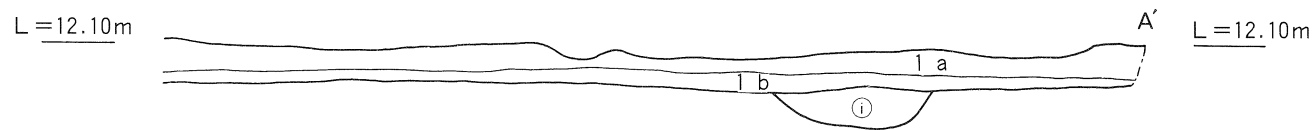
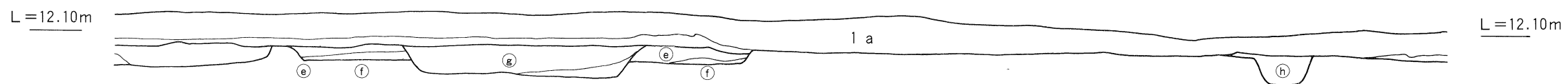
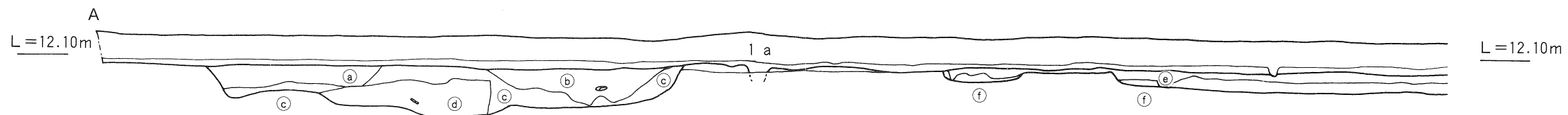
1 c層 にぶい黄褐色粗砂礫（10YR 5/3）及び黄褐色砂礫（2.5Y 5/4）～暗灰黄色砂（2.5Y 3/2）である。この洪水砂は6 a層の小区画水田を破壊しており、砂礫の粒も大きいことより、規模のやや大きなものと考えられる。この洪水砂は伴出遺物がないため時期は不明であるが、弥生時代中期以降と考えられる。

2 a層 黒褐色粘性シルト（2.5YR 3/2）であり1区東部から2区にかけて広がる。厚さは



第5図 浴・長池Ⅱ遺跡周辺微地形図

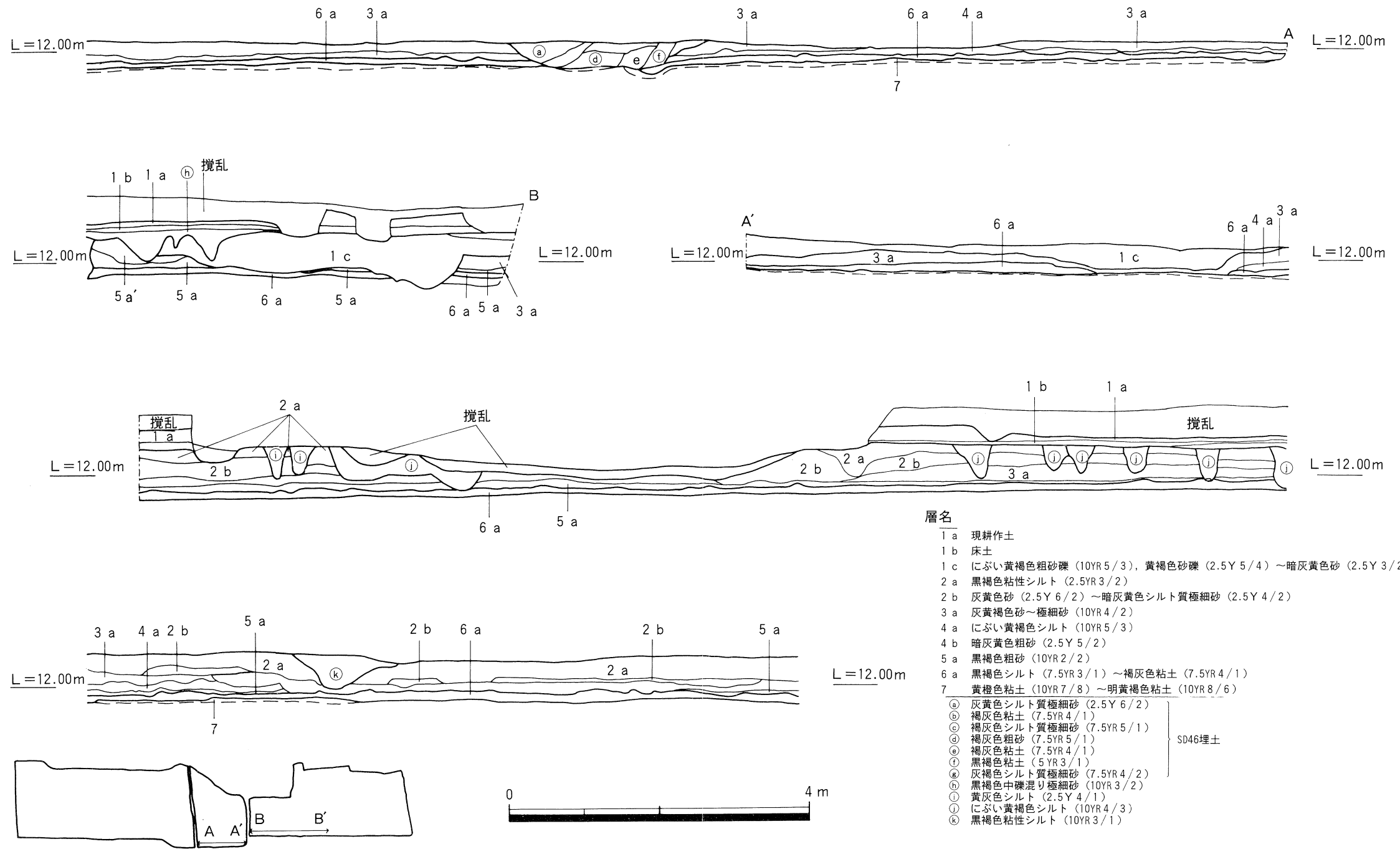




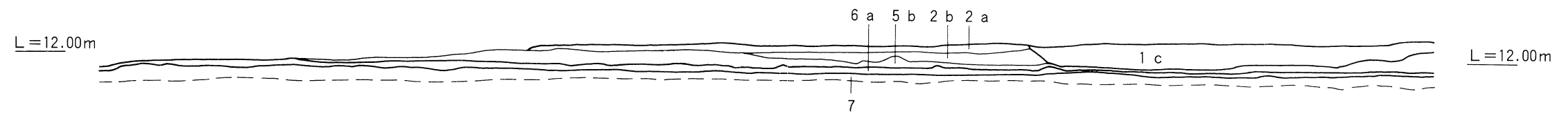
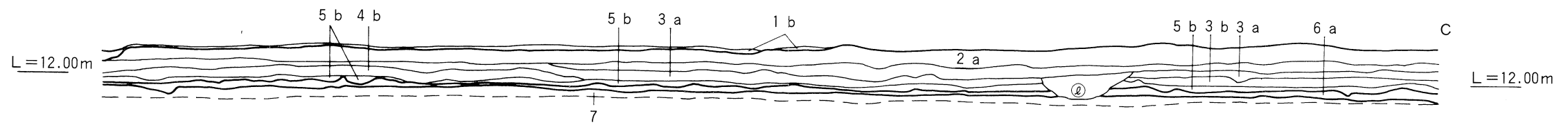
層名

- 1a 現耕作土
  - 1b 床土
  - Ⓐ 灰黄褐色シルト (10YR 6/2)
    - Ⓑ にぶい黄橙色シルト (10YR 7/4)
    - Ⓒ 明黄褐色シルトまじり褐灰色粘性シルト (10YR 6/1)
    - Ⓓ 褐灰色シルト (10YR 6/1)
    - Ⓔ にぶい黄橙色シルト (10YR 7/2)
    - Ⓕ 明褐灰砂質土 (7.5YR 7/1) SD01埋土
    - Ⓖ 灰黄褐色シルト (10YR 6/2) SK01埋土
    - Ⓗ 褐灰色シルト (10YR 5/1) SK18埋土
    - Ⓘ 褐灰白色シルト (10YR 7/1) SK19埋土
- } SK04埋土

第6図 1区西端土層図



第7図 1区東端, 2区土層図(1)



層名  
 Ⓜ 黄灰色粘性シルト (2.5Y 4/1)



第8図 2区土層図(2)

深い部分で30cmを測り、平均20cmの深さをもつ弥生時代中後期の遺構面（第1遺構面）である。

1区東部および2区東部は後世の削平により存在しない。

2b層 灰黄色砂（2.5Y 6/2）～暗灰黄色シルト質極細砂（2.5Y 4/2）である。2区のはほぼ全域で認められる。2区西部が厚く東にいくにしたがい薄くなる。

3a層 灰黄褐色砂～極細砂（10YR 4/2）である。第2遺構面（小区画水田）に切り込まれていた遺構のいくつかはこの面から切り込まれたものと考えられる。この層は1区東部から2区全域にかけて堆積しており平均厚10cm程度である

4a層 にぶい黄褐色シルト（10YR 5/3）である。1区東部及び2区中央に存在する。平均厚10cm程度である。若干土壌化しており水田層である可能性がある。

4b層 暗灰黄色粗砂（2.5Y 5/2）である。2区中央部に堆積する。

5a層 黒褐色粗砂（10YR 2/2）である。6a層（小区画水田）を覆う層であり、1区東部を除く2区全域に広がる。若干土壌化しており畦畔状の盛り上がりも認められることから水田層である可能性がある。

6a層 黒褐色シルト（7.5YR 3/1）～褐灰色粘土（7.5YR 4/1）である。1区東部から2区全域に広がる小区画水田の土壌層である。平均厚10cm程度である。

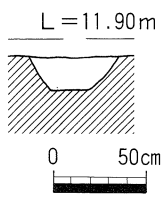
7層 黄橙色粘土（10YR 7/8）～明黄褐色粘土（10YR 8/6）である。調査区全域にわたって広がるベース（地山）である。

#### 注

- (1) 高橋 学「高松平野の環境復原」第63図微地形分類図から『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会 1992年

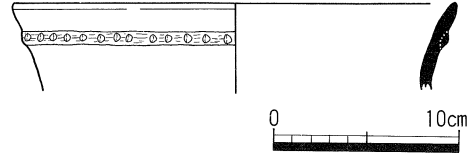
### 第3節 弥生時代前期以前の遺構と遺物

#### (1) SD13 (第9図)



第9図 SD13  
断面図

1区のほぼ中央部で検出された溝でSD14を切る。溝の方位は北北東を向き、ほぼ一直線に流れる。溝幅は0.3~0.48m、深さ0.18~0.24mを測り、埋土は褐灰色砂質土(7.5YR6/1)の単一層である。伴出遺物は縄文時代晩期と考えられる深鉢片が一点のみ出土している。

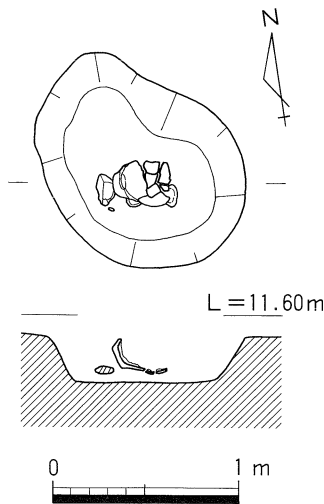


第10図 SD13出土遺物実測図

#### (2) SD14 (第10図)

1区のほぼ中央部で検出された溝でSD13に切られる。溝の方位は北東を向くが、途中で消滅する。溝幅は0.28m、深さ0.04mの規模を測り、埋土は褐灰色シルト(5YR5/1)の単一層である。伴出遺物はないが、前述のSD13に切られていることより同時期のものと考えられる。

#### (3) SK35 (第11図)

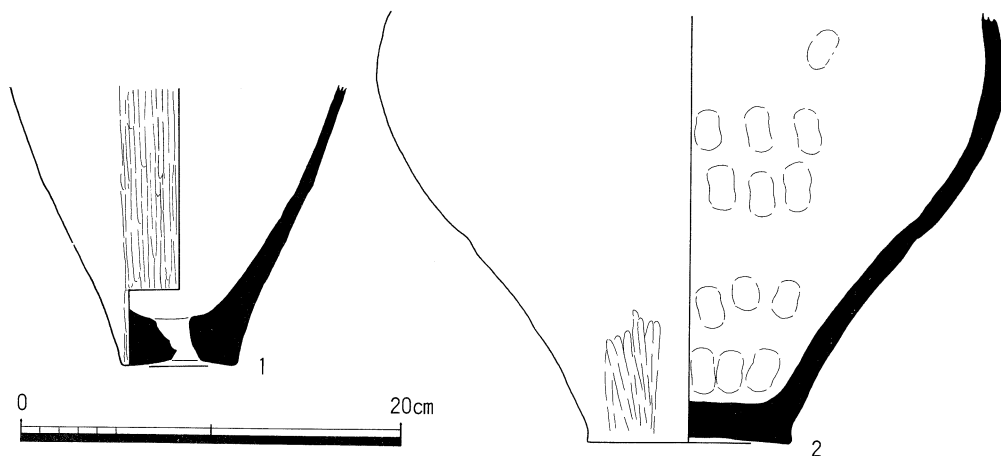


第11図 SK35遺物出土状況図

2区北東部に位置し、下層の小区画水田を検出した段階で確認した土坑である。上層の遺構面では確認できていない。後述する小区画水田を切っていることより、小区画水田の下限を示す遺構でもある。土坑の形態は、不正円形で規模は長軸1.26m、短軸0.96m、深さ0.25mである。土坑内からは、甕の底部と壺胴部から底部の2点が出土しており、これらの土器は、土坑中央部で10~15cm大の河原石数点とまとまって出土した。これらの土器は意図的に配置したような状況は認められなかった。

#### 出土土器 (第12図)

(1)は甕の底部片である。上げ底ぎみの底部から斜め上方に直線的に立ち上がる形態をするもので、砂粒を多く含み、やや厚手の作りである。底部には焼成前の穿孔が穿たれており、土器制作当初から甕としてつくられたものと考えられる。底部から10cm上から煤が確認され、その下の3cm幅が損傷が著しいことより、別の甕と入れ子にして使用していたものと考えられる。外面はヘラミガキ、内面



第12図 SK35出土遺物実測図

はナデ調整を行っている。

(2)は壺の底部から胴部である。上げ底気味の底部からやや外反気味に立ち上がり、胴部が大きくはる形態をし、底部の大きさに比べ胴部が大きいため、全体に不安定である。調整は、底部外面にヘラミガキ後下部ヨコナデ、内面はナデによる指頭圧痕が認められる。(1)と同様、やや厚手のつくりで砂粒を多く含む土器である。

#### (4) 不定形小区画水田 (第14～15図)

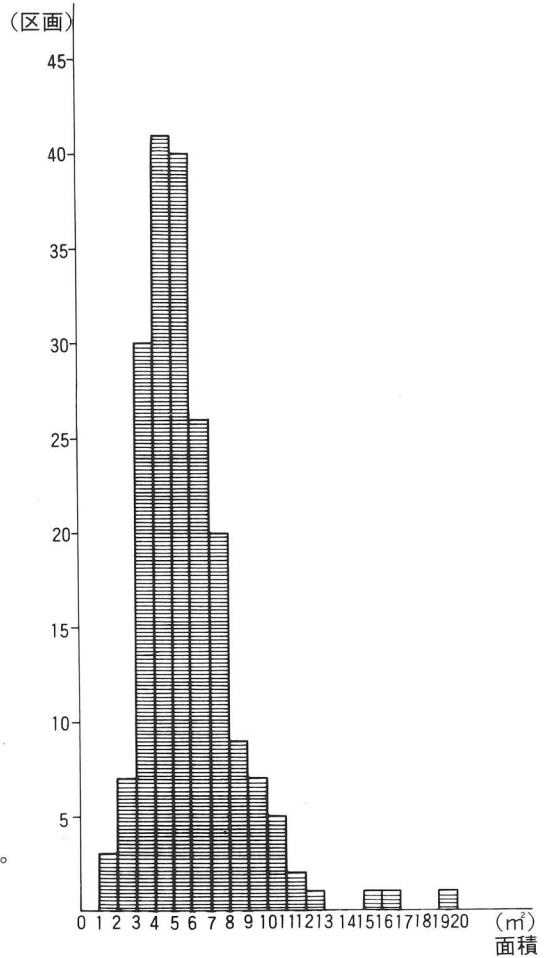
1区東部及び2区全域で確認した水田である。平面的に畦畔を確認したのはこの範囲であるが、水田の土壌層は1区中央部まで確認している。また水田は途切れるが、浴・長池遺跡の1・3区においても同様の水田を確認している。地形的には南西から北東に向かって下る凹地状の窪みに形成されたもので、浴・長池遺跡で確認した香東川の旧河道であるSR01が形成した後背湿地に当たる。検出した水田は標高12.00～11.50mに存在する。層位的には6a層黒褐色シルト(7.5YR 3/1)～褐灰色粘土(7.5YR 4/1)の上面に畦畔が認められ、7層黄橙色粘土が土壌化したものと考えられる。

確認された水田は、不定形な小区画の畦畔、大畦畔、灌漑用水路からなる。基本的な水田区画の畦畔の長軸方向は等高線に直交する形で、若干蛇行するものの、1区東部は北北東方向に、2区は北東方向に長軸を向ける。この長軸方向の畦畔の間に直交する短軸方向の畦畔を設定し、区画を行っているが、区画内で2～3cm程度の比高差で短軸を設定していることより短軸相互の距離は一定ではない。畦畔の規模は幅0.3～0.4m、高さは長軸方向5cm程度、短軸方向は長



軸方向に比べ1～2cm程度低いことから、水の供給は長軸方向を主に行っていたものと考えられる。長軸方向の畦畔は途中から始まるものや、途中で消滅するものもある。区画192、204まで2列あったものが、区画193からは1列になる。逆に区画107までは1列であったものが区画108、111を境に2列になる。同様なものは、区画116から区画117、129に分岐、区画68から区画69、73に分岐するものがみられることより当初の設定から手直したものかもしれない。

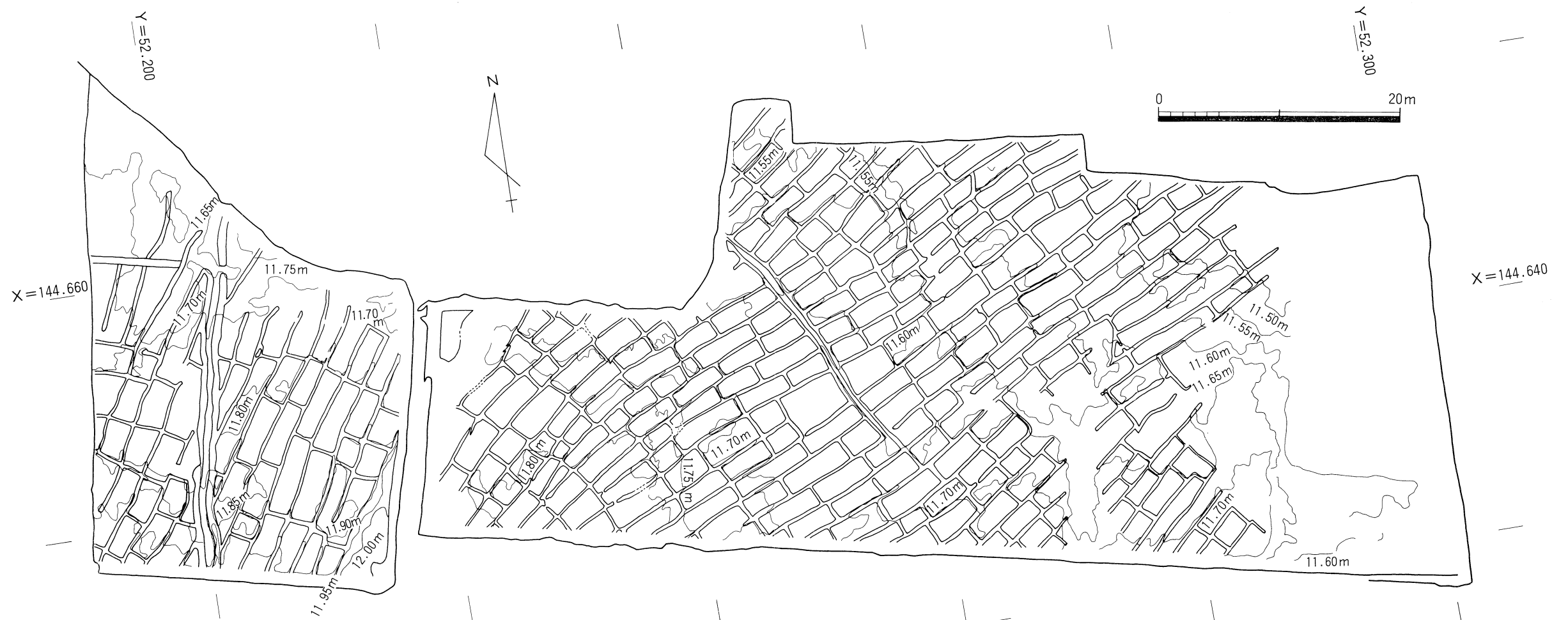
検出された水田の総区画数は315区画確認され、そのうち完全な区画は194区画である。完全な区画の面積の平均は5.76㎡であり、最大のものは区画271の19.0㎡、最小のものは区画118、129の1.3㎡である。1区画の面積は第13図に示したとおりであるが、1区画の面積は4～5㎡が最も多く41区画を数える。また3～8㎡のものが144区画を数え全体の8割強を占める。各水田区画における平均標高をみても最も高い標高が水田区画17の11.96m、最も低い標高が水田区画281の11.47mであり、水田区画17から水田区画281まで直線での距離が100mあるが、比高差が0.49mであり、緩やかな傾斜を利用して水田耕作が行われていたことが想定できる。水田区画の規模と区画内の標高の関係は区画115、147、161の列はまわりの区画よりやや高い標高を示すが、面積はまわりのものより小さい。逆に区画188、200、205、216、230の列は、まわりの区画より低い標高を示すが、面積はまわりのものより大きいことがよみとれる。これは区画188、200、205、216、230の列が谷部に存在するため水が得やすいことも要因しているものと考えられる。



第13図 検出水田面積分布

### 大畦畔

1区東部から2区西部にまたがって存在するもので、2区西部において洪水砂層を充填する溝が存在することより明確なプランは確定できないが幅3m以上、高さ0.1mの規模をもち、土壌化している。この畦畔は水田層と同様な土壌をもつ。畦畔の方向は、1区東部と同様に北北東を向くが北へ行くにしたがい2区と同様に北東を向くものと考えられる。この大畦畔には



第14図 水田遺構図



第15图 不定形小区画水田区画图

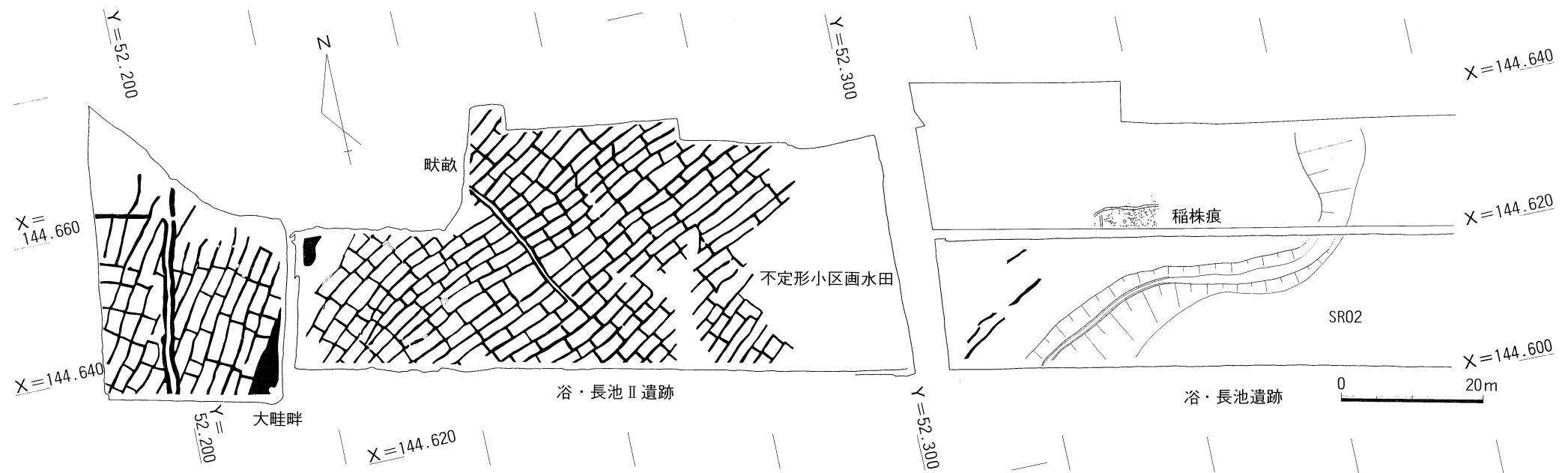
第4表 不定形小区画水田一覽表(1)

No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)	No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)	No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)	No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)
1	(8.0)	11.72	(6.58)	1.31	—	48	10.90	11.84	6.66	1.84	0.02	95	4.20	11.59	3.86	1.20	0.02	142	3.80	11.58	3.20	1.28	0.01
2	(2.78)	11.82	2.84	(0.62)	—	49	8.80	11.82	5.78	1.58	0.01	96	(6.0)	11.58	5.46	1.60	0	143	5.50	11.58	3.84	1.52	0.01
3	(6.25)	11.79	3.52	(2.00)	0.04	50	(7.40)	11.80	(4.82)	1.78	—	97	(0.15)	11.57	(0.50)	(0.60)	—	144	3.10	11.56	2.50	1.50	0.02
4	(7.6)	11.75	2.28	(3.08)	0	51	(3.80)	11.90	(3.64)	1.42	—	98	(2.70)	11.81	(2.58)	1.62	—	145	6.70	11.56	4.90	1.50	0.01
5	(9.8)	11.72	(6.62)	1.86	—	52	12.25	11.80	6.04	2.14	0.05	99	4.56	11.80	2.40	1.90	0	146	(1.30)	11.54	(2.12)	(1.28)	—
6	(11.2)	11.70	(7.08)	2.18	—	53	9.30	11.84	6.0	1.68	0.02	100	4.20	11.78	2.48	1.98	0.03	147	(2.80)	11.78	(2.04)	1.54	—
7	(6.25)	11.87	(5.28)	2.0	—	54	5.90	11.80	4.78	1.72	0.03	101	2.60	11.77	1.86	1.68	0.01	148	5.10	11.78	3.62	1.68	0
8	5.25	11.80	3.18	1.86	0.04	55	(3.80)	11.90	(3.64)	1.42	—	102	3.40	11.80	3.40	1.42	0.02	149	7.80	11.80	5.46	1.68	0.02
9	6.25	11.75	3.52	1.76	0.01	56	6.70	11.85	5.82	1.34	0	103	6.30	11.73	4.56	1.52	0.04	150	5.50	11.80	4.34	1.60	0.02
10	3.90	11.75	2.26	1.88	0.02	57	3.25	11.85	2.24	1.84	0	104	4.40	11.71	3.04	1.54	0.02	151	4.60	11.73	3.48	1.34	0.05
11	(10.50)	11.70	(7.02)	1.58	—	58	6.0	11.82	3.98	1.80	0.01	105	2.75	11.70	2.12	1.88	0.01	152	4.30	11.68	3.84	1.50	0.02
12	(0.50)	11.94	(1.14)	(0.56)	—	59	5.30	11.80	(4.38)	1.50	—	106	(1.73)	11.68	(2.04)	(1.70)	—	153	5.0	11.65	3.66	1.60	0.02
13	(10.0)	11.89	6.84	1.78	0.08	60	(3.40)	11.90	2.50	1.88	—	107	(7.69)	11.65	6.10	2.52	0.04	154	6.10	11.65	4.10	1.52	0.07
14	5.25	11.77	3.62	1.98	0.03	61	8.40	11.88	5.84	1.62	0.03	108	5.0	11.60	4.12	1.40	0.02	155	4.25	11.62	2.60	1.70	0.02
15	7.30	11.76	3.78	2.30	0.01	62	4.10	11.87	2.28	2.0	0	109	6.80	11.59	5.48	1.34	0.01	156	3.80	11.60	3.16	1.46	0.01
16	(14.50)	11.70	9.44	1.88	0.07	63	(5.50)	11.85	2.38	2.26	0.04	110	(4.50)	11.56	3.18	1.68	—	157	4.10	11.58	3.30	1.42	0.01
17	(0.70)	11.96	(0.54)	1.64	—	64	(3.20)	11.81	(3.96)	(1.46)	—	111	4.50	11.63	3.16	1.72	0.02	158	3.0	11.57	2.74	1.38	0.01
18	4.6	11.93	3.46	1.62	0.01	65	(3.50)	11.54	(2.96)	(1.68)	—	112	4.40	11.62	2.44	2.06	0.01	159	5.90	11.55	4.88	1.38	0.03
19	5.0	11.88	3.46	1.74	0.04	66	(5.70)	11.85	(6.0)	(1.9)	0.06	113	6.25	11.60	3.80	1.74	0.02	160	5.90	11.55	(4.24)	1.54	—
20	7.50	11.80	3.74	2.24	0.05	67	7.0	11.77	4.72	1.62	0.01	114	(7.25)	11.56	(4.72)	1.62	—	161	(1.07)	11.82	(1.45)	(1.48)	—
21	(18.50)	11.79	6.08	2.48	0.01	68	5.40	11.74	2.68	2.32	0.02	115	(0.20)	11.80	(0.54)	(0.74)	—	162	(6.0)	11.77	3.88	(1.96)	0.01
22	(1.60)	11.78	2.48	0.94	0.01	69	(3.50)	11.70	2.84	1.82	0.02	116	(4.60)	11.77	3.68	1.78	0.02	163	(4.80)	11.77	5.86	1.10	0.02
23	(1.0)	11.93	0.78	1.62	—	70	(0.26)	11.62	(0.65)	(0.80)	—	117	4.10	11.80	3.54	1.14	0.01	164	2.70	11.82	2.58	1.42	0.02
24	6.25	11.88	3.88	1.92	0.05	71	(0.50)	11.57	(0.74)	(0.90)	—	118	1.30	11.80	1.38	1.08	0.02	165	4.0	11.69	3.00	1.46	0.02
25	5.50	11.80	3.02	2.06	0.04	72	(8.60)	11.55	(6.14)	(1.88)	—	119	2.80	11.81	2.52	1.30	0.02	166	4.50	11.69	3.34	1.56	0
26	(5.25)	11.79	5.04	1.48	0.01	73	4.80	11.68	3.28	1.80	0.05	120	6.20	11.75	4.26	1.62	0	167	7.25	11.67	5.34	1.60	0.01
27	(1.55)	11.80	3.0	1.10	—	74	(1.50)	11.64	(0.98)	1.80	—	121	7.0	11.78	4.62	1.82	0.01	168	3.60	11.65	2.66	1.48	0.01
28	(6.10)	11.76	(4.12)	1.62	—	75	(2.50)	11.59	2.72	1.44	—	122	5.17	11.67	3.64	1.42	0.04	169	5.30	11.63	3.22	1.74	0.01
29	(7.50)	11.90	(3.84)	2.26	—	76	4.50	11.54	3.60	1.58	0.02	123	8.25	11.66	5.64	1.64	0.02	170	4.30	11.59	2.88	1.68	0.01
30	(1.75)	11.80	3.32	0.70	0.03	77	(0.90)	11.54	(0.98)	(0.82)	—	124	5.20	11.62	3.60	1.54	0.01	171	4.40	11.58	3.62	1.34	0
31	(5.90)	11.79	6.0	1.48	0.02	78	(11.50)	11.85	(4.24)	(1.82)	—	125	3.70	11.63	2.68	1.60	0.02	172	3.60	11.56	3.46	1.36	0.02
32	(6.20)	11.77	4.44	1.64	—	79	(8.0)	11.82	4.42	2.02	0.04	126	6.50	11.58	3.76	2.00	0.02	173	4.20	11.54	3.94	1.38	0.01
33	(1.23)	11.90	1.74	1.48	—	80	8.40	11.78	4.72	2.12	0.05	127	11.50	11.55	5.24	2.18	0.01	174	(5.75)	11.54	(4.28)	1.48	—
34	(0.70)	11.78	2.0	0.68	0.01	81	3.20	11.74	2.34	1.78	0.03	128	(3.10)	11.54	2.24	2.34	—	175	5.60	11.80	4.88	1.34	0.04
35	(15.40)	11.79	10.48	1.52	0.01	82	5.80	11.68	3.50	1.64	0.03	129	1.30	11.78	3.46	0.88	0	176	3.40	11.80	2.54	1.74	0.03
36	(7.0)	11.74	4.28	2.24	—	83	(2.60)	11.64	(2.0)	1.78	—	130	5.0	11.80	4.48	1.38	0	177	8.50	11.68	5.14	1.78	0
37	(9.50)	11.80	7.30	2.02	0.08	84	(5.30)	11.59	4.30	1.52	—	131	2.0	11.74	1.80	1.52	0.01	178	6.50	11.69	4.24	1.44	0.02
38	8.70	11.82	5.52	1.84	0.01	85	(9.0)	11.56	5.46	1.70	—	132	3.55	11.77	2.72	1.50	0.01	179	4.30	11.67	3.52	1.44	0.02
39	7.10	11.80	3.98	1.82	0.02	86	(7.57)	11.81	3.90	1.94	—	133	4.0	11.77	2.84	1.54	0.03	180	4.0	11.63	2.86	1.70	0.03
40	(7.60)	11.75	3.86	2.12	—	87	6.0	11.82	3.02	2.04	0.08	134	1.40	11.68	1.28	1.52	0.06	181	3.40	11.61	2.80	1.42	0.02
41	(4.60)	11.93	(2.88)	2.02	—	88	5.20	11.82	2.68	2.30	0.03	135	7.30	11.67	5.22	1.48	0.01	182	3.50	11.61	2.92	1.36	0.01
42	3.20	11.86	1.78	2.08	0.02	89	9.20	11.78	4.74	2.48	0.01	136	4.50	11.66	3.34	1.78	0.01	183	6.0	11.58	4.32	1.80	0.03
43	7.80	11.80	4.52	2.12	0.03	90	6.40	11.72	4.40	1.80	0.05	137	4.90	11.62	3.44	1.78	0.03	184	7.25	11.55	4.72	1.98	0.01
44	7.20	11.84	5.28	1.62	0.03	91	6.30	11.66	3.62	1.94	0.03	138	6.25	11.61	3.42	2.04	0.02	185	5.50	11.54	3.54	1.78	0.02
45	5.80	11.80	3.92	1.48	0.01	92	(1.25)	11.62	(1.54)	(1.60)	—	139	5.20	11.58	4.26	1.28	0.02	186	4.35	11.54	2.98	1.78	0.01
46	(6.30)	11.77	(5.08)	1.88	—	93	(2.09)	11.60	(2.20)	(1.90)	—	140	6.70	11.57	4.44	1.58	0.01	187	(0.90)	11.52	(1.04)	(1.32)	—
47	(8.50)	11.88	(4.98)	1.98	—	94	3.70	11.59	2.68	1.58	0.01	141	(6.80)	11.54	4.76	1.58	—	188	(2.60)	11.76	(2.86)	2.02	—

第5表 不定形小区画水田一覧表(2)

No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)	No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)	No	面積(m <sup>2</sup> )	平均標高(m)	長辺(m)	短辺(m)	比高差(m)
189	7.40	11.80	5.38	1.82	0.07	236	4.20	11.60	3.70	1.48	0.03	283	6.40	11.70	4.34	1.80	0.02
190	3.50	11.69	2.16	2.30	0	237	5.10	11.55	4.28	1.42	0.05	284	7.0	11.66	4.36	1.82	0.04
191	10.75	11.70	4.90	2.34	0	238	4.40	11.54	4.14	1.40	0.02	285	(2.57)	11.65	(1.35)	(1.90)	-
192	4.70	11.68	2.54	2.18	0.02	239	9.0	11.52	6.94	1.62	0.04	286	(4.48)	11.60	(2.70)	(1.66)	-
193	16.25	11.66	5.00	3.50	0.03	240	4.75	11.48	3.52	1.72	0.02	287	7.25	11.57	4.90	1.68	0.03
194	9.50	11.61	3.96	2.74	0.01	241	(6.0)	11.48	(5.78)	1.22	-	288	(2.12)	11.61	(0.60)	3.54	-
195	8.60	11.60	4.30	2.38	0.01	242	(0.40)	11.72	(1.30)	(0.94)	0.01	289	(1.30)	11.74	(1.84)	1.60	-
196	10.50	11.57	5.46	2.08	0.04	243	(5.10)	11.71	3.88	1.62	0.03	290	4.60	11.71	3.40	1.64	0.02
197	10.70	11.55	5.22	2.30	0.03	244	6.0	11.68	4.12	1.52	0.03	291	(4.90)	11.68	3.16	1.70	-
198	10.25	11.53	4.98	2.58	0.01	245	5.80	11.66	3.54	1.98	0.03	292	(7.0)	11.64	3.92	1.92	-
199	(4.80)	11.53	3.80	1.66	0.02	246	5.40	11.64	3.12	1.98	0.06	293	7.25	11.59	4.78	1.84	0
200	(0.08)	-	(0.44)	(0.38)	-	247	11.80	11.60	8.72	1.50	0.07	294	(0.25)	11.72	(0.74)	(0.62)	-
201	(5.80)	11.75	4.42	1.64	0.02	248	7.60	11.56	6.58	1.46	0.03	295	(3.10)	11.72	2.14	1.68	0.02
202	5.0	11.72	3.96	1.52	0.02	249	9.70	11.51	8.46	1.18	0.02	296	(2.90)	11.68	(4.40)	(1.88)	-
203	5.40	11.69	4.08	1.54	0	250	4.10	11.48	3.04	1.58	0.04	297	(5.20)	11.64	(3.84)	1.68	-
204	3.70	11.70	2.52	1.78	0.03	251	(9.75)	11.47	(5.0)	(1.95)	-	298	(13.80)	11.62	(6.64)	2.58	0
205	(6.0)	11.73	(5.14)	1.52	-	252	(0.60)	11.72	(1.70)	(1.10)	-	299	(1.40)	11.76	(1.50)	(1.36)	-
206	7.80	11.72	6.54	1.54	0.12	253	(7.30)	11.70	4.50	2.26	0	300	(0.70)	11.75	(1.80)	(1.36)	-
207	6.70	11.69	5.42	1.54	0.04	254	7.60	11.68	5.20	2.03	0.01	301	(2.50)	11.66	(2.70)	1.32	-
208	5.70	11.62	4.40	1.56	0.03	255	6.50	11.66	4.22	1.80	0.02	302	3.60	11.64	2.50	1.42	0.03
209	6.20	11.60	4.58	1.68	0.01	256	5.30	11.63	3.60	1.82	0.04	303	(2.70)	11.69	(1.98)	1.48	-
210	3.40	11.59	2.98	1.32	0.04	257	5.90	11.56	3.78	1.84	0.07	304	(3.20)	11.66	3.10	1.34	0.01
211	3.30	11.55	3.20	1.28	0.01	258	4.20	11.57	3.82	1.12	0.01	305	3.40	11.64	3.34	1.28	0.02
212	5.10	11.55	4.42	1.34	0.02	259	4.60	11.54	3.58	1.22	0.01	306	3.60	11.69	2.92	1.60	-
213	2.95	11.53	2.58	1.32	0	260	15.90	11.48	11.20	1.82	0.03	307	5.40	11.65	4.16	1.66	0.02
214	5.20	11.53	4.40	1.58	0.02	261	(0.66)	11.48	(1.20)	(1.10)	0	308	4.70	11.64	2.06	1.84	0.02
215	4.70	11.50	2.78	1.82	0.03	262	(3.30)	11.72	2.30	1.24	-	309	(7.70)	11.68	(7.50)	1.42	-
216	(0.15)	-	(0.54)	(0.55)	-	263	2.40	11.70	2.26	1.42	0.02	310	(8.25)	11.67	(7.54)	1.30	-
217	(6.0)	11.72	4.20	1.74	0	264	4.60	11.69	3.76	1.68	0.02	311	(2.70)	11.69	(2.34)	1.46	-
218	5.0	11.70	3.62	1.60	0.03	265	4.30	11.69	3.06	1.64	0.03	312	(4.30)	11.69	(3.30)	1.42	-
219	9.20	11.69	5.80	1.92	0.04	266	5.40	11.65	3.64	1.66	0.03	313	(1.50)	11.69	(0.88)	1.60	-
220	5.50	11.66	2.82	2.02	0.02	267	(4.37)	11.61	3.10	(0.92)	0.07	314	3.80	11.69	2.64	1.82	0.03
221	6.60	11.63	4.14	1.92	0.05	268	(4.06)	11.56	3.50	(1.40)	0.01	315	(4.90)	11.71	3.50	1.40	-
222	5.30	11.62	3.86	1.70	0.01	269	3.70	11.55	2.66	1.84	0.02						
223	6.0	11.58	3.44	2.10	0.02	270	(0.52)	11.56	0.90	1.16	0.02						
224	5.25	11.55	3.00	2.22	0.02	271	19.0	11.54	13.0	1.64	0.07						
225	8.60	11.53	5.16	2.04	0.02	272	(2.80)	11.48	3.20	1.75	0.01						
226	8.75	11.52	5.80	1.76	0.03	273	(2.50)	11.72	(2.85)	1.96	-						
227	4.25	11.48	3.54	1.78	0.01	274	6.20	11.70	4.04	1.72	0.02						
228	(5.0)	11.48	2.56	1.82	0	275	4.80	11.70	3.38	1.68	0.02						
229	(0.50)	11.48	1.21	0.92	-	276	3.10	11.65	2.12	1.74	0.03						
230	(2.10)	11.70	(3.34)	(1.38)	-	277	(4.08)	11.65	(2.40)	1.70	0.01						
231	7.60	11.71	5.26	1.64	0.03	278	(3.70)	11.57	(3.48)	1.46	0						
232	7.80	11.67	5.00	2.04	0.05	279	9.60	11.55	7.74	1.46	0.01						
233	3.70	11.68	2.30	1.68	0.04	280	3.80	11.51	3.86	1.28	0.02						
234	4.60	11.64	3.22	1.82	0.01	281	(4.07)	11.47	(3.34)	1.22	0.02						
235	3.80	11.63	2.64	1.74	0.01	282	(1.90)	11.72	(2.35)	1.60	-						

最大面積19.0m<sup>2</sup> (区画271)  
 最小面積 1.3m<sup>2</sup> (区画118, 129)  
 平均面積 5.76m<sup>2</sup> (少数点第3位を切り上げ)  
 最高標高11.96m (区画17)  
 最低標高11.47m (区画281)



第16図 浴・長池遺跡、浴・長池Ⅱ遺跡水田遺構図



灌漑用水路は作られていないことから農道？として利用されていた可能性がある。

小区画水田区画に取り込まれる形で水路が存在する。水路は2区中央部に北西―南東方向に存在する。北西は調査区外へ逃げ、南東方向は区画で吸収される。水路の規模は幅0.3m、深さ2cm程度、水路になる畦畔は幅0.3～0.4m、と周辺の畦畔との違いは認められない。水路内の標高は区画136付近が最も高く11.68m、北西端が11.61m、区画233では11.64mであり、最も高い部分を通ってきた水が、両側の低い部分に水を供給する補助的な灌漑用水路であると考えられる。検出した水田面からは、この水田に伴う灌漑用水路を確認していない。

小区画水田の水の供給は、水田区画の数カ所で水口を確認しているが、すべての区画で存在しているわけではない為、水配りの大半は水口で行われるのではなく短軸方向の畦畔を中心にして『畔越え』もしくは『掛け流し』によって水を供給していたものと考えられる。この場合標高の高い列の水田から水が入り、低い列の水田へと流れていると考えられる。

小区画の水田が機能を失うのは上層の5a'層である洪水砂の堆積によるのが原因と考える。この5a'層からは時期が決定できる伴出遺物がないため、洪水砂の時期は特定できないが、水田土壌層を切り込むSK35から弥生時代前期新段階と考えられる壺底部～体部片と甕底部から胴部片が出土していることから、このころの洪水砂によって小区画水田は機能を失っていると考えられるが、水田層はそれよりも古くさかのぼれるものと考えられる。

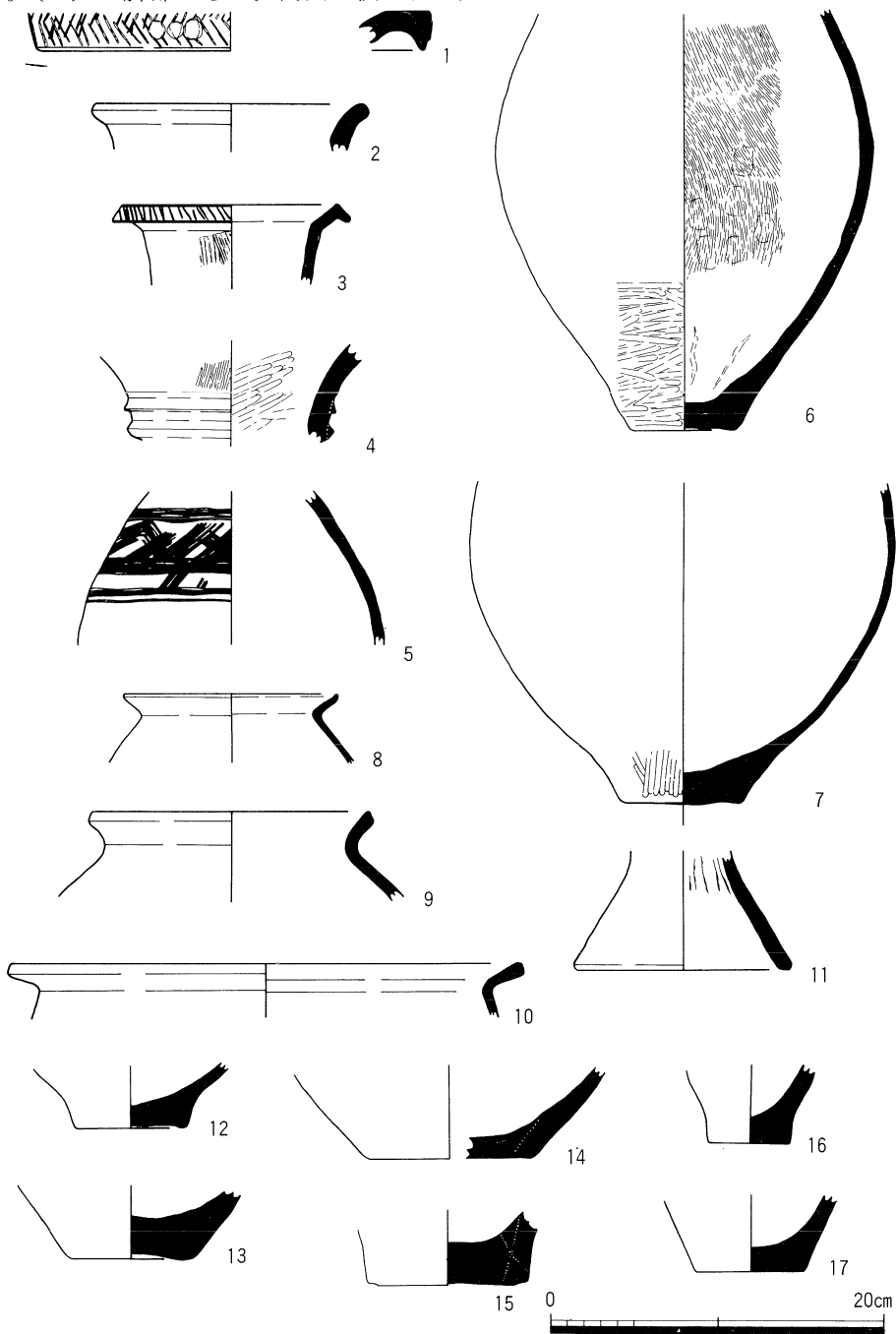
東側の浴・長池遺跡でも同様の水田が確認され、水田横の旧河道から縄文時代晩期から弥生時代前期古段階の土器とともに木製の鋤が確認され、これより東へ1kmの林・坊城遺跡でも縄文時代晩期の農耕具が確認されていることから、古くさかのぼる可能性は十分考えられる。

#### (5) 洪水砂層出土土器 (第17図)

第1遺構面で遺構を検出した後、水田層を検出するまでに出土した土器である。層序の稿でも記述したが、第1遺構面から水田層まで少なくとも3面の土壌層を確認していることや、破片の大きなものも認められることより、それらの面に切り込まれた遺構の伴出遺物である可能性が高い。

これらの土器は弥生時代前期末から中期中葉の時期に属するものと考えられる。(1～7)は壺である。(1)は広口壺である。大きく外反する口縁部をもち、端部は肥厚し下方に垂れ下がる。口縁部外面に、綾杉文、円形浮文を施す。(2)は短く外反する口縁部をもつ広口壺である。(3)は斜め上方に立ち上がる口縁をもち、端部は折り返し下方に垂れる広口壺である。口縁端部外面に刻目文を施す。(4)は広口壺の頸部片である。頸部に張り付け突帯文がみられる。(5)は壺体部片である。体部上半部に櫛描直線文、櫛描波状文が交互に施される。(6)は壺体部から底部である。高さの割に胴部が張らない形態をする。外面底部にヘラミガキ、内

面にハケメが施されている。(7)は壺の体部から底部である。やや胴部の張る形態をする。底部外面にヘラミガキが認められる。(8~10)は甕である。(8、9)口径の割に胴部の張る形態をする。(11)は脚部である。内面に絞り目が見られる。(12~17)は底部である。



第17図 洪水砂層出土遺物実測図

## 第4節 弥生時代中・後期の遺構と遺物

### (1) SH01 (第18図)

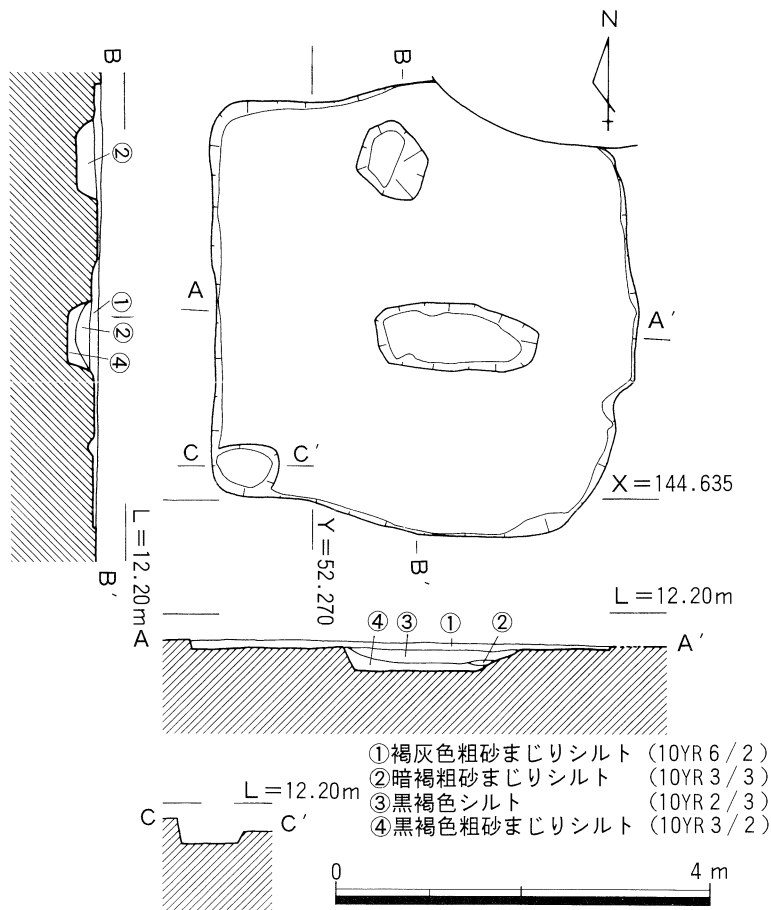
2区のはぼ中央部で確認した竪穴住居である。平面形態は隅丸方形を呈し、住居内には3つのピットが存在する。竪穴住居の規模は南北4.74m、東西4.55m、深さ0.1mを測り、残存状況はあまりよくない。住居内の土層埋土は1層のみで5~10cm大の礫を含む灰褐色粗砂混じりシルト(10YR 6/2)である。

北側のピットは平面形態が不正円形で、規模は長軸1.08m、短軸0.66m、深さ1.06mを測る。土層埋土は5~10cm大の礫を含む暗灰褐色粗砂混じりシルト(10YR 3/3)である。

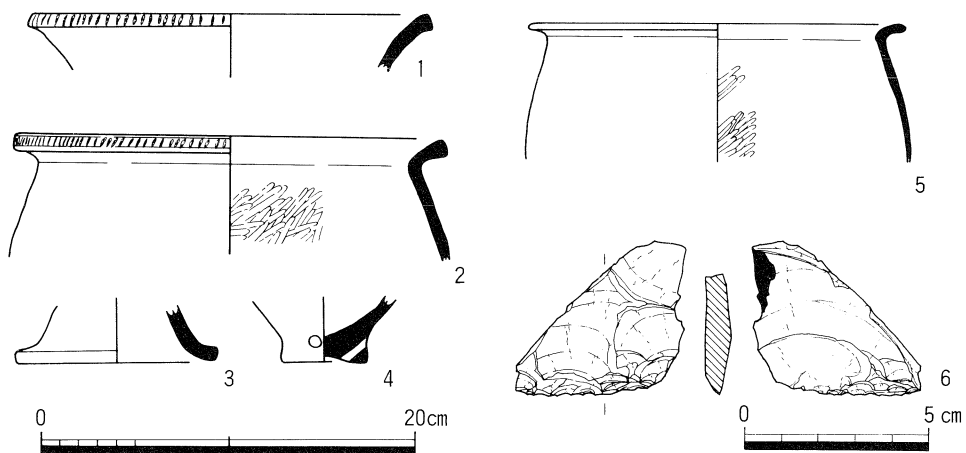
中央ピットは、平面形態は東西に長い楕円形で、規模は長軸1.80m、短軸0.70m、深さ0.198mを測る。土層埋土は3層あり、(1) 5~10cm大の礫を含む暗褐色粗砂混じりシルト(10YR 3/3)、(2) 黒褐色シルト(10YR 2/3)、(3) 5~10cm大の礫を含む黒褐色粗砂混じりシルト(10YR 3/2)である。

南西のピットは、平面形態は楕円形で、規模は長軸0.70m、短軸0.55m、深さ0.10mを測る。このうち遺物が出土しているのは北側のピットと中央ピットである。床面からはこれらのピット以外柱穴と考えられるものは確認しておらず、どのような建物構造になるのか不明である。

(1)~(4)は中央ピット出土土器である。(1)は広口壺である。口縁部が若干肥厚する形態をし、口縁端部に刻目文を施す。(2)は甕である。口縁端部が大きく肥厚するもので、肥



第18図 SH01実測図

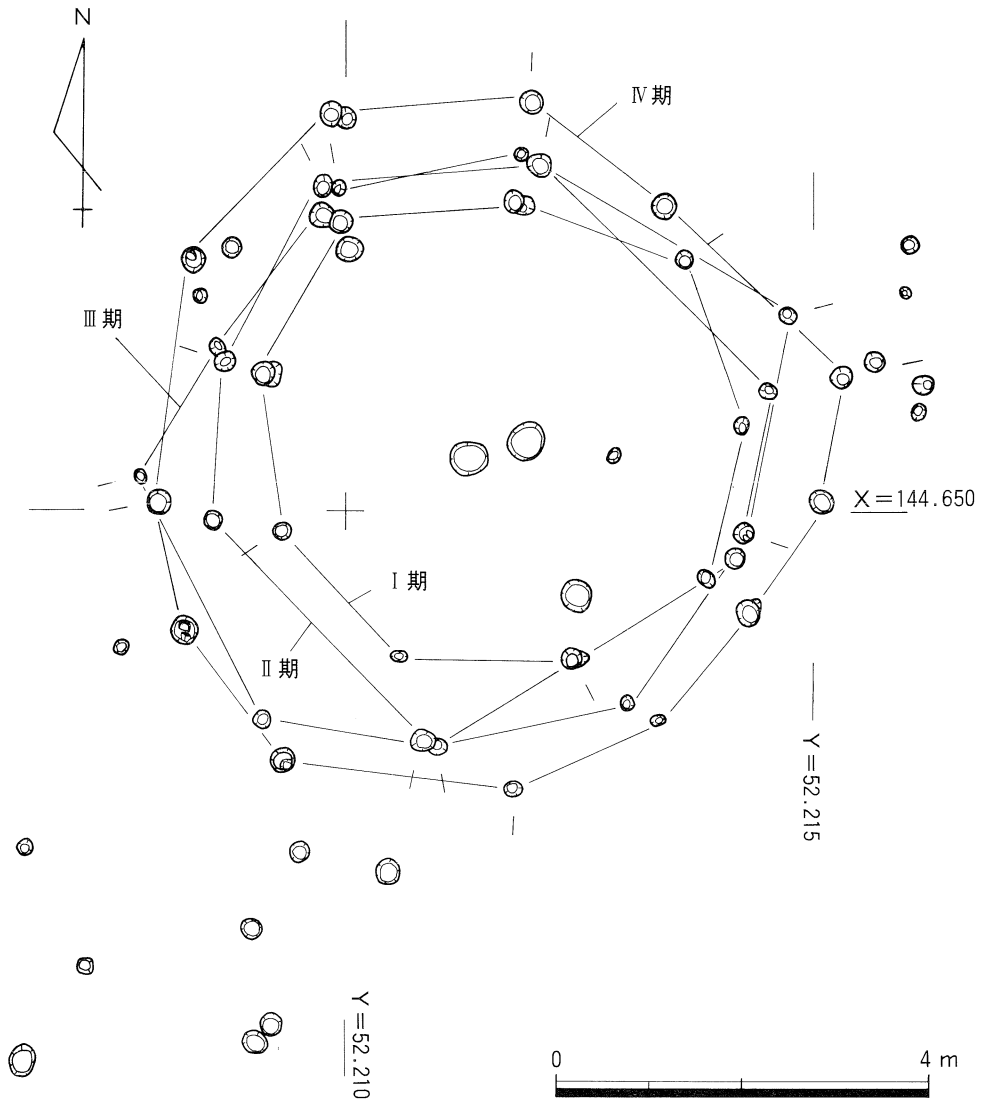


第19図 SH01出土遺物実測図

厚した端面に刻目文を施す。胴部はあまり張らないものと考えられる。調整は外面には磨滅の為確認できず、胴部内面にヘラミガキを施す。(3)は高坏の脚部である。(4)は甕の底部である。吊り下げ用の穿孔が認められる。(5)は北側ピットから出土した甕である。口縁部がやや外反し、胴部が張らない形態をする。調整は胴部内面にヘラミガキが認められる。

## (2) SH02 (第20～24図)

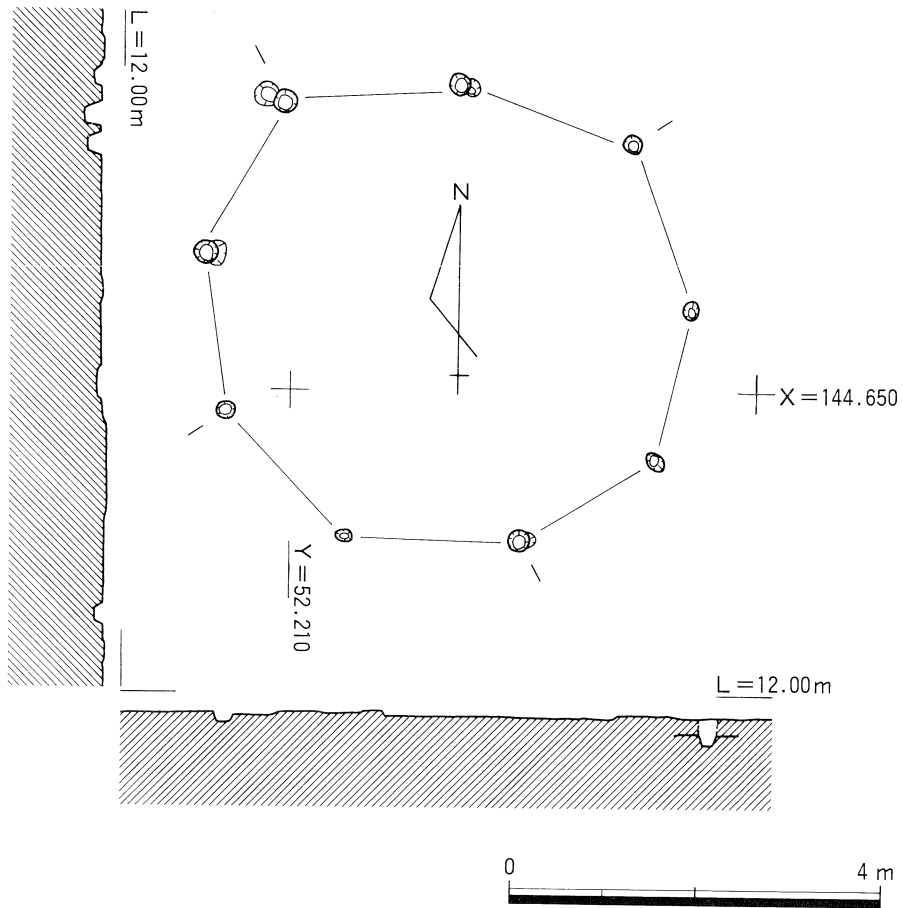
1区東端において確認した竪穴住居である。第1遺構面のベースである灰黄色シルト質極細砂上面において炭化材等が散見されたため、上面精査及びトレンチによって土層観察を行ったが、ベース面と遺構と考えられる土層埋土が酷似していたため、上面において明確なプランを把握することができず、上面において検出することを断念した。第一次調査の第2遺構面である水田面の上面を検出した段階、および水田土壌層を除去した段階でもベース面において相当数のピットを確認した。これらのピットの広がりには当初考えていたものより広がりを見せた。水田面の上面及びベース面で確認したこれらのピットを検討した結果、同心円上にピットが拡張していったことが認められることよりピット等の規模及び距離等を検討した結果、これらのピットをI～IV期に分けて説明する。ただ前述したとおりピットのみを検出であるため、この組み合わせについては、推定の域を出ない。SH02のピットの広がり、後述する竪穴住居に比べ一回り大きく、最低四回程度の立て替えが考えられることよりこの集落の中心的な建物の可能性がある。これらのピットからの伴出遺物は弥生土器の細片のみで、時期を特定できる遺物は出土していないため正確な時期は判明しないが、周辺の遺構等の状況から弥生時代中期頃の時期が考えられる。



第20図 SH02実測図

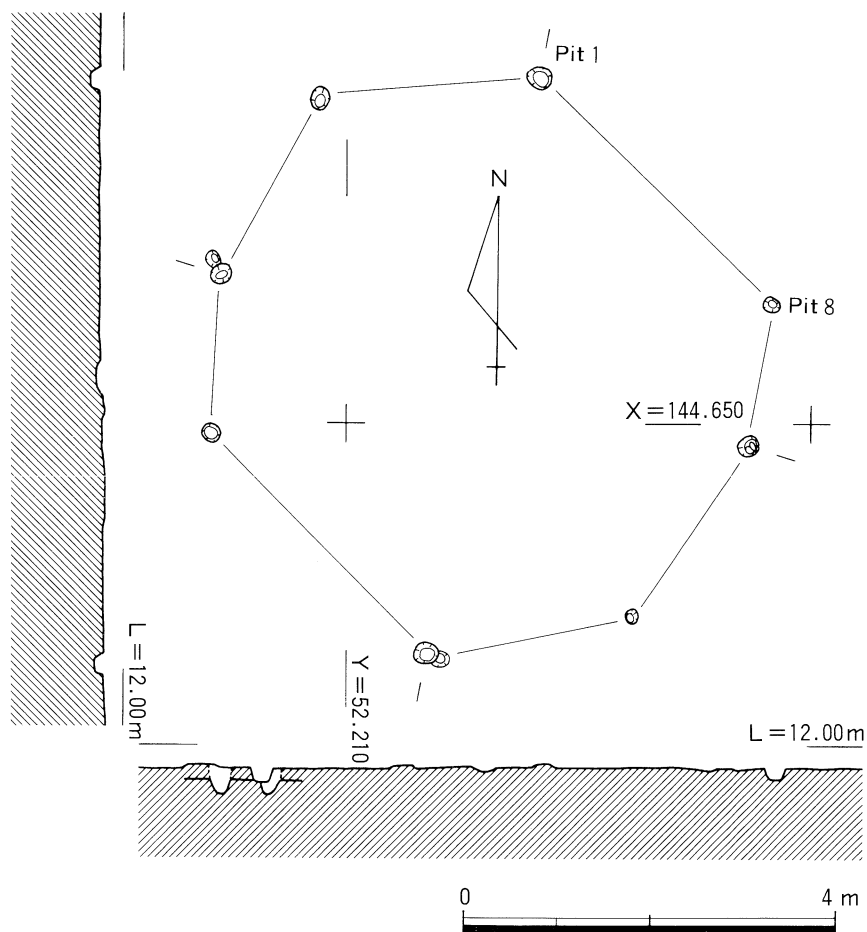
SH02- I 期 (第21図)

主柱穴は9穴である。柱穴間の距離は2 m前後でほぼ一定である。柱穴規模は直径17~25cm、深さ6~34cmと一定ではない。中央に存在する2つのうちの 하나가中央ピットになる可能性がある。



第21図 SH02- I 期実測図

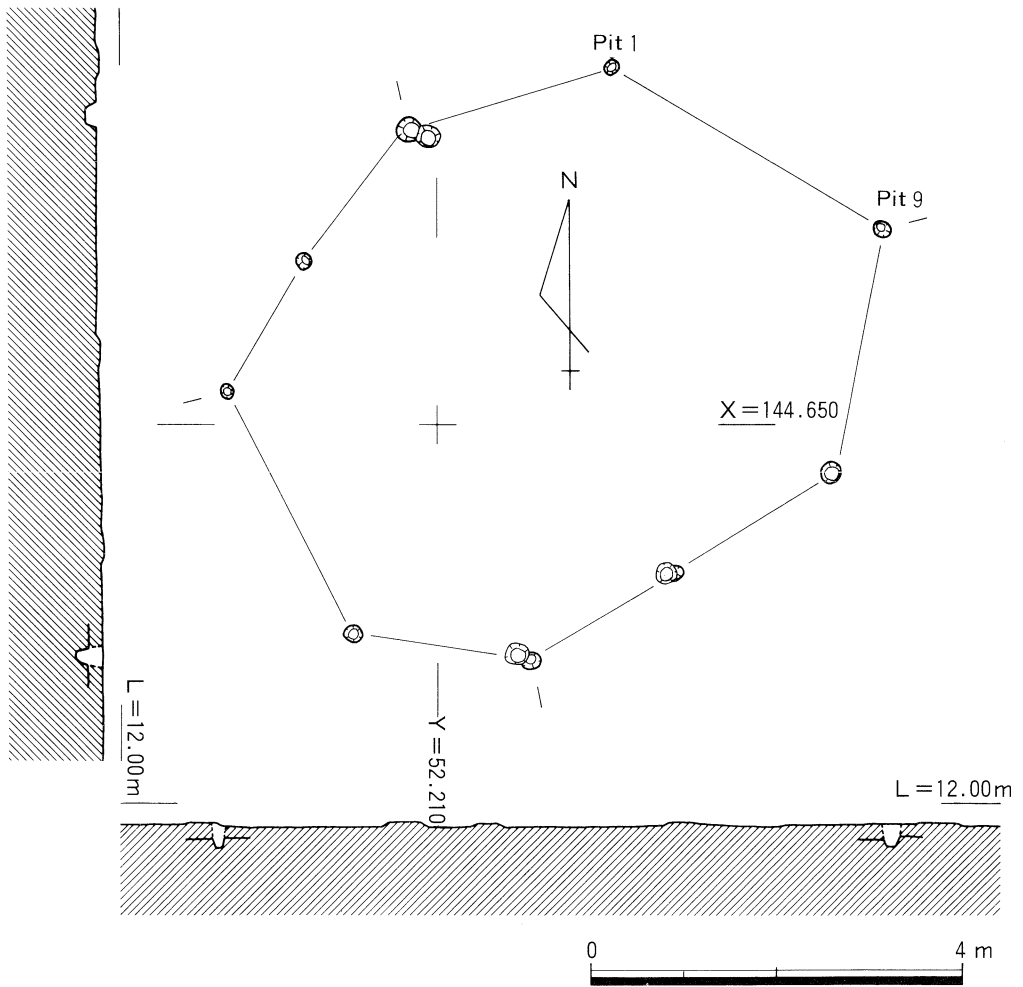




第22図 SH02-Ⅱ期実測図

SH02-Ⅱ期（第22図）

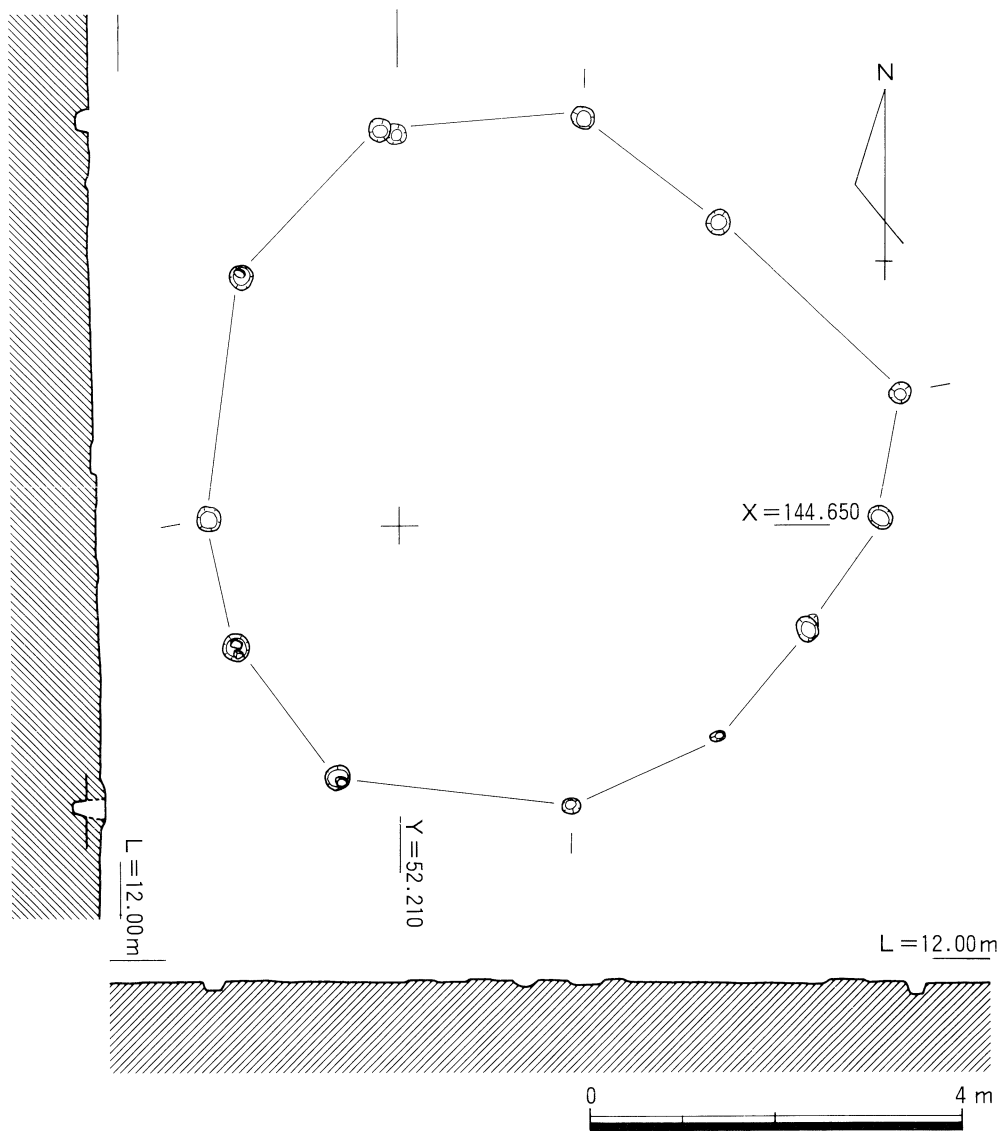
支柱穴は8穴であり、ピット4からピット5とピット8からピット1間が他の柱穴間に比べ長い。柱穴規模は直径15~26cm、深さ6~18cmと一定ではない。I期と同様、中央の2つのピットのうち一つが中央ピットの可能性がある。



第23図 SH02-Ⅲ期実測図

SH02-Ⅲ期（第23図）

主柱穴は9穴でありピット4からピット5とピット9からピット1間が他の柱穴間に比べ長い。柱穴規模は直径15～22cm、深さ5～18cmと一定ではない。I・II期と同様、中央の2つのピットのうち一つが中央ピットの可能性がある。

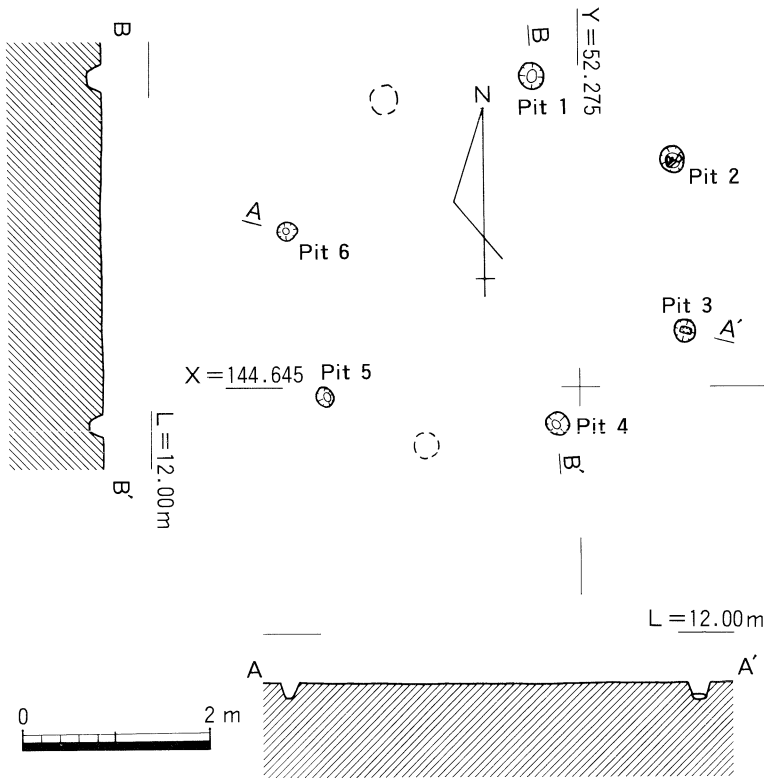


第24図 SH02-Ⅳ期実測図

SH02-Ⅳ期（第24図）

主柱穴は12穴であり、建物の規模は最大になる。柱穴規模は直径16~30cm、深さ3~19cmと一定ではない。Ⅰ~Ⅲ期同様、中央のピットのうち一つが中央ピットの可能性がある。

(3) SH03 (第25図)



第25図 SH03実測図

2区中央やや北より第2遺構面である水田層上面で確認した竪穴住居である。確認した柱穴数は6穴であるが、Pit 4からPit 5とPit 6からPit 1間での距離が他の柱穴間の距離より長く不自然であることにより、それぞれの柱穴間にもう1穴ずつ入り、8穴の住居になるものと考えられる。柱穴規模は直径19~26cm、深さ6.2~16.2cmを測る。Pit 2、3に根石が認められる。伴出遺物はないが周辺の竪穴住居の状況からすれば弥生時代中期頃の時期が考えられる。

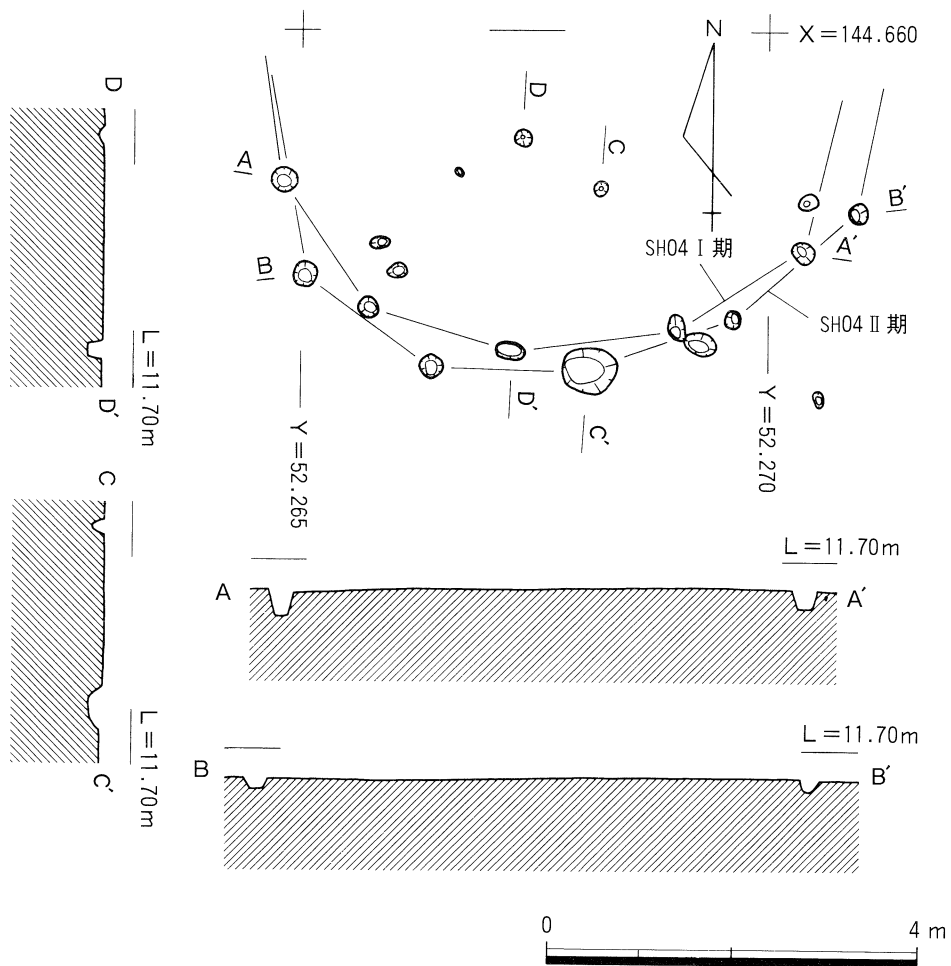
(4) SH04 (第26図)

2区中央、調査区際で水田土壌層を除去した段階で確認した竪穴住居である。遺構の半分は調査区外へ延びる。確認した柱穴数からすれば、1回の拡張もしくは重複が考えられる。

I期 支柱穴は5穴である。柱穴間の距離はほぼ同じである。柱穴規模は直径16~27cm、深さ14.5~27.0cmを測る。伴出遺物は弥生土器片が若干量出土している。

II期 支柱穴は5穴である。柱穴間の距離はほぼ同じである。柱穴規模はPit 3を除き直径17~26cm、深さ9.0~20.5cmを測る。伴出遺物は弥生土器片が若干量出土している。

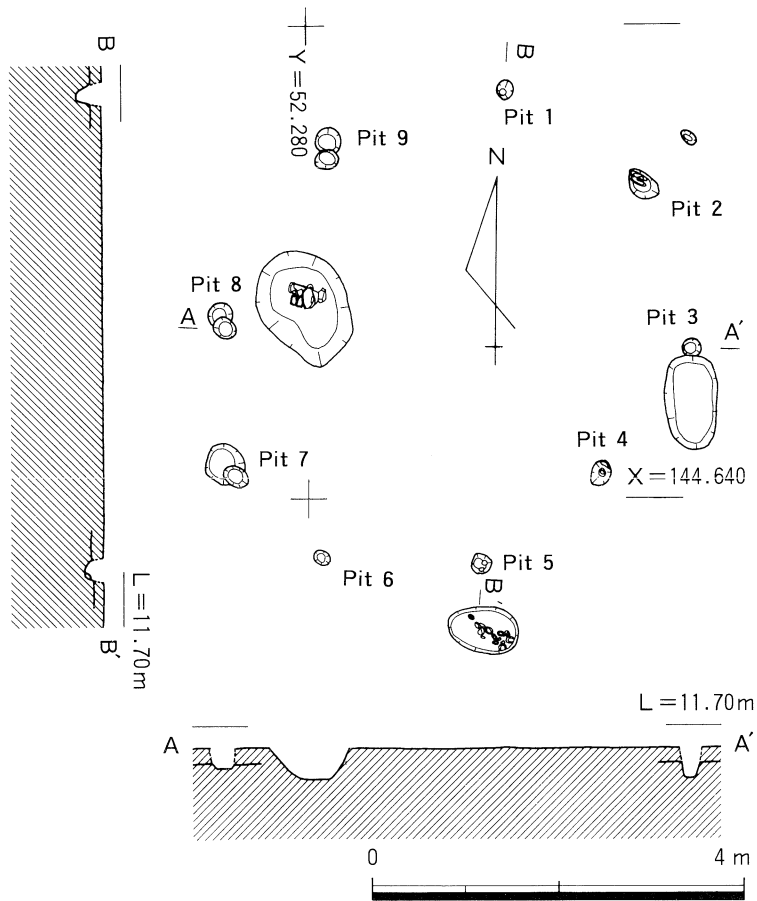
これらの竪穴住居は、伴出遺物は若干量であるが周辺の竪穴住居と同様、弥生時代中期頃の時期が考えられる。



第26図 SH04実測図

(5) SH05 (第27図)

2区中央、SH03の南東に位置し、水田土壌層を除去した段階で確認した竪穴住居である。主柱穴は9穴存在する。柱穴規模は直径18~29cm、深さ4.0~17.0cmを測る。Pit 2、4、5に根石が存在する。伴出遺物はないが周辺の竪穴住居の状況から弥生時代中期頃の時期が考えられる。



第27図 SH05実測図

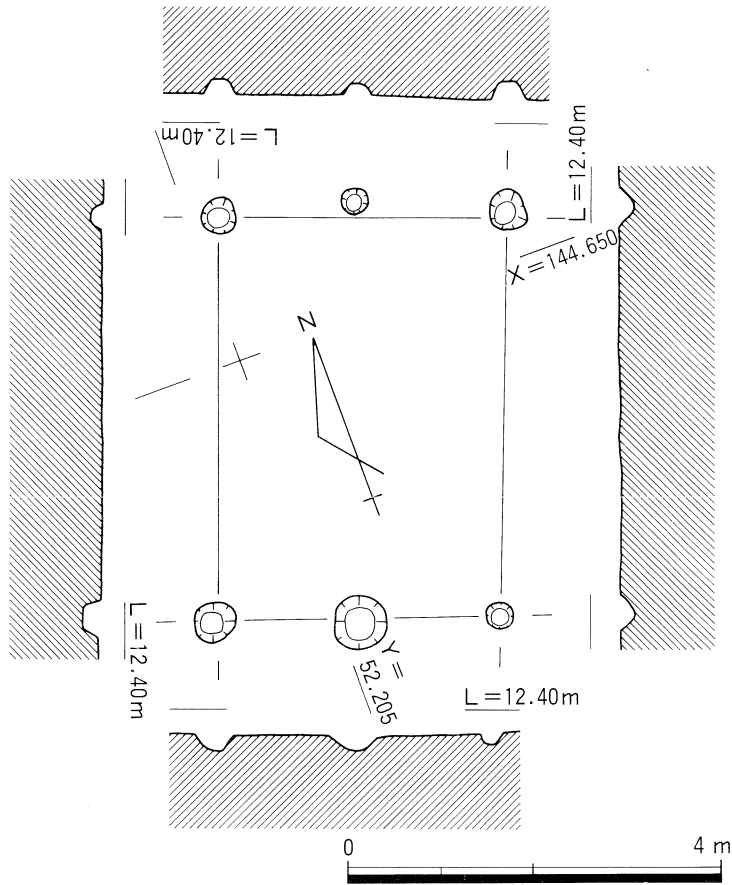
(6) SB07 (第28図)

1区東端において確認した掘立柱建物である。主軸方位は $N-21^{\circ}21'-E$ である。建物の規模は桁行(2間)3.07m、梁行(1間)4.24mである。桁行の柱穴間の距離は1.43~1.64mでありPit 2からPit 3間の距離がやや長い。床面積は13.05㎡である。柱穴規模は直径0.28~0.54m、深さ0.08~0.22mと一定していない。伴出遺物はないが、立地条件等から弥生時代の建物と考えられる。

(7) SB08 (第29図)

2区東端部において確認した掘立柱建物である。主軸方位は $N-14^{\circ}50'-E$ を測る南北棟である。建物の規模は桁行(3間)4.3m、梁行(1間)3.32mである。床面積は14.27㎡であ



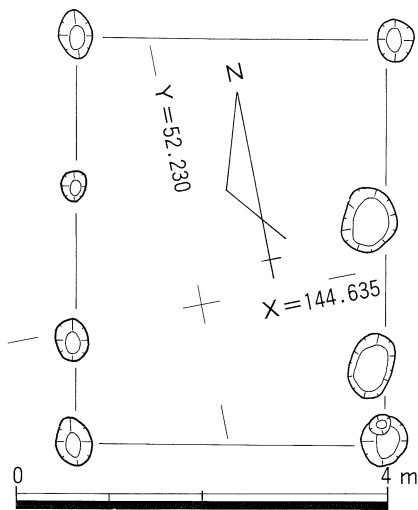


第28図 SB07実測図

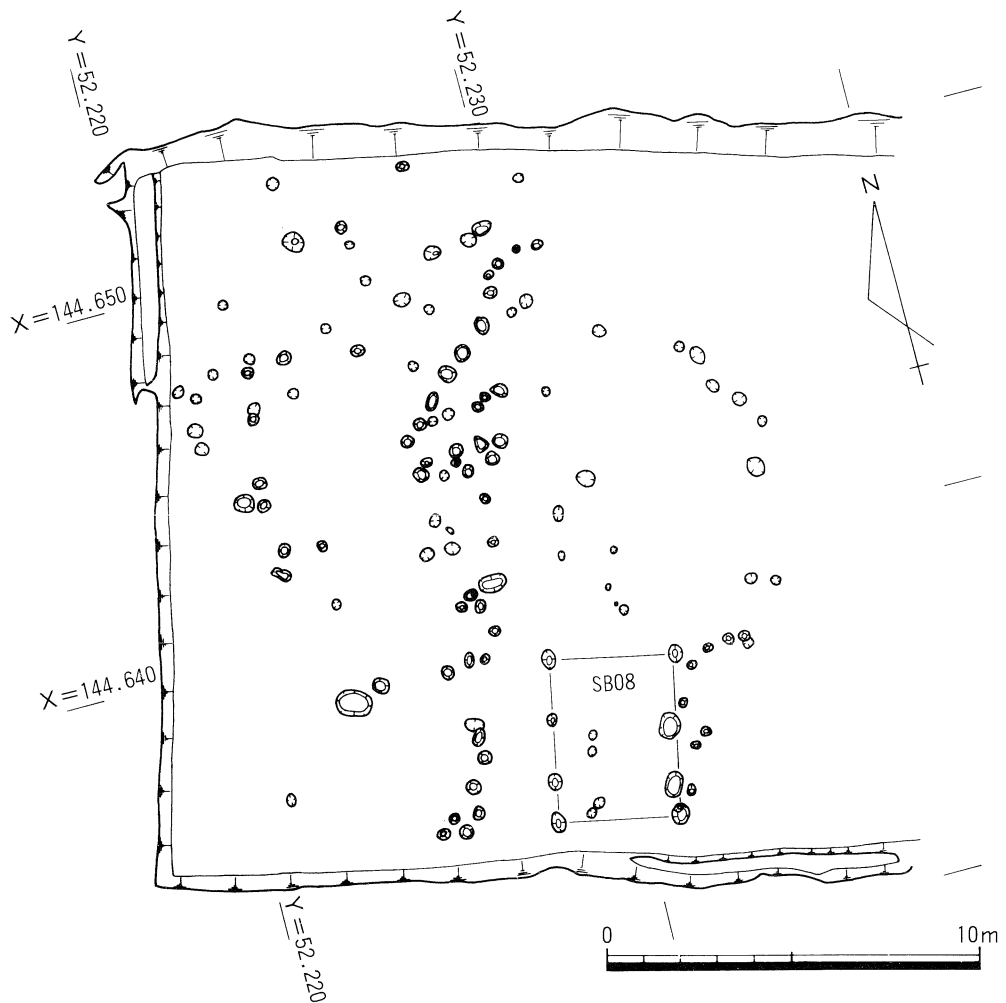
る。柱穴規模は直径0.32~0.68mと一定ではない。伴出遺物は出土していないが、立地条件等から考えて弥生時代の建物と考えられる。

(8) 2区西部Pit群 (第30図)

2区西部において確認したピット群である。ピットの数は総数120穴余りを確認した。ピットの規模は、直径0.3~0.5m、深さ0.3m程度のもものがほとんどである。現地ではピット数が多いこともあり、前述のSB08を確認したにとどまるが、後で検討した結果6棟前後の竪穴住居のピットを確認していたようである。竪穴住居に関する



第29図 SB08実測図

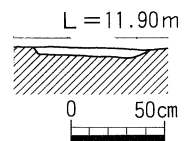


第30図 2区西部Pit群実測図

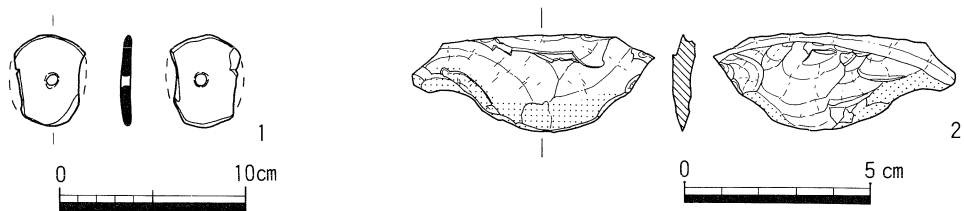
るものはピット群のみで壁溝等の付随施設は確認していない。柱穴列の内径は8m前後で円形に巡ることより、竪穴住居の規模は、それよりも一回り大きな竪穴住居になると考えられる。各竪穴住居の所属ピットは、ピット数も多いこともあり、所属を特定できないため、ピット群として一括して取り扱った。

(9) SD21 (第31図)

1区東部に位置する溝状遺構である。規模は、溝幅0.26m、深さ0.05mを測る。土層埋土は単一層で褐灰色シルト(5YR 5/1)である。伴出遺物は土器片利用の紡錘車と、下辺部に使用痕のあるスクレイパーが出土している。

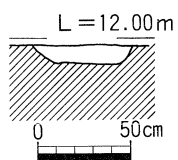


第31図 SD21 断面図



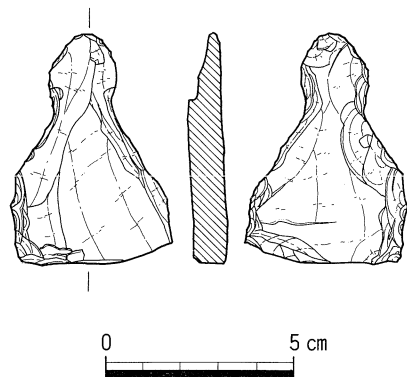
第32図 SD21出土遺物実測図

(10) SD22 (第33図)



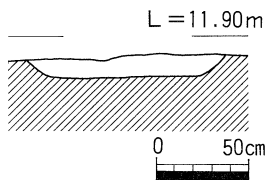
第33図 SD22  
断面図

1区東部、現用水路の西側に位置する溝状遺構である。溝の方位はほぼ北を向く。溝の規模は、溝幅0.54m、深さ0.10mを測る。土層埋土は褐灰色シルト(5YR5/1)である。遺物は石匙が1点出土している。



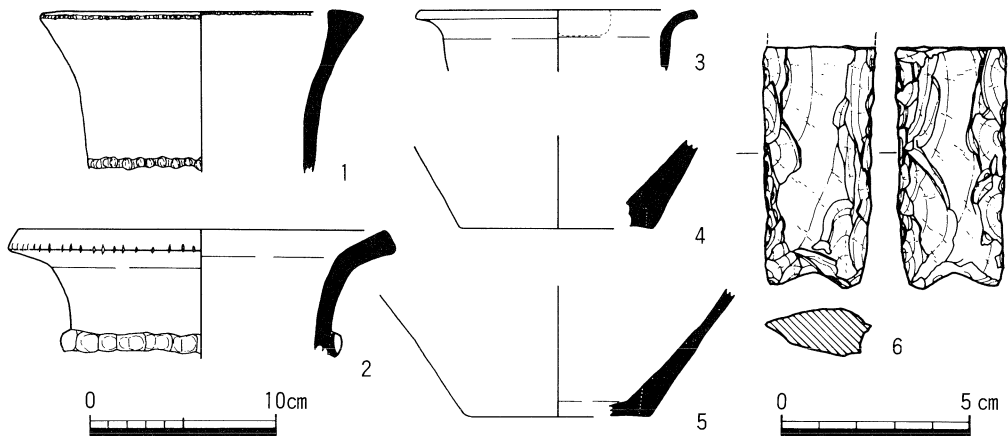
第34図 SD22出土遺物実測図

(11) SD24 (第35図)



第35図 SD24断面図

1区東側、現用水路を挟んで位置し、南側の溝幅に比べ北側が広がる溝状遺構である。溝幅は南側で1.06m、最大幅13m、深さ0.1mを測る。土層埋土は黒褐色砂質土(5YR3/1)である。伴出遺物は弥生土器壺、甕、石器等が出土しており、出土遺物より弥生時代中期中葉の時期が考えられる。



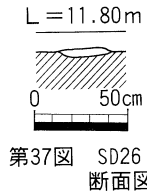
第36図 SD24出土遺物実測図

出土土器（第36図）

いずれも弥生土器である。(1)(2)は広口壺である。(1)は直立ぎみに立ち上がり口縁端部が肥厚する広口壺である。口縁端部内外面に刻目文、頸部外面に押圧突帯文1条を施す。(3)は小型の甕である。口縁部の屈曲は鋭くない。(4)(5)は壺の底部である。いずれの土器も磨滅のため、調整は確認できない。

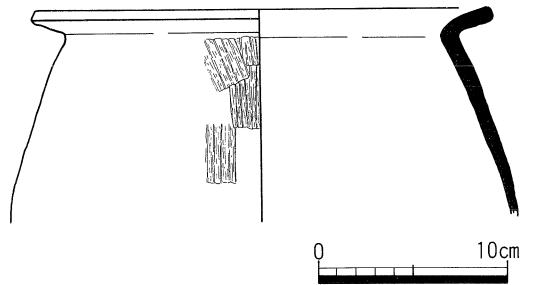
(12) SD26（第37図）

1区の東端、SB07の東側に位置する溝状遺構である。溝の規模は検出長12.5m、溝幅0.26m、深さ0.04mである。土層埋土は黒褐色砂質シルト（5YR 3/1）の単一層である。伴出遺物は弥生土器甕片が1点出土しており、出土遺物より弥生時代中期中葉の時期が考えられる。



出土土器（第38図）

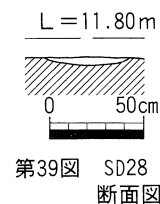
図示できたのは弥生土器甕1点である。胴部はあまり張らず、口縁端部は肥厚せずに丸く終わる。調整は外面頸部から胴部にかけてハケメが認められる。



第38図 SD26出土遺物実測図

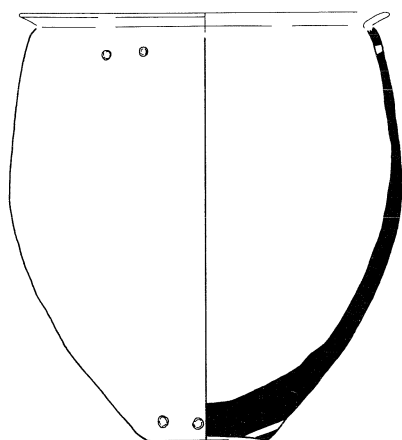
(13) SD28（第39図）

1区東端、SD26の東側に位置し、SD27を切る溝状遺構である。溝の規模は、検出長11m、溝幅0.46m、深さ0.04mを測る。土層埋土は褐灰色砂質土（5YR 4/1）の単一層である。伴出遺物は弥生土器1個体が出土しており、この土器からすれば弥生時代中期中葉の時期が考えられるが、溝の深さが浅いため、この溝に伴うものか若干不安が残る。



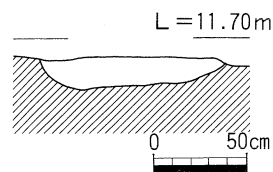
出土土器（第40図）

口縁部の欠損を除けばほぼ完形の甕である。上げ底ぎみの底部から大きく張らない胴部を持つもので、器高の割りに口径の大きな形態をする。底部及び頸部近くに吊り下げ用と考えられる二孔一対の穿孔が認められる。調整等は磨滅のため、認められない。

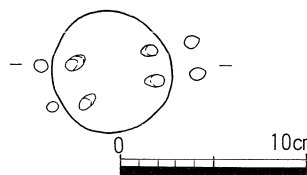


(14) SD29 (第41図)

1区東端に位置する、溝の主軸を北東方向から屈曲して北に向かって流れる溝状遺構である。溝の規模は検出長28m、溝幅0.4m、深さ0.08mを測る。土層埋土は黒褐色砂質土(5YR3/1)の単一層である。伴出遺物は弥生土器甕片が1点出土している。この土器より弥生時代中期中葉の時期が考えられる。



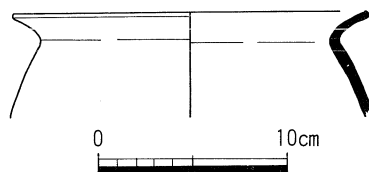
第41図 SD29断面図



第40図 SD28出土遺物実測図

出土土器 (第42図)

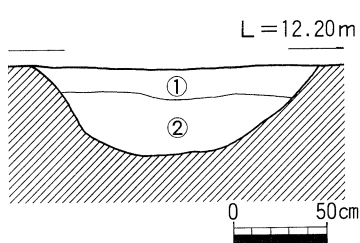
口縁端部および胴部下半を欠損する弥生土器甕片である。口縁部がやや外反し、頸部の



第42図 SD29出土遺物実測図

屈曲がややゆるやかであり、全体に薄手の作りである。調整は磨滅のため、確認できない。

(15) SD30 (第43図)

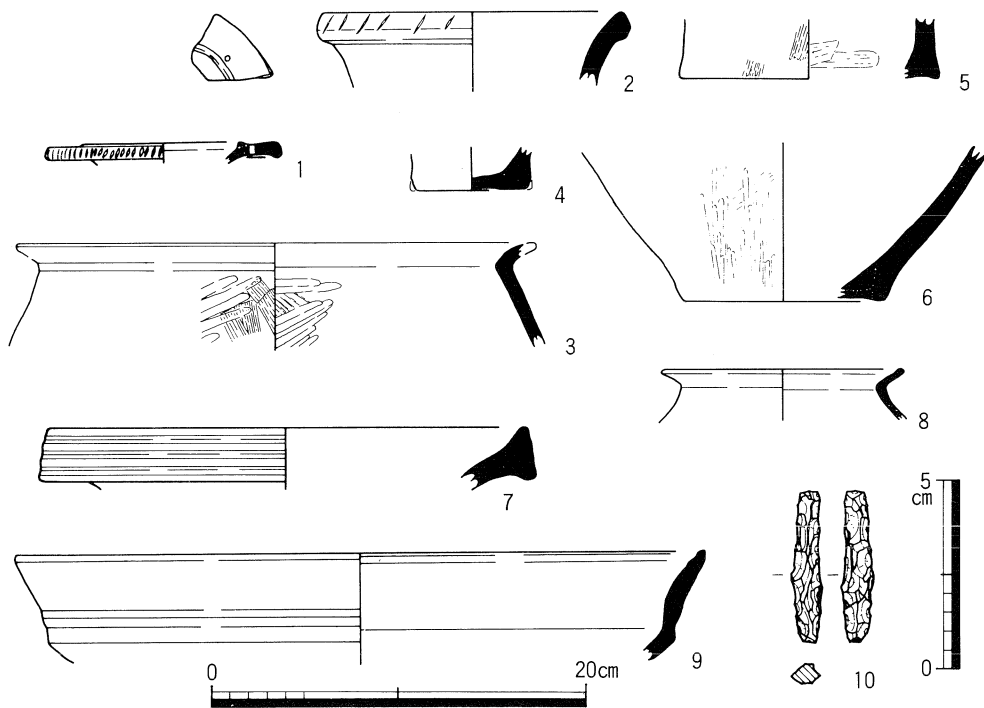


第43図 SD30断面図

2区中央部に位置し、南辺近くおよび北辺近くで分流し、溝の方位を北東に向ける溝状遺構である。切り合い関係はSD33、34、37を切り、SD15に切られる。溝の規模は溝幅1.60m、深さ0.45mを測る。土層埋土は2層で1層は黒褐色砂質土(5YR3/1)であり、2層は黒褐色砂質シルト(7.5YR3/1)である。伴出遺物は弥生土器の中期と後期のもの及び石器が出土しているが、これらの土器からみれば最終埋没は庄内の古段階頃と考えられる。

出土土器 (第44図)

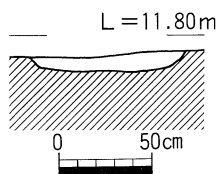
(1)～(6)は中期の弥生土器である。(1)(2)は広口壺である。(1)は口縁部が大きく外反するもので、内面に貼り付け突帯文、円孔、端部外面に刻目突帯文を施す。(2)は直立気味に外反し端部を肥厚させる広口壺である。端部外面にヘラ状工具に刻目文を施す。(5)～



第44図 SD30出土遺物実測図

(7) は底部である。(5) は甕、(6) は壺、(7) は鉢の底部である。(5) (6) の外面にはヘラミガキが、(5) の内面にはヘラケズリの調整が認められる。(7) ~ (9) は後期のものである。(7) は壺である。大きく外反する口縁部を持ち、端部を上下に拡張させ、凹線文を3条施す。(8) は甕の口縁部である。口縁端部の上方へのつまみは弱く頸部の屈曲も弱く、頸部から胴部へはややなで肩である。(9) は鉢と考えられる。皿状の受部から屈曲し外反する杯部をもつ当該期の高杯の杯部を大型化した形態で、杯部内面に擬凹線を施す。

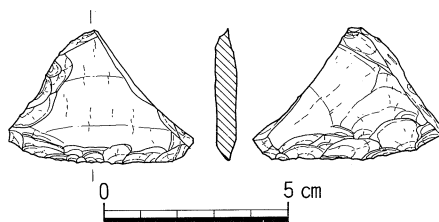
(16) SD31 (第45図)



第45図 SD31断面図

2区中央部に位置し、北方向に向く溝状遺構であり、SD32、33を切る。溝の規模は、溝幅0.84m、深さ0.12mを測る。土層埋土は褐灰色砂礫(7.5YR 4/1)の単一層である。伴出遺物はスクレイパー1点である。溝の時期は、

時期を決定する土器が出土していないため不明であるが、弥生時代中期の時期が考えられる。



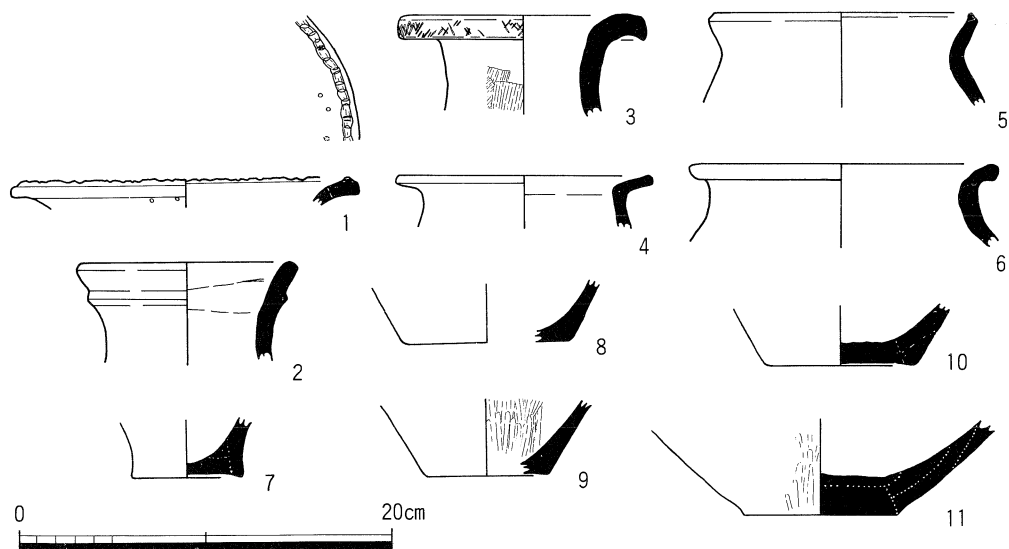
第46図 SD31出土遺物実測図

(17) SD34

2区中央に位置し、北方向に向く溝状遺構で途中で消滅する。切り合い関係はSD30,35,37,38に切られる。溝の規模は検出長22m、溝幅2.4m、深さ0.12mを測る。遺物は弥生土器片が出土しており、これらの土器から弥生時代中期中葉前半頃の時期が考えられる。

出土土器（第47図）

(1)～(6)は壺である。(1)は大きく外反する口縁部をもち、端部が肥厚する。口縁端部内外に刻目突文を1条巡らせる。(2)は直立ぎみに外反する口縁部をもち、口縁部外面に突帯を1条巡らせる。内面には接合痕がみられる。(3)は直立して立ちあがり屈曲して大きく外反する口縁部をもち、口縁端部には斜格子文を施す。頸部外面にハケ調整が認められる。(4)は内傾ぎみに立ちあがる頸部をもち、屈曲して外反する口縁をもち、口縁端部は拡張しない。(5)は頸部の屈曲はゆるやかで、口縁端部は上につまみあげる。(6)は(5)と同様頸部の屈曲はゆるやかで、口縁端部が肥厚する。(7～11)は底部である。(7)は甕の底部であるが、それ以外は壺の底部である。調整は(9)の内面、(11)の外面にヘラミガキが認められる。

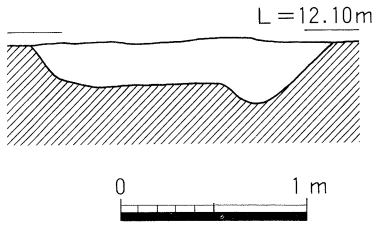


第47図 SD34出土遺物実測図

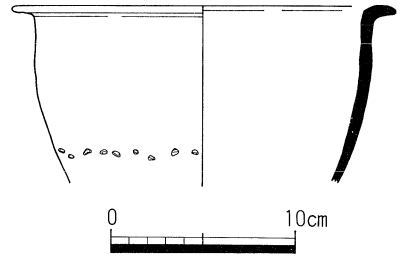
(18) SD35（第48図）

2区中央部南辺で検出した遺構である。平面形態は鍵状を呈し、西にいくにしたがい浅くなり消滅する。溝の規模は溝幅1.64m、深さ0.34mを測る。土層埋土は黒褐色シルト（7.5YR 2/2）である。遺物は甕1点が出土している。





第48図 SD35断面図

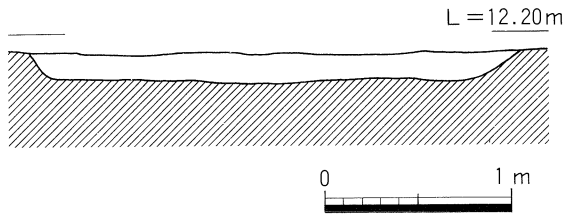


第49図 SD35出土遺物実測図

出土土器（第49図）

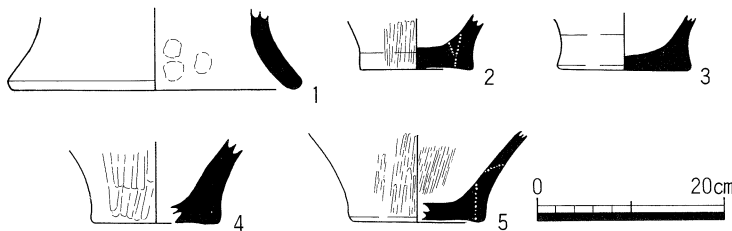
(1) は甕である。口径の大きさに割に器高が低い形態をする。胴部外面に刺突が巡る。

(19) SD36（第50図）



第50図 SD36断面図

2区西側において検出した溝状遺構である。南辺においては二つの流れが存在するが途中で合流し、一つの流れになる。溝の方位は、南側では北東を向き、北側では屈曲し、北北西方向に流れを変える。溝の規模は、溝幅2.64m、深さ0.16mを測る。切り合い関係はSD31、32、37、38を切る。土層埋土は黒褐色砂質土（7.5 YR 3/2）の単一層である。



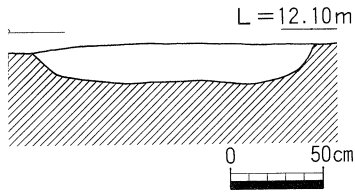
第51図 SD36出土遺物実測図

遺物は弥生土器片が出土しており、これらの土器から弥生時代中期中葉の時期が考えられる。

出土土器（第51図）

(1) は脚部である。内面にはナデによる指頭圧痕が認められる。(2～5) は甕の底部である。(2、4、5) の外面にヘラミガキ調整、(5) の内面にハケ調整認められる。

(20) SD37 (第52図)

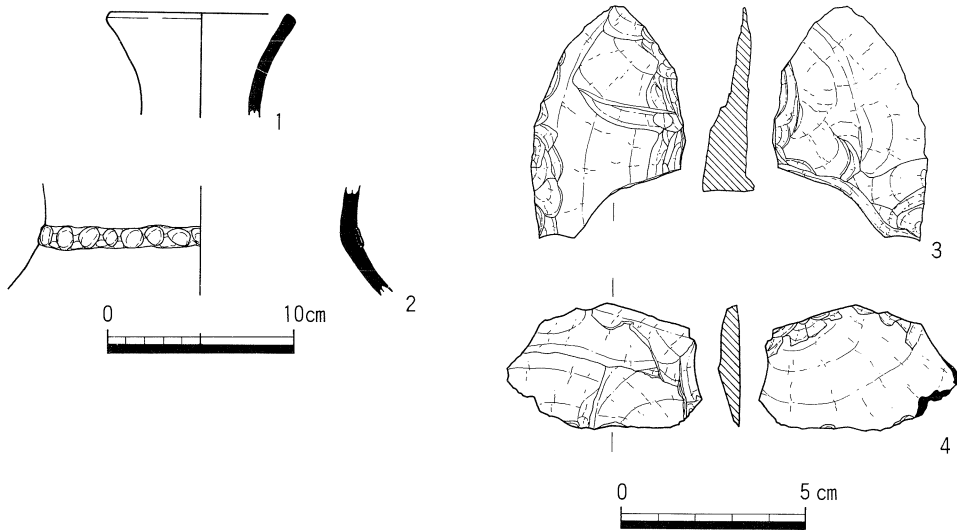


第52図 SD37断面図

2区中央部において検出した溝状遺溝である。切り合い関係はSD30、36に切られ、SH01を切る。溝の規模は、溝幅1.50m、深さ0.20mを測る。土層埋土は黒褐色砂質土(7.5YR 3/2)の単一層である。遺物は弥生土器片及び石器が出土しており、これらの土器から弥生時代中期中葉の時期が考えられる。

出土土器 (第53図)

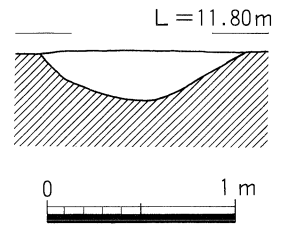
(1、2)は広口壺である。(1)は直立ぎみに外反する口縁部をもち口縁端部は肥厚せず終わる。調整等は磨滅のため、認められない。(2)は壺の頸部片である。頸部外面屈曲部に一条の押圧突帯文を巡らせる。調整等磨滅のため、認められない。



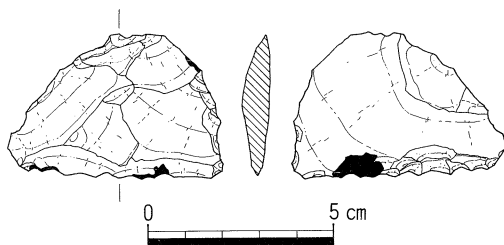
第53図 SD37出土遺物実測図

(21) SD39 (第54図)

2区中央部において検出した溝状遺溝である。東側は途中で消滅し、西側はSD36に切られる。溝の規模は、溝幅1.50m、深さ0.20mを測る。土層埋土は、黒褐色砂質土(7.5YR 3/2)の単一層である。遺物は下辺部に調整を施したスクレイパーが1点出土している。溝の時期は、時期を示す遺物が出土していないため不明であるが、弥生時代中期の時期が考えられる。



第54図 SD39断面図

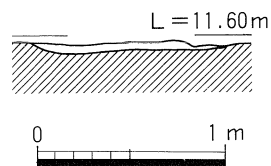


第55図 SD39出土遺物実測図

m、深さ0.06mを測る。土層埋土は灰黄褐色シルト（10YR 5/2）の単一層である。遺物は弥生土器甕片1点のみ出土している。この土器からすれば、弥生時代中期中葉の時期が考えられる。

(2) SD43 (第56図)

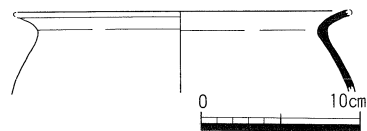
2区東端、SD42の南側において検出した東西方向の溝状遺構である。西側わ途中で消滅し、東側は調査区外に逃げる。溝の規模は、溝幅最大1.06



第56図 SD43断面図

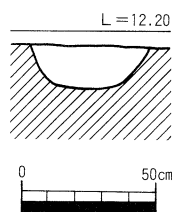
出土土器 (第57図)

ゆるく屈曲する頸部からやや外反する口縁部をもち、口縁端部は上方にわずかにつまみあげる。胴部の中位ぐらいになるものと考えられる。



第57図 SD43出土遺物実測図

(2) SD44 (第58図)

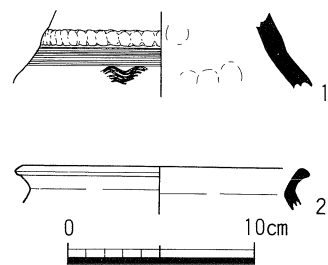


第58図 SD44  
断面図

2区西端に位置する東西方向の溝状遺構である。溝の規模は検出長9.50m、溝幅0.40m、深さ0.15mを測る。土層埋土は暗黄褐色砂質土である。遺物は弥生土器片が出土しており、この土器から弥生時代中期前葉頃の時期が考えられる。

出土土器 (第59図)

(1) は甕頸部片である。口縁部は欠損して存在しないが、頸部からゆるやかにすぼまる口縁部になるものと考えられる。胴部は、あまり張らず器高が高いスマートな形態になるものと考えられる。頸部外面に押圧突帯文1条、櫛描波状文6条を巡らせる。調整は内面にナデによる指頭圧痕が認められる。(2) は甕である。頸部の屈曲はゆるく、口縁端部が肥厚する。調整等は認められない。



第59図 SD44出土遺物実測図

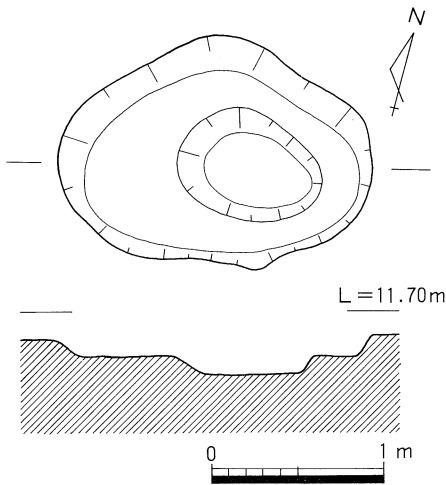
第6表 溝観察表（弥生時代中・後期）

遺構番号	切り合い関係	規模		方向	土層埋土
		溝幅	深さ		
SD06	途中でSD16が分岐。SK05に切られる。			北北東	
07	SD08, 17を切る。	0.75m	0.1 m	北北東	5YR4/1 褐灰色シルト
08	SD07, 16に切られる。	0.44m	0.10m	北西	5YR2/1 黒褐色シルト
09	SD10に切られる。	0.18m	0.04m	北	5YR5/1 褐灰色シルト
10	SD08, 09, 17を切る。	0.50m	0.14m	北北東	7.5YR6/2 灰褐色粗砂
11		0.44m	0.10m	北東-北	5YR4/2 灰褐色砂質シルト
12	SD18を切る。	0.28m	0.04m	北	5YR4/1 褐灰色シルト
16	SD06同時併存。途中から分岐。			北東	
17	SD07, 10に切られる。	0.20m	0.06m	北西	7.5YR6/1 褐灰色シルト
18	SD12に切られる。			北北東	
19		0.58m	0.44m	北北東	7.5YR6/1 明褐灰色粗砂
22	SD24と同時併存。 SK09, 22, 23に切られる。	0.54m	0.1 m	北	5YR5/1 褐灰色シルト
23	SD24に切られる。			西北西	
25	SD24, SK17に切られる。	0.54m	0.16m	北-北西	5YR4/1 褐灰色砂質土
27	SD28に切られる。	0.56m	0.05m	北	5YR5/1 褐灰色砂質土
32	SD31, 36に切られる。	0.44m	0.08m	北北西-北	7.5YR3/2 黒褐色砂礫
33	SD30, 31に切られる。			北	

遺構番号	切り合い関係	規模		方向	土層
		溝幅	深さ		
38	SD35を切る。SD31, 36に切られる。	0.48m	0.16m	東西	7.5YR4/2 灰褐色砂質土
40		0.24m	0.10m	北北西	5YR5/1 褐灰色砂礫
41		0.26m	0.18m	北	5YR5/1 褐灰色砂礫
45		0.40m	0.06m	南北	暗黄褐色砂質土

(24) SK32 (第60図)

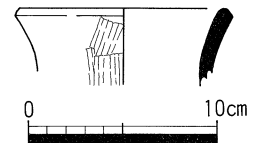
2区東端、SD42の東側に位置する土坑である。平面形状は楕円形を呈し中央部がくぼむ。土坑の規模は長軸1.84m、短軸1.28m、深さ0.22mを測る。遺物は弥生土器1点が出土しており、この土器から弥生時代中期前葉後半頃の時期が考えられる。



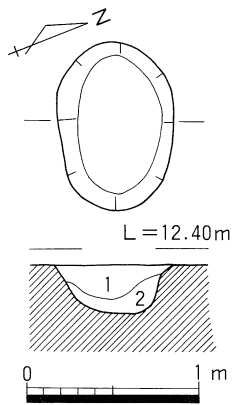
第60図 SK32実測図

出土土器 (第61図)

広口壺片である。直立気味に立ち上がり、外反する口縁部をもつ。口縁部は肥厚せずに終わる。調整は外面に荒いハケが認められる。



第61図 SK32出土遺物実測図

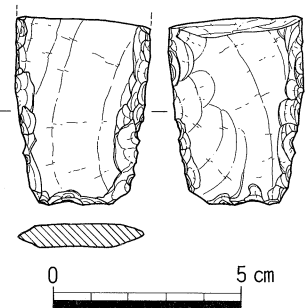


1. 暗灰褐色砂  
2. 灰褐色砂

第62図 SK36実測図

(25) SK36 (第62図)

2区西端、SK37の南側において確認した土坑である。平面形状は楕円形を呈する。規模は長軸1.00m、短軸0.70m、深さ0.28mを測る。土層埋土は2層に分層でき、上層が暗灰褐色砂（指頭大の礫混じり）、下層が灰褐色砂である。遺物は打製石剣（第63図）が1点出土している。



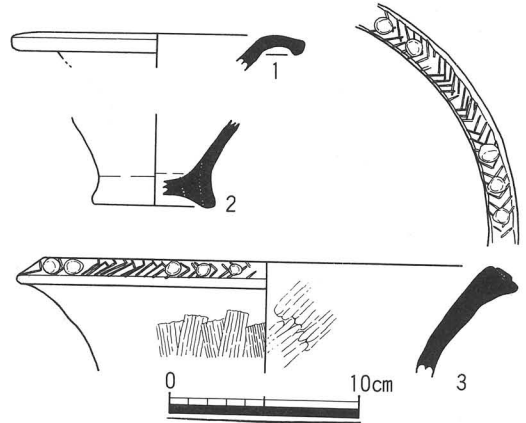
第63図 SK36出土遺物実測図

(26) 1区SP08

2区東端、SD43の南側に位置するPitである。平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸0.55m、短軸0.44m、深さ0.14mである。遺物は弥生土器片等が出土しており、これらの土器から弥生時代中期中葉の時期が考えられる。

出土土器 (第64図)

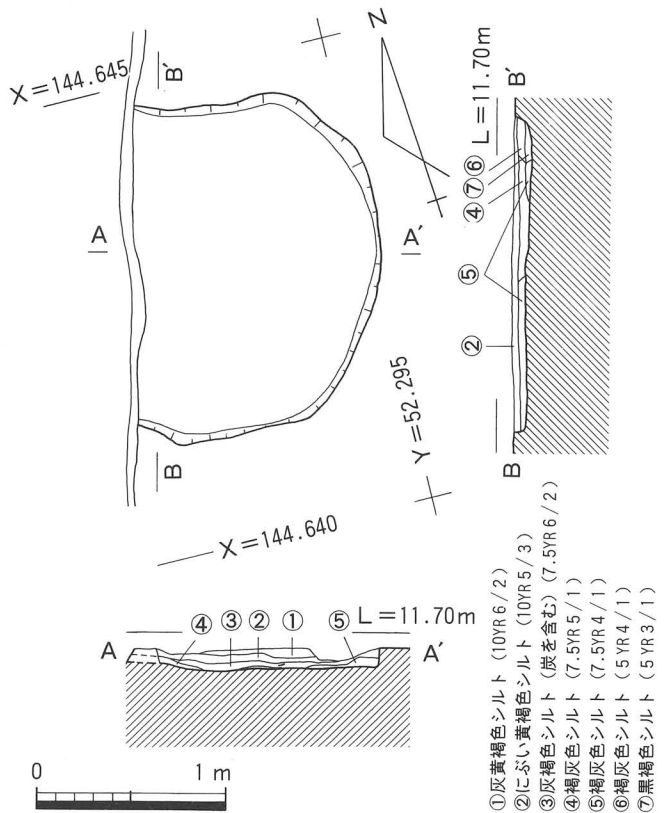
(1)は小型の甕である。ロート状の胴部から折り返して下方に垂れ端部が上下に肥厚する口縁部をもつ。(2)は(1)と同様な甕の底部と考えられるもので、底部は上げ底である。(3)は大きく開く広口壺である。口縁端部は大きく肥厚し、端面には綾杉文と3個一対の円形浮文を施す。調整は外面にハケメ、内面にヘラミガキが認められる。



第64図 2区SP08出土遺物実測図

(27) SX01 (第65図)

2区東端に位置し、SD42に切られる竪穴状遺構である。当初竪穴住居として調査を進めたが、床面は平坦であるがピット等は確認されず、積極的に竪穴住居にするには根拠に乏しい遺構である。平面形状は、西側がSD42に切られていて不明であるが、不正円形になるものと考えられる。規模は東西2.40m、南北3.40m、深さ0.20mを測る。土層の堆積状況は東西の土層断面をみる限り、徐々に埋没していったものと考えられる。遺物は弥生土器片等が出土しており、これらの土器から弥生時代中期中葉の時期には埋没していったものと考えられる。

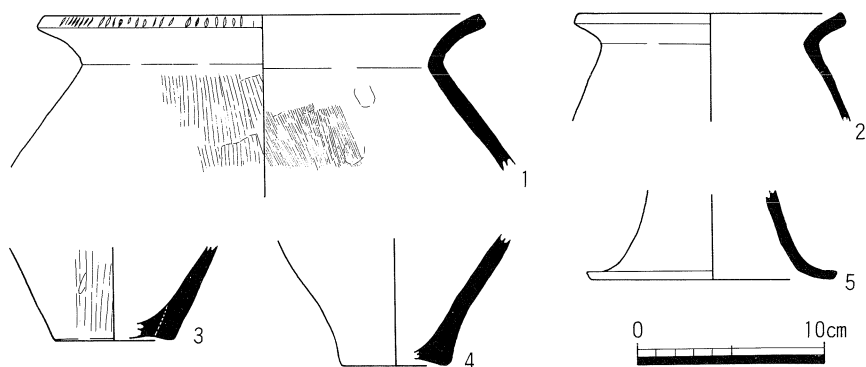


第65図 SX01実測図

- ① 灰黄褐色シルト (10YR 6/2)
- ② にぶい黄褐色シルト (10YR 5/3)
- ③ 灰褐色シルト (灰を含む) (7.5YR 6/2)
- ④ 褐色シルト (7.5YR 5/1)
- ⑤ 褐色シルト (7.5YR 4/1)
- ⑥ 褐色シルト (5YR 4/1)
- ⑦ 黒褐色シルト (5YR 3/1)

出土土器（第66図）

（1）は壺である。外反する口縁部をもち、端面に刻目文を施す。（2）は甕である。頸部の屈曲はゆるく、

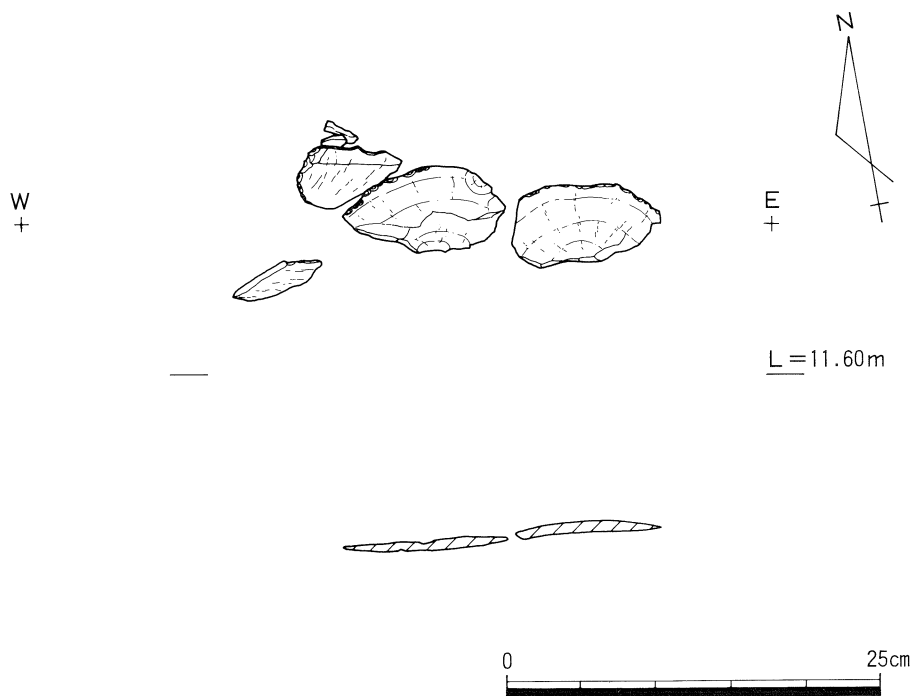


第66図 SX01出土遺物実測図

口縁部は端部で若干肥厚し上方につまみ上げる。胴部はあまり張らない形態になるものと考えられる。（3、4）は甕の底部である。やや上げ底気味の底部をもつ。調整は（3）の外面にヘラミガキ下部ヨコナデを施す。

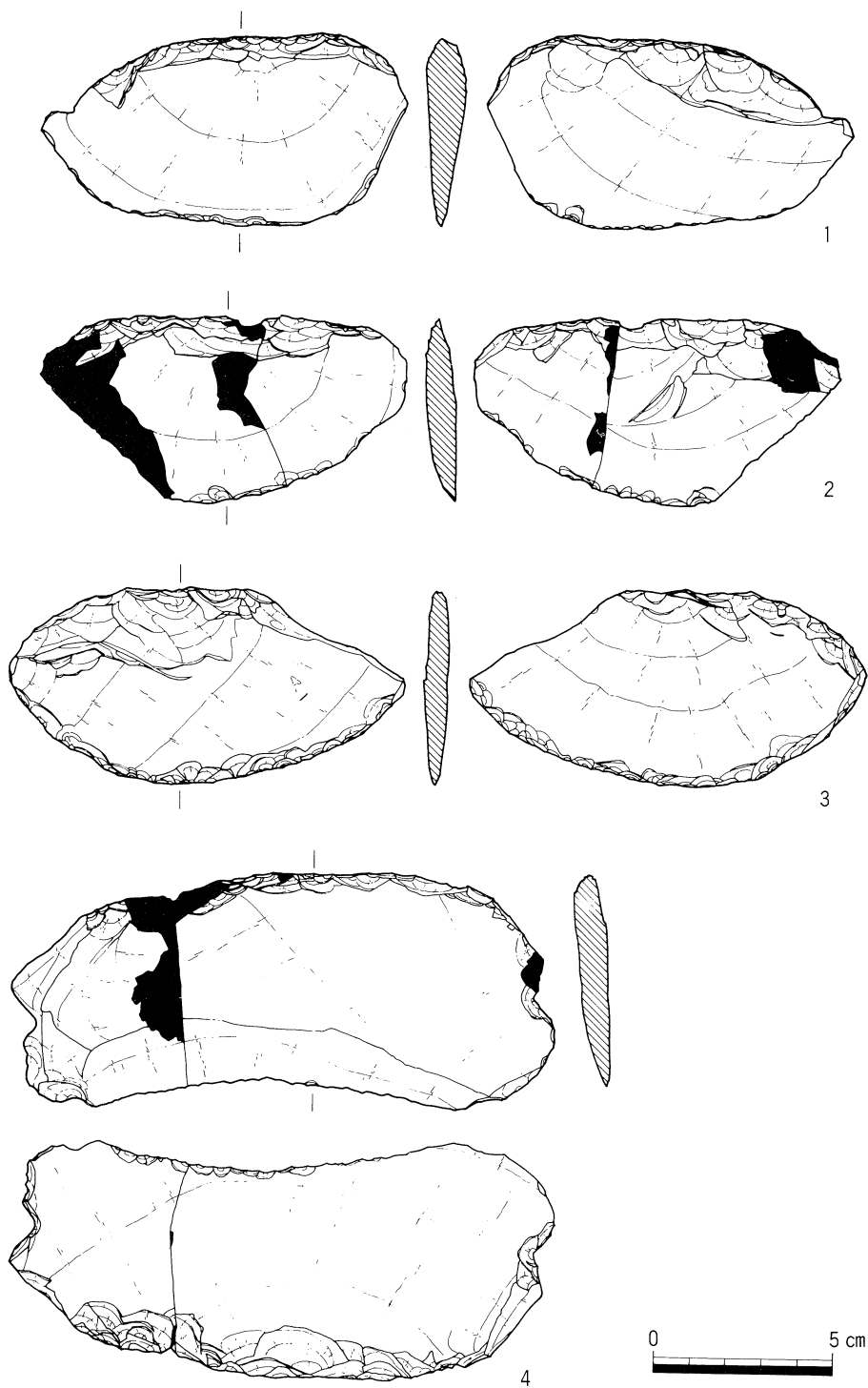
(28) SX02（第67図）

2区東端北側、洪水砂層上面において確認されたもので、石包丁の未製品と考えられるスクレイパーが4点出土した。洪水砂層上面において、これらに伴う遺構の平面プランの検出に努



第67図 SX02実測図





第68図 SX02出土遺物実測図

力したが、検出できなかった。出土した4点のスクレイパーは東側の2点は洪水砂層の上面にほぼ水平な状況で確認したが西側の2点は洪水砂層中に入り込むような状態で確認した。出土状況からしてそろえて埋納したような、意図的な埋納状況は認められないことより、制作途中で破棄された可能性も考えられる。

#### 出土遺物（第68図）

SX02からは4点の石器が出土している。いずれも製品である。(1)～(3)はスクレイパー、(4)は石庖丁である。(4)の石庖丁はやや大型である。(1)～(3)は鋭利な大剝離面を利用し、簡単な調整を行うのみである。一方背部は、両面からの粗い調整の後、敲打による背潰しが施されている。これらの石器は両側縁部に(4)のように抉りをもたないが、形状等から考えて石庖丁としてもよいと考えられる。

#### (29) 1・2区上面精査出土遺物実測図（第69、70図）

第69図の(1～5)は凹基式の石鏃である。(5)はやや大型であり、(1)には、両側縁に

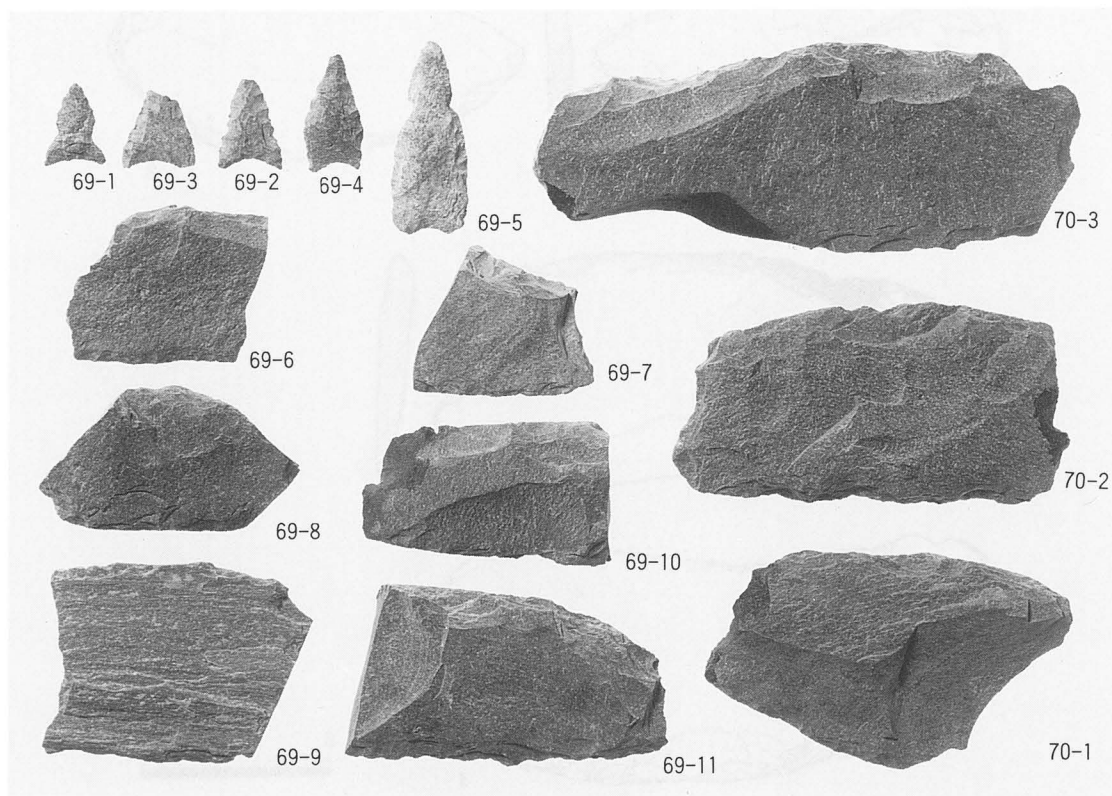
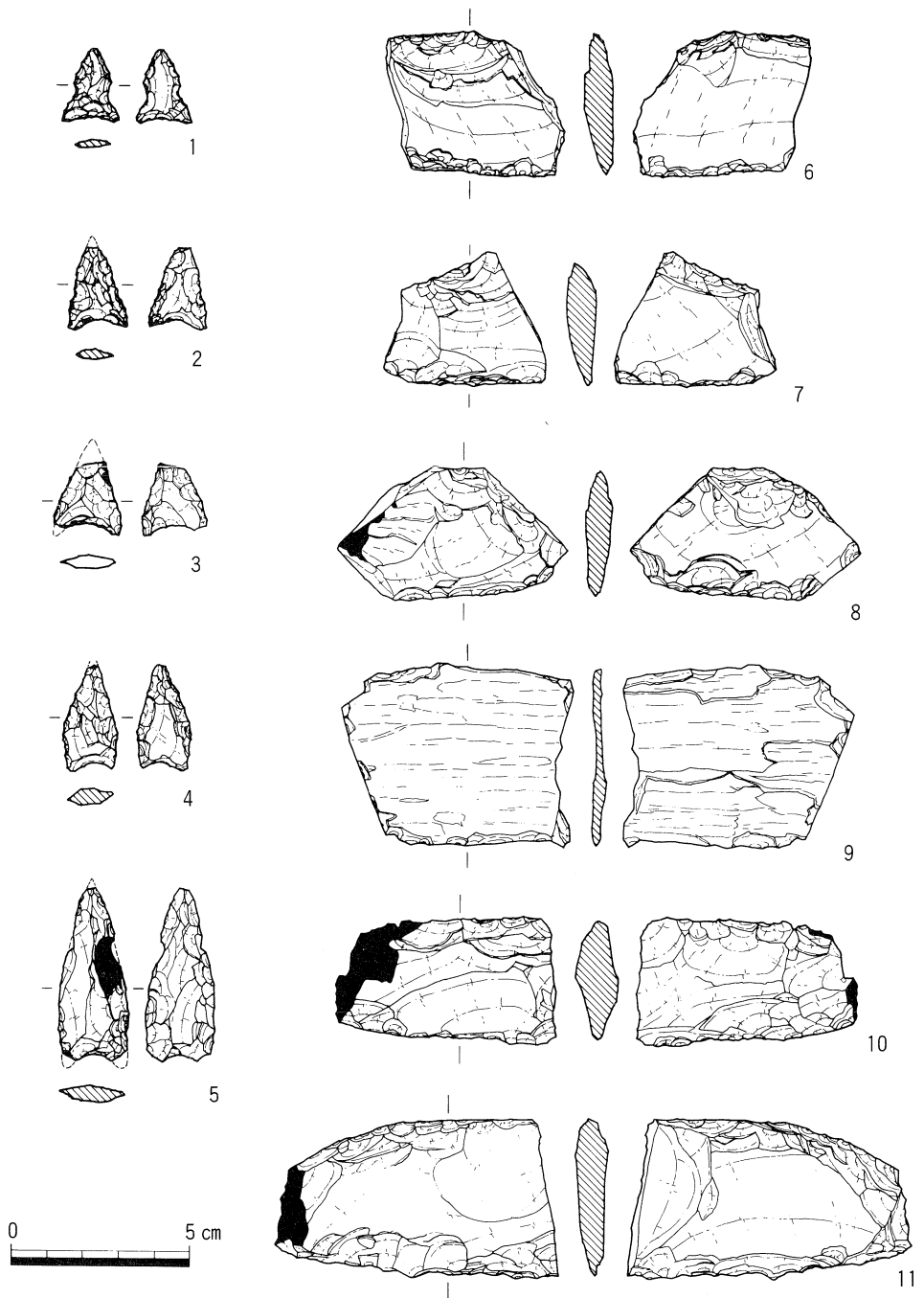
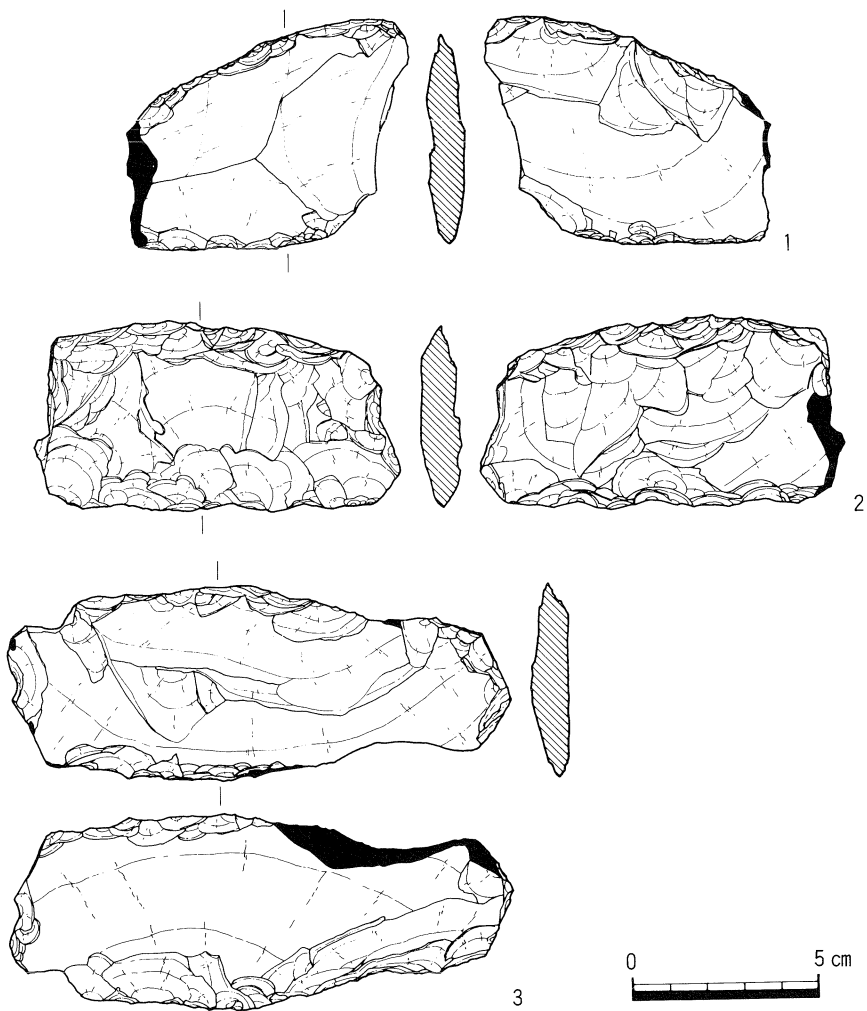


写真2 1・2区上面精査出土遺物



第69图 1·2区 上面精查出土遗物实测图(1)

挟りが認められる。(6~8)はスクレイパーである。いずれも両側縁部もしくは片側縁部に裁断面をもち、下辺部に明確な調整が認められる。(9)は結晶片岩製の石包丁?と考えられる。薄い素材を利用し、下辺部に若干の調整が認められる。(10)は石庖丁状のスクレイパーである。下辺部に明瞭な刃部が確認され、上辺部には敲打による背潰しが認められる。(11)は石庖丁である。上辺部には敲打による背潰し、下辺部には粗い調整によって刃部をつくる。第70図(1)はスクレイパーである。(2、3)は石庖丁である。いずれも上辺部に敲打による背潰し、下辺部には調整によって鋭利な刃部をつくる。いずれも、片側片部に挟りをいれる。

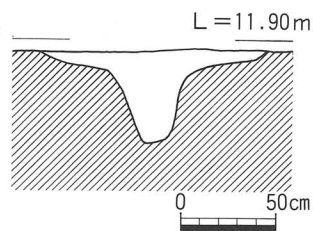


第70図 1・2区 上面精査出土遺物実測図(2)

## 第5節 古墳時代の遺構と遺物

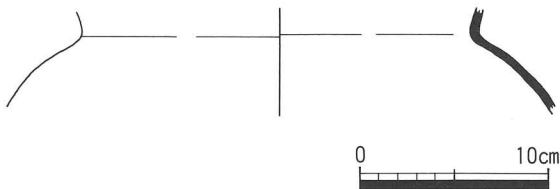
### (1) SD15 (第71図)

1区東側で確認した蛇行しながら南から北へ流れる溝状遺構である。溝幅1.20m、深さ0.46mである。土層埋土は褐灰色シルト(5YR 5/1)の単一層である。伴出遺物は甕の頸部から胴部片が出土している。



### 出土遺物 (第72図)

甕 口縁端部及び胴部下半を欠損し、残存状況はよくない。形態は頸部で屈曲し、胴部が大きく張る球形の形態をするもので、底部は丸底になるものと考えられる。調整等は磨滅のため不明である。残存状況は悪いものの布留の中段階頃の時期が考えられる。



第72図 SD15出土遺物実測図

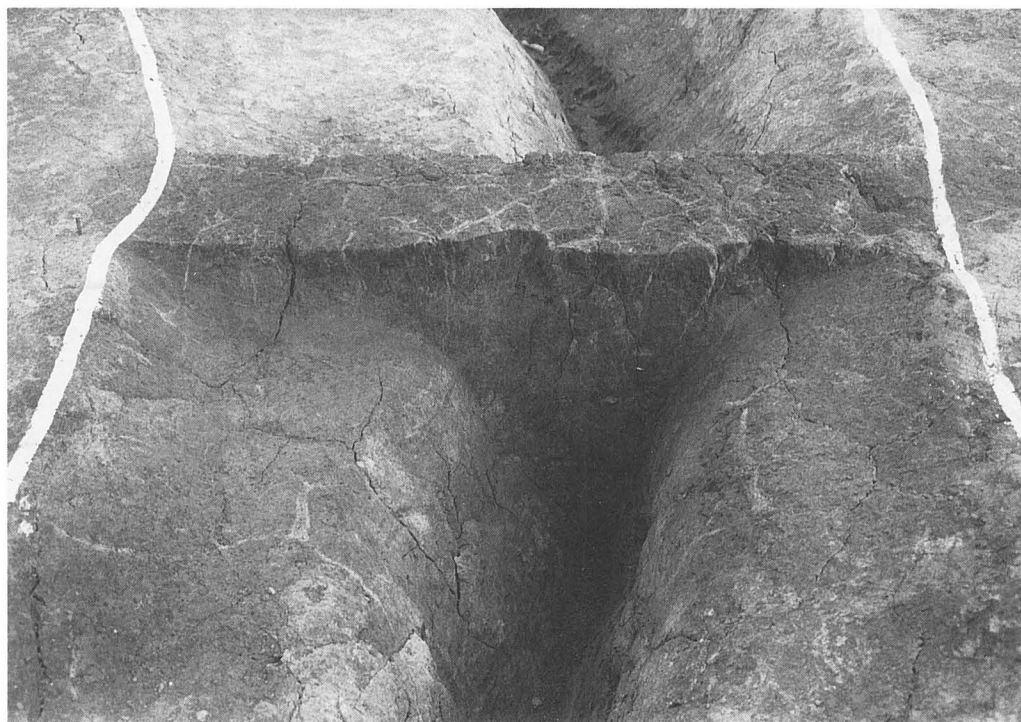


写真3 SD15土層堆積状況

## 第6節 古代から中世の遺構と遺物

### (1) SD01 (第73図)

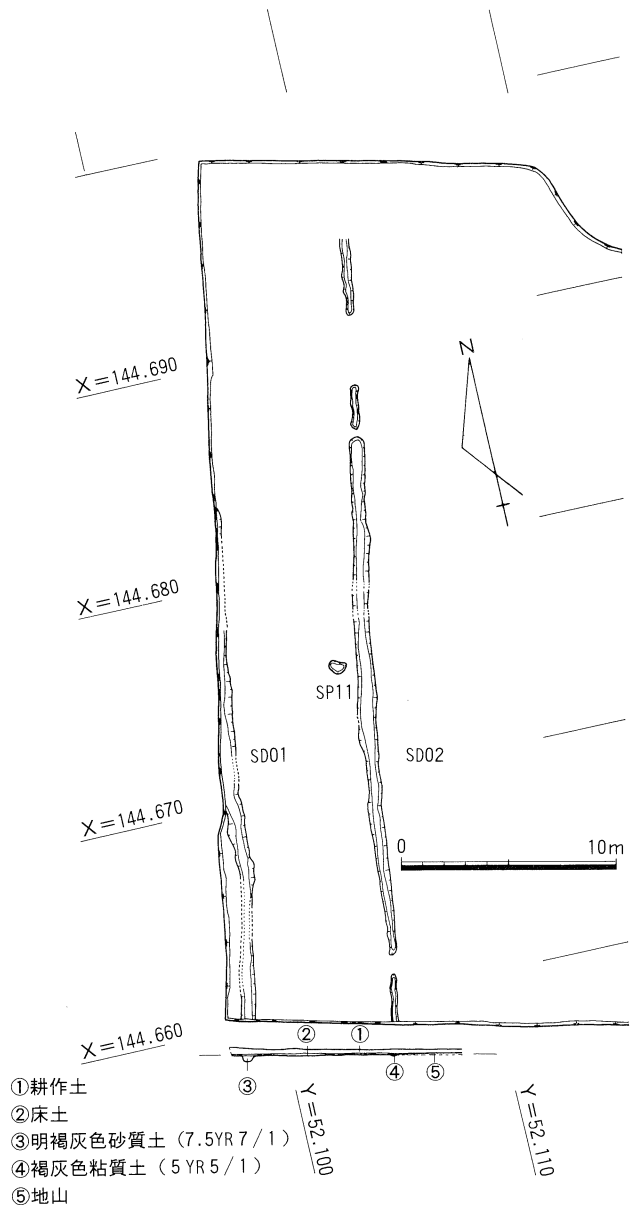
1区西端、調査区際に位置する溝状遺構である。北半部は西側へ振るため、調査区外である。溝が埋没した後に近世の土坑SK01、02、04が上から穿つため、溝の状況が不明瞭である。主軸方位はN-14°50'-Eを測り、検出長24m、溝幅0.65m、深さ0.15mである。埋土は明褐色砂質土(7.5YR7/1)の単一層である。遺物は出土していない。

### (2) SD02 (第73図)

1区西端、前述のSD01の東側に位置する溝状遺構で、SD01とは溝中心から7mの距離をおいて併走する。主軸方位はN-15°-Eを測り、SD01の主軸方位とほぼ同じである。検出長は断続的ながら総延長36.5mを検出しており、溝幅0.7m、深さ0.1mである。埋土は褐灰色粘質土(5YR5/1)の単一層である。遺物は出土していない。

### (3) SD46 (第74図)

1区東端に位置する溝状遺構である。第1遺構面では確認できず、第2遺構面である水田面において確認した。主軸方位はN-9°-Eを測り、溝状遺構の規模は、総延長15m、溝幅0.36m、深さ0.05mである。前述のSD01、02からの距離はSD01から103m、SD02から96mであ

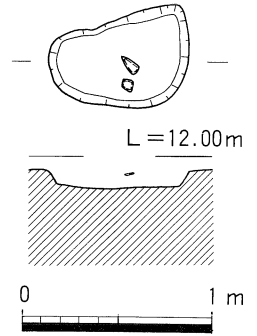


第73図 SD01, 02実測図

る。伴出遺物はないが、同様の方向をもつことから同時期の遺構であると考えられる。

(4) 1区 SP11 (第75図)

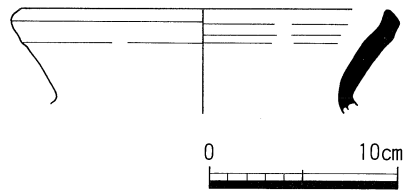
SD02の西側に位置する不正形のPitである。Pitの規模は長軸0.75m、短軸0.45m、深さ0.1mを測る。埋土はSD02と同様に褐灰色粘質土(5YR 5/1)の単一層である。伴出遺物は、ピット内から須恵器の甕口縁部が出土している。



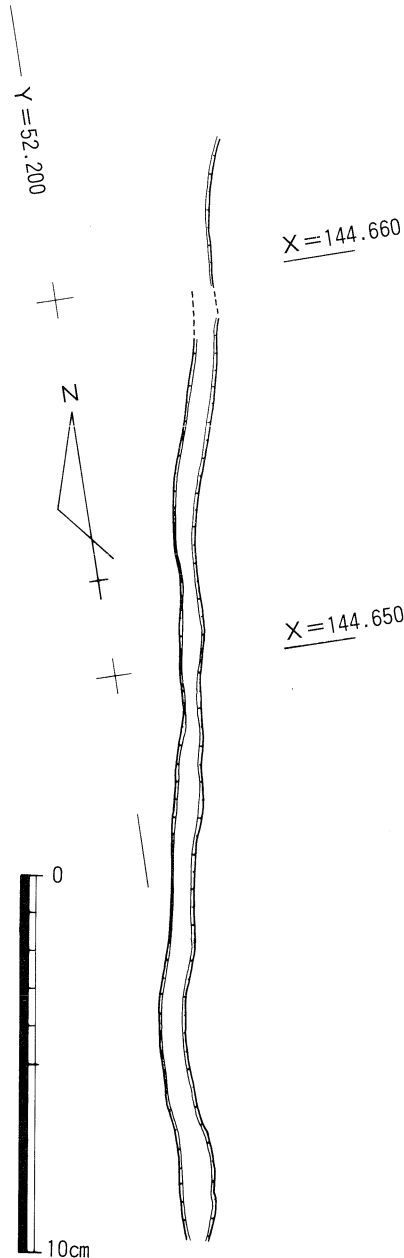
第75図 1区SP11実測図

出土遺物 (第76図)

(1) は須恵器の甕口縁部である。斜め上方に立ち上がる口縁部をもち、端部をやや内側につまみ上げる。調整は、内外面ともヨコナデを施す。



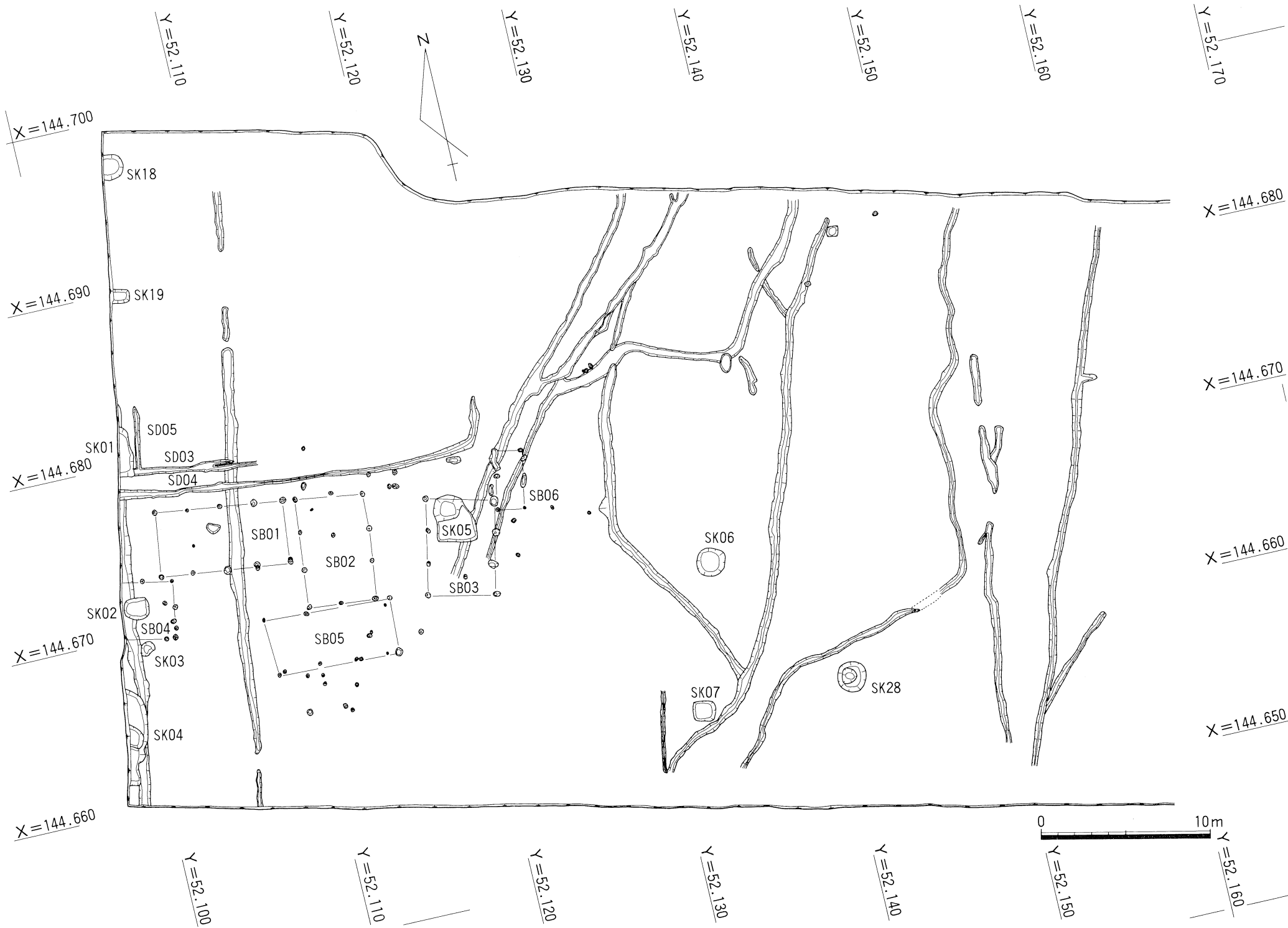
第76図 1区SP11出土遺物実測図



第74図 SD46実測図





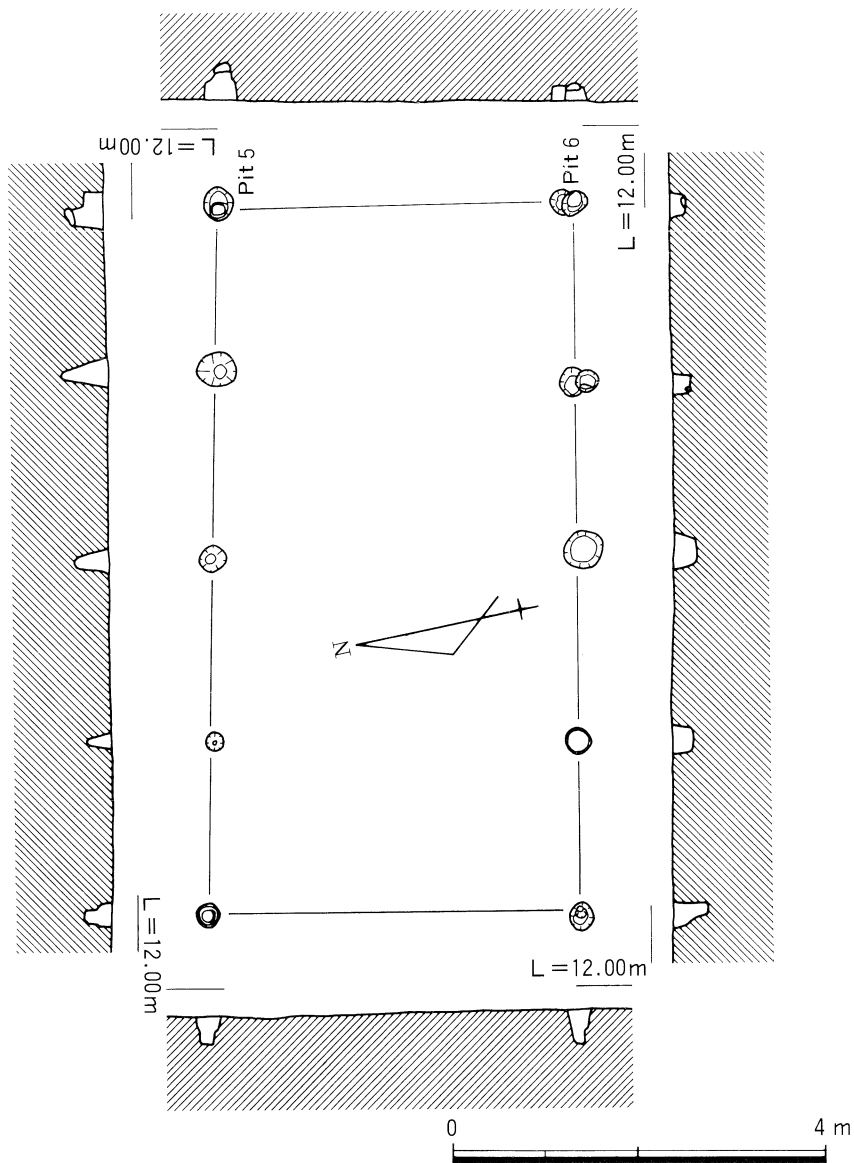


第77图 1区 西半近世遺構配置図

## 第7節 近世の遺構と遺物

### (1) SD03~05 (第77図)

一区西端SB01、02の北側において確認した溝である。これらの溝は、近世の所産と考えられる掘立柱建物と主軸方位等に共通性がみられ有機的なつながり、たとえば屋敷等をかくす溝もしくは雨落溝等が考えられる溝である。



第78図 SB01実測図

SD03

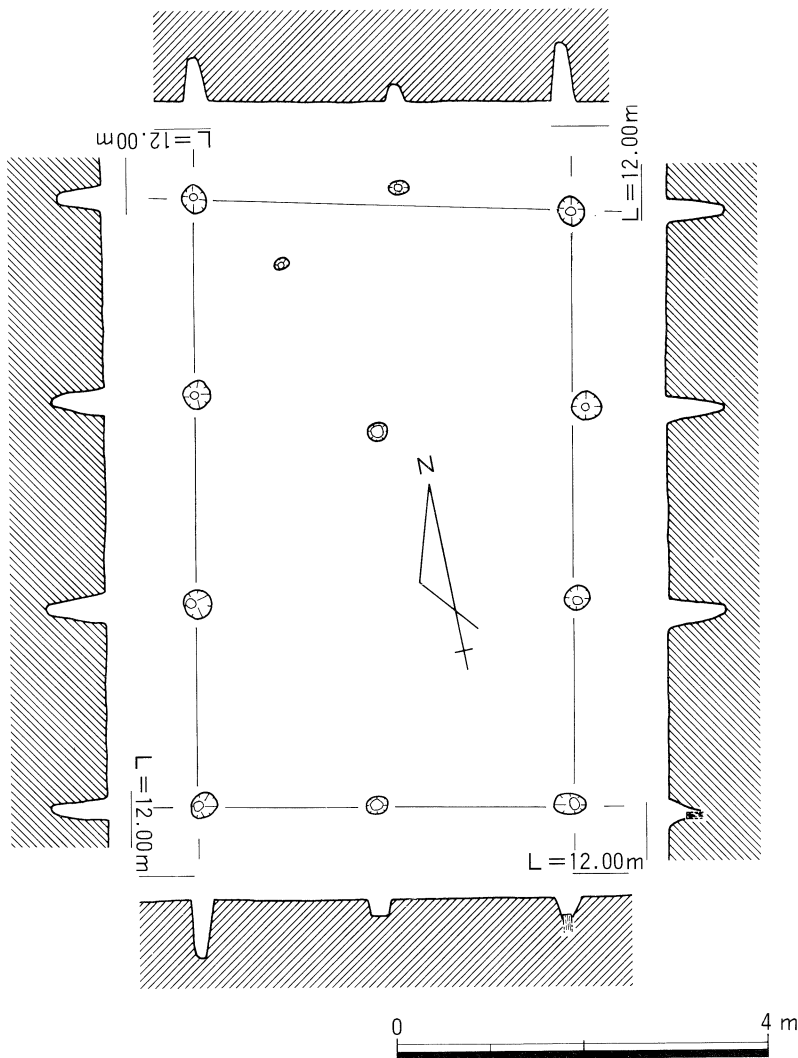
SD04の北側に位置し、調査区の西端でSD05と合流し、SK01に合流する溝である。東側は途中で二股になり消滅する。溝幅は0.30m、深さ0.05mを測る。主軸方位はN-106° 50' - Eである。

SD04

SD03に併走する溝である。SD03との距離は芯心間で1.45mである。約20m東で北に振り途中で消滅する。溝幅は0.17~0.50m、深さ0.10mを測る。主軸方位N-104° 50' - EでありSD03とは2°の違いである。

SD05

SD03から北に分流するもので途中で消滅する。溝幅0.27m、深さ0.04mを測る。主軸方位はN-18° 50' - Eである。



第79図 SB02実測図

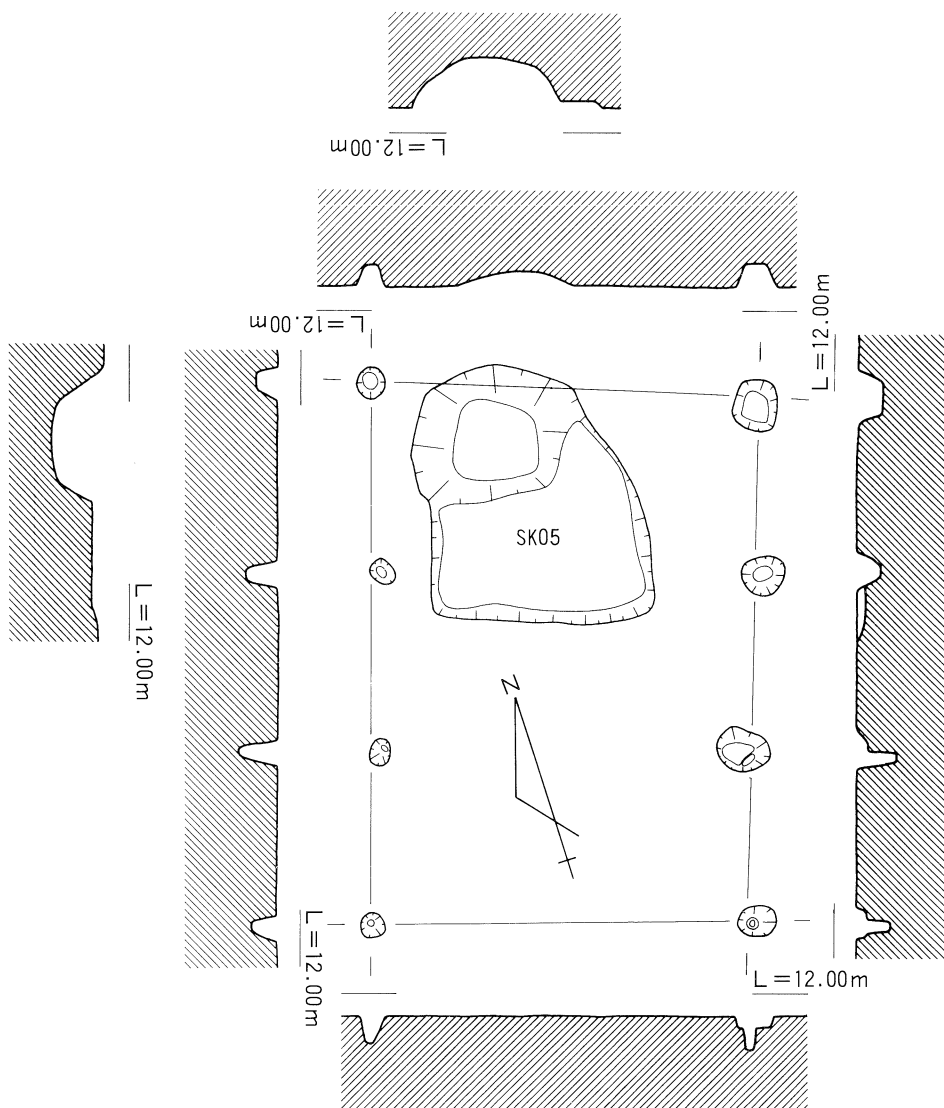
(2) SB01 (第78図)

1区西端、SB02の西側に位置する掘立柱建物である。主軸方位はN-75° 75' - Wを測り桁行(4間)7.65m、梁行(1間)3.97mを測る東西棟である。芯心間の距離は1.73~2.01mと一定でない。柱穴規模についても直径0.18~0.4m、深さ0.16~0.36mと一定ではない。Pit 5、6には根石が存在する。床面積な30.37㎡と当遺跡

の中では、規模がもっとも大きな建物である。伴出遺物は出土していないが近世頃の所産と考えられる。

(3) SB02 (第79図)

1区西端、SB01の東側、SB05の北側に位置する掘立柱建物である。主軸方位はN-12°-Eを測り、桁行(3門)6.52m、梁行(2間)4.02mを測る南北棟である。芯心間の距離は1.85~2.22m



第80図 SB03実測図

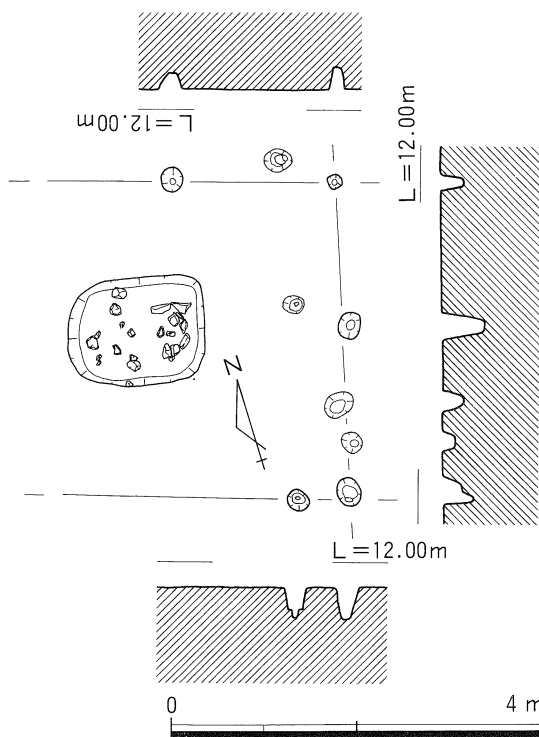
と一定でない。柱穴規模についても直径0.21~0.36m、深さ0.16~0.64mと一定ではないが棟持柱と考えられる。Pit 2、Pit 7を除く柱穴は0.6m以上のものが多く存在する。Pit 6には柱材が残存している。床面積は26.21㎡を測る。遺物は出土していないが近世頃の所産と考えられる。

(4) SB03 (第80図)

1区西端、SB02の東側に位置する掘立柱建物で建物内にSK05が存在する。主軸方位はN-17° 75' -Eを測り桁行(3間) 5.80m、梁行(1間) 4.12mを測る南北棟である。芯心間の距離は1.85~2.03mと一定しておらず、柱穴規模についても直径0.30~0.58m、深さ0.22~0.45mと一定ではない。床面積23.69㎡を測る。この建物に付随すると考えるものにSK05がある。SK05はSB03の北寄りに位置する。不正形の土坑である。土坑は二段堀になっており、上段が長軸2.72m、短軸2.30m、下段が長軸1.80m、短軸1.40m、深さ0.53mを測る。掘立柱建物からの伴出遺物はないが、SK05からは若干の遺物が出土している。

(5) SB04 (第81図)

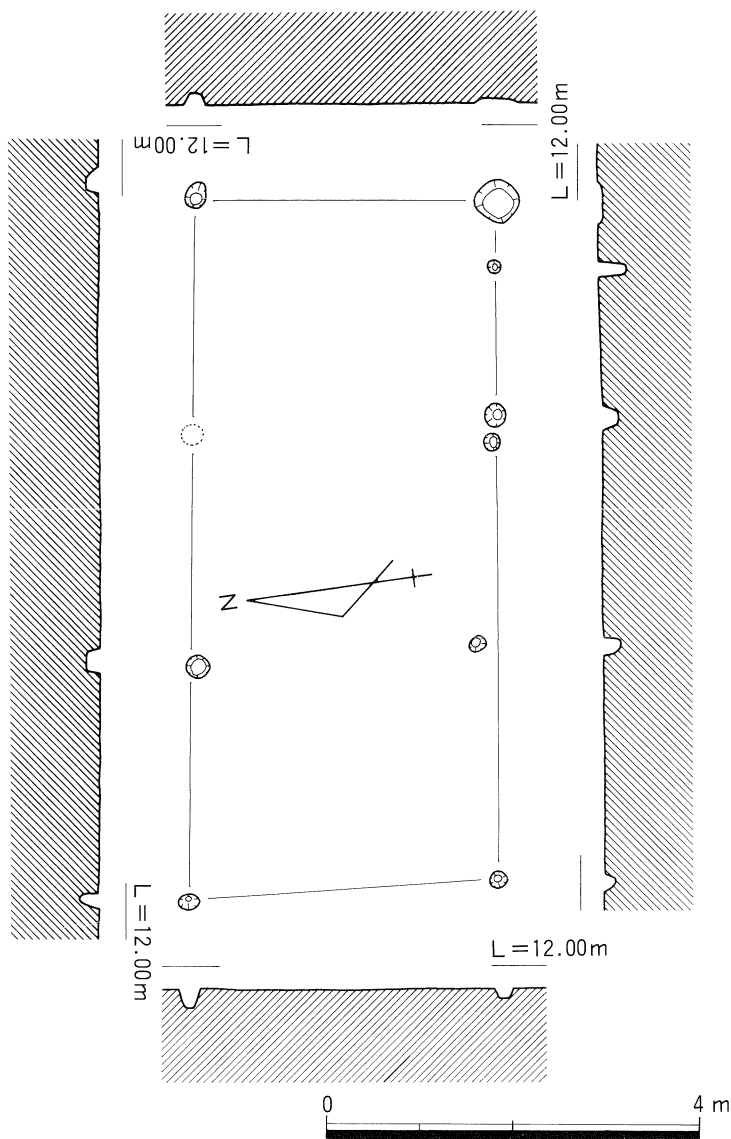
1区西端、SB01の南西に位置し、SK02を取り囲む掘立柱建物である。西半部は調査区外の為全様は不明である。主軸方位はN-70° -Wを測り、桁行(2間以上) 1.76m以上、深行(2間) 3.33mを測る東西棟である。芯心間距離は0.57~1.82mと一定ではない。柱穴規模についても直径0.17~0.29m深さ0.19~0.45mと一定ではない。床面積は5.86㎡以上である。伴出遺物はないが近世頃の所産と考えられる。



第81図 SB04実測図

(6) SB05 (第82図)

1区西端、SB02の南側に位置する掘立柱建物である。主軸方位はN-80° 75' -Wを測り、桁行(3間) 7.46m梁行(1間) 3.32mを測る東西棟である。北列の西から3つめの柱穴が存在しない芯心間の距離は2.27~2.51mと一定でない。柱穴規模につ



第82図 SB05実測図

いても直径0.17~0.2mと一定ではない。床面積は23.87㎡である。伴出遺物はないが近世頃の所産と考えられる。

(7) SB06 (第83図)

1区西端、SB03の北東に位置する掘立柱建物である。主軸方位はN-15°50'-Eを測り、桁行(2間)3.50m、梁行(1間)1.62mを測る南北棟である。芯心間の距離は1.53~1.97mと一定ではない。柱穴規模についても直径0.17~0.39m、深さ0.12~0.29mと一定ではない。床面積は5.67㎡であり、当遺跡の掘立柱建物の中では最小である。伴出遺物はないが、近世頃の所産と考えられる。

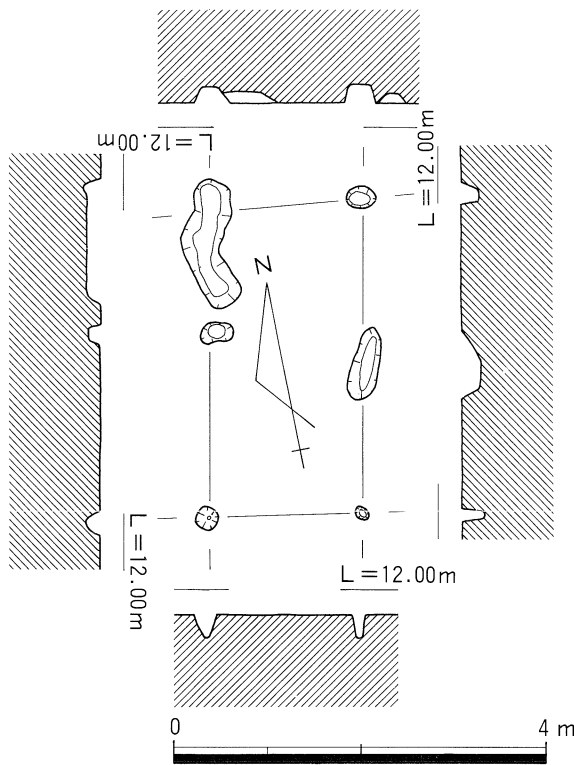
(8) 1区近世土坑群(付図1)

1区からは近世頃の所産と考えられる土坑が30基確認されている。それぞれの土坑からの伴出遺物は皆無のものが多くことと、これらの土坑が

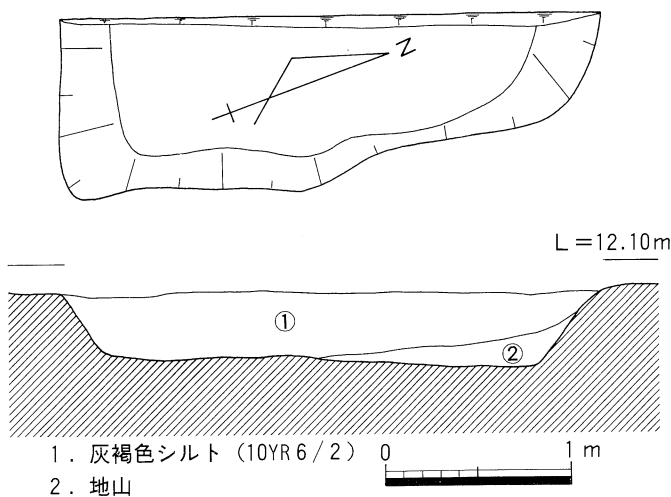
ある一定のまとまりをもつことにより、グループに分けて述べることとする。伴出遺物があるものについては個々に述べるが、その他の土坑については、一覧表に示すにとどめる。

A群 (第77図)

1区調査区西端旧山田郡と旧香川郡の推定群境に南北に並ぶ総数6基の土坑群である。遺物を伴出したのはSK01、02である。SK02を除き、いずれも調査区外のため全様がわからない。



第83図 SB06実測図



1. 灰褐色シルト (10YR 6/2)  
2. 地山

第84図 SK01 実測図

### SK01 (第84図)

A群のほぼ中央に位置し、SD01を切る。形状は長方形を呈するが西半部は調査区外である。規模は長軸2.90m、短軸0.94m以上、深さ0.37mを測る。埋土は一層で灰黄褐色シルト (10YR 6/2) である。遺物は、土埴3点、染付磁器3点、陶器1点、土師器1点、石器のスクレイパー1点が出土している。

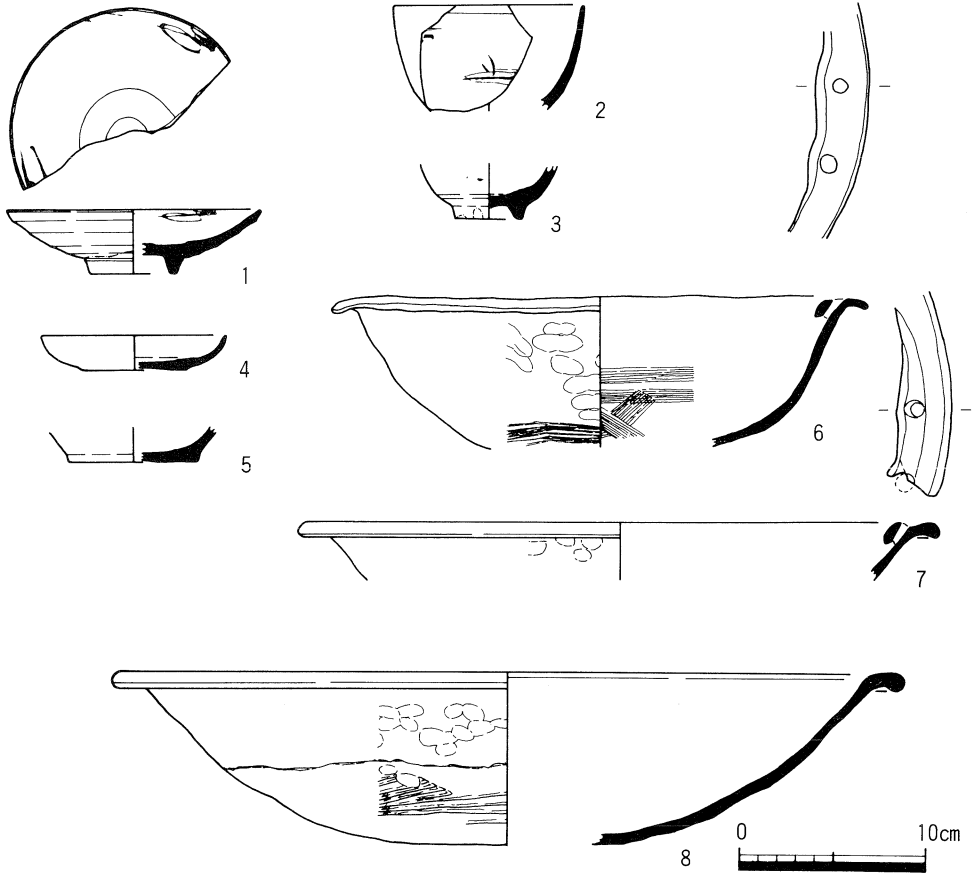
### 出土遺物 (第85図)

(1) は染付の皿である。内面には唐草文?をくすずした文様を描く。外面は削りだしによる整形を施し、釉は高台を除くほぼ全体に施釉され、内面見込みには蛇の目釉剥が施されている。(2) は染付磁器の碗である。内湾気味に立ち上がる口縁部をもつもので、外面に草文?を描く。(3) は

染付磁器の碗である。釉はやや厚めに施され、高台置付け以外は全域に施釉されている。(4) は土師器の皿である。底部はへら切りを行い、その他はヨコナデを施す。

(5) は陶器の底部である。底部は糸切りを行う。(6)~(8) は土師器の焙烙である。(6)(7) は内面に内耳をもつものである。大きさは(6)がやや小ぶりで深い形態をする。調整は外面上半部ナデ、下半粗いハケメを施す。内面はヨコナデ調整を基本とするが、(6)の内面にはハケ調整もみられる。いずれの土器も接合痕が顕

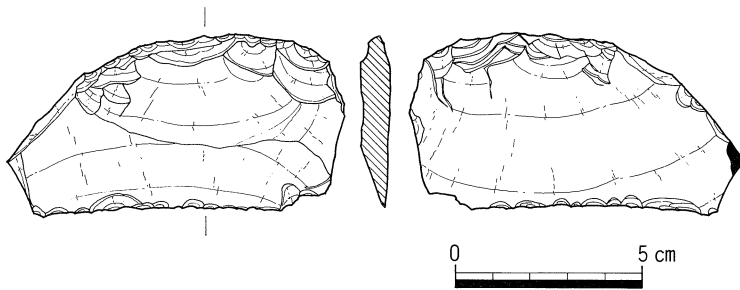
著に確認できる。



第85図 SK01出土遺物実測図(1)

SK02 (第87図)

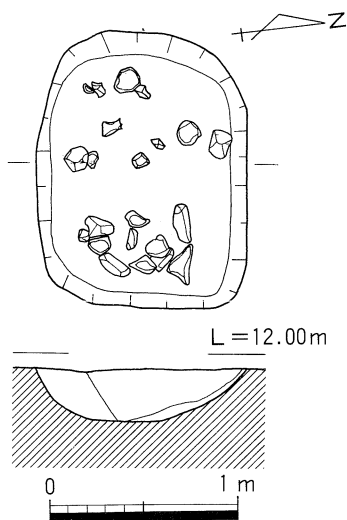
SB01の南西近く、SB04に  
囲まれるように位置し、SD  
01を切る。形状は隅丸長方  
形を呈する。規模は長軸  
1.46m、短軸1.14m、深さ  
0.28mを測る。土坑内には  
10cm大の石が20点ほどが底  
に散乱しており、その中か  
ら刷毛目唐津の鉢1点が出  
土している。埋土は1. 灰



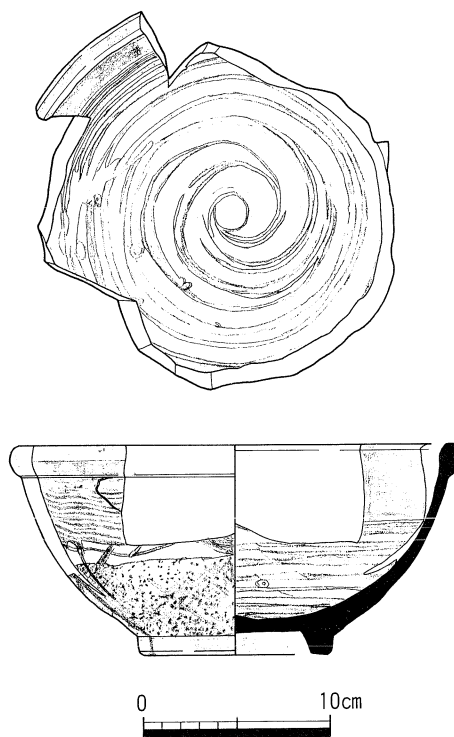
第86図 SK01出土遺物実測図(2)

白色砂質土 (10YR 7/1)、2. 灰色砂質土 (5 Y 4/1) である。





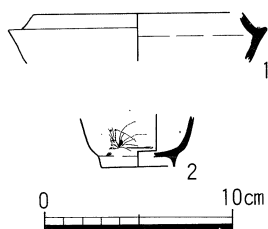
第87図 SK02実測図



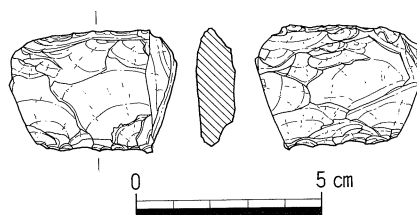
第88図 SK02出土遺物実測図

出土土器（第88図）

（1）は刷毛目唐津の鉢である。玉縁状の口縁をもつもので、内面及び外面の上半部に刷毛目の釉を施す。



第89図 SK05出土遺物実測図



第90図 SK05出土遺物実測図(2)

B群（付図1）

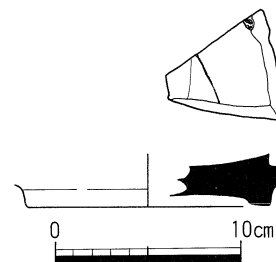
1区のほぼ中央部で確認された3基からなる土坑群である。A群と後で述べるC群の中間にあたる。

SK06（付図1）

SD08とSD10の間、SK07の北側に位置する。形状は円形を呈する。規模は直径1.70m、深さ0.40mを測る。埋土は灰黄褐色粘質土（10YR 6/2）である。

出土土器（第91図）

唐津の大皿の底部である。底部のみの出土で、全様は不明である

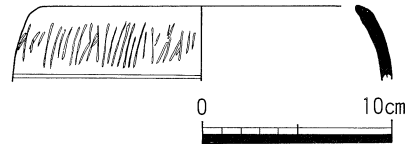


第91図 SK06出土遺物実測図

が、土器の厚さ等から相当の大物であると考えられる。茶系の釉を施し、内面に文様等もみられる。

#### SK07（付図1）

SD09とSD10の間、SK06の南側に位置する。形状は長方形を呈する。規模は長軸1.36m、短軸1.14m、深さ0.25mを測る。埋土は灰黄褐色粘質土（10YR 6/2）である。



第92図 SK07出土遺物実測図

#### 出土土器（第74図）

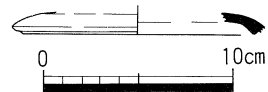
土師器土釜の口縁部である。内傾して立ち上がる口縁部をもち、端部は丸く終わる。外面に粗いハケメがみられる。

#### C群（付図1）

1区東端の南北に走る現用水路の両側に位置する総数19基の土坑群である。遺物を伴出したのはSK20、25、30の3基である。

#### SK20

SK23の南側に位置し、SD24を切る。平面形状は楕円形を呈する。規模は長軸1.00m、短軸0.94m、深さ0.17mを測る。



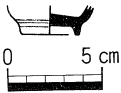
第93図 SK20出土遺物実測図

#### 出土土器（第93図）

須恵器の杯蓋である。天井部および端部、かえり部分を欠損する。混入遺物であろう。

#### SK25

SK24の北側に位置する。平面形状は隅丸長方形を呈する。規模は長軸1.40m、短軸1.00m、深さ0.40mを測る。



#### 出土土器（第94図）

染付磁器の盃である。高台豊付け以外は釉を施す。高台部外面に圈線を3条めぐらせる。

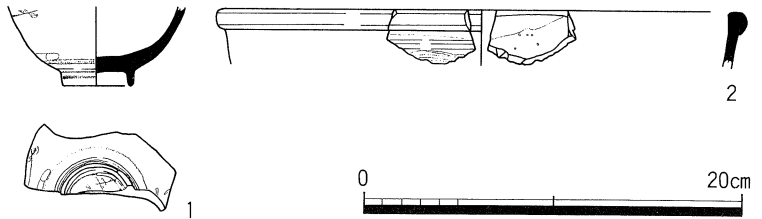
第94図 SK25  
出土遺物実測図

#### SK30

SK27の南側に位置し、SK29を切る。平面形状は不整形円形を呈する。規模は長軸2.85m、短軸2.78m、深さ0.39mを測る。

出土土器（第95図）

（1）は染付磁器の碗である。体部外面には梅花文？の文様を描き、高台内には破損で内容は不明であるが、銘文が認められる。（2）は刷毛目唐津の鉢である。



第95図 SK30出土遺物実測図

第7表 A群土坑観察表

遺構番号	平面形態	切り合い関係	規模	備考
S K03	不正円形		長軸0.85m, 短軸0.66m, 深さ	
04	不正形	SD01を切る	長軸5.80m, 短軸1.30m, 深さ	
18	楕円形 (西側は調査区外)		長軸1.20m以上, 短軸1.45m, 深さ0.29m,	
19	隅丸長方形 (西側は調査区外)		長軸0.96m以上, 短軸0.78m, 深さ0.35m,	

第8表 C群土坑観察表

遺構番号	平面形態	切り合い関係	規模	備考
S K08	隅丸方形		長軸1.25m, 短軸1.25m, 深さ0.32m,	
09	隅丸長方形 (中央部が若干凹む)	SD22を切る。	長軸1.80m, 短軸1.24m, 深さ	
10	隅丸長方形		長軸2.12m, 短軸1.00m, 深さ	
11	隅丸方形		長軸0.92m, 短軸0.82m, 深さ0.16m,	
12	隅丸方形	SD22を切る。	長軸1.36m, 短軸0.94m以上, 深さ0.26m,	
13	楕円形		長軸1.30m, 短軸0.80m, 深さ0.12m,	
14	楕円形		長軸0.98m, 短軸0.66m, 深さ0.08m,	

遺構番号	平面形態	切り合い関係	規模	備考
15	楕円形	SD15を切る。	長軸1.26m, 短軸0.96m, 深さ0.05m,	
16	楕円形	SD25を切る。	長軸2.20m, 短軸1.80m, 深さ0.34m,	
17	不正形	SD25を切る。	長軸1.60m, 短軸1.26m,	
21	楕円形		長軸1.12m, 短軸1.08m, 深さ0.34m,	
22	楕円形	SK23を切る。	長軸1.26m, 短軸0.90m, 深さ0.25m,	
23	隅丸長方形	SK22に切られる。	長軸1.90m, 短軸1.10m, 深さ0.55m,	
24	楕円形		長軸1.00m, 短軸0.82m, 深さ0.24m,	
26	楕円形		長軸1.18m, 短軸0.78m, 深さ0.13m,	
27	隅丸長方形?		長軸11.00m以上, 短軸6.00m以上, 深さ0.05m,	
29	楕円形	SD30に切られる。	長軸2.54m, 短軸1.80m, 深さ0.64m,	



## 第 4 章

### 調査のまとめ



## 第1節 遺構の変遷について

浴・長池Ⅱ遺跡からは縄文時代晩期から近世にわたる遺構・遺物を確認した。ここでは、検出した遺構を時代別にⅠ期からⅦ期に分けて遺構の変遷をみてみたい。ただ第3章の調査の成果において記述しているとおり、各遺構からの伴出遺物が極端に少ないため、はたしてその伴出遺物が遺構の時期を示すのかどうか疑わしいものもあると考えられるが、全体の変遷の中においては大きな影響はないと思われる。また、2区を中心にして検出した水田遺構については、周辺の遺跡においても確認している同時期と考えられる水田遺構を含めて第2節で若干述べたい。

### Ⅰ期（縄文時代晩期）

当遺跡で確認された遺構の最古のものが、この時期の遺構である。遺構からの伴出遺物により時期を確定できるものはSD13のみであり、切り合い関係からSD14についても当該期の遺構と考えられる。伴出遺物はなく推定の域を出ないが、SD06～12、18もこの時期に属するものと考えられる。この時期の遺構は、調査区西半から井手東Ⅰ遺跡東部にかけてみられるが、後世の削平により遺構の残りが悪いことも影響してか、遺構密度は低い。

### Ⅱ期（～弥生時代前期末）

遺構からの伴出遺物はないが、前期末と考えられる遺物を伴出したSK35が水田土壌層を切ることより、下限がこの時期と考えられるものに、1区東部から2区にかけて検出した不定形小区画水田がある。地形的には南西から北東に向かって緩やかに下る谷部において確認した。上面において畦畔を確認したのはこの範囲であるが、この水田の土壌層は1区中央部まで広がっていたことから、当時は、これよりも広い範囲で水田耕作が行われていたものと考えられる。この水田は途中断絶するが、浴・長池遺跡西部まで広がっている。時間的な制約によりこれ以外の水田を平面的に確認できなかったが、この土壌層からⅣ期の遺構面までは何面かの土壌層がみられ、しかも畦畔状の高まりもみられた。自然科学的分析を経なければならないが、この水田以外にも水田層が存在していた可能性が高い。

### Ⅲ期（弥生時代中期中葉）

後で述べるⅣ期の遺構を確認した後、水田遺構を確認した段階及び水田土壌層を除去した段階で確認した遺構である。いずれも柱穴のみの確認であるが、竪穴住居5棟（SH02～05、2区西部ピット群）、掘立柱建物1棟（SB08）を確認している。これらの遺構は遺跡の東部に集中す



る。これらの遺構からの伴出遺物は若干量であるため直接時期を特定できないが、水田層を覆っている洪水砂層から出土した土器からこの時期と考えられる。

#### Ⅳ期（弥生時代中期～後期）

Ⅲ期と同様な遺構分布を示す。大半の遺構は溝状遺構であるが、堅穴状遺構SH01、SX01、掘立柱建物SB07も確認していることより、Ⅲ期の遺構と同時期のものも含まれているものと考えられるが、SB07とSH02の重複関係、SD30のように後期後半頃と考えられる遺物を伴出している遺構もみられることや、SH02等の堅穴住居の数度の建て替え（拡張）もみられることより時期差があるものと考えられる。SD30、35は深度があり、しっかりした溝状遺構であるが、それ以外は深度も浅く明確な機能は考えられない。Ⅳ期を最後に当遺跡の盛期が終わるものと考えられる。

#### Ⅴ期（古墳時代前期?）

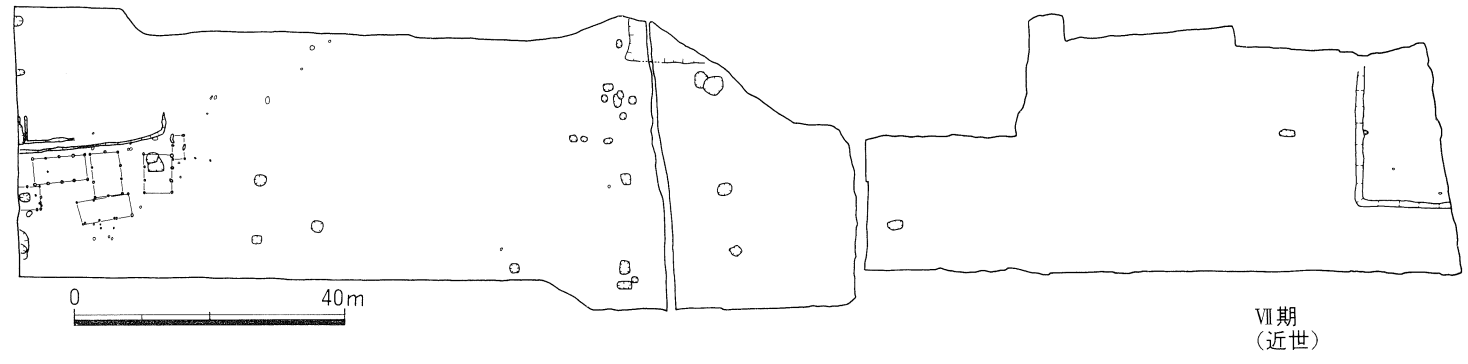
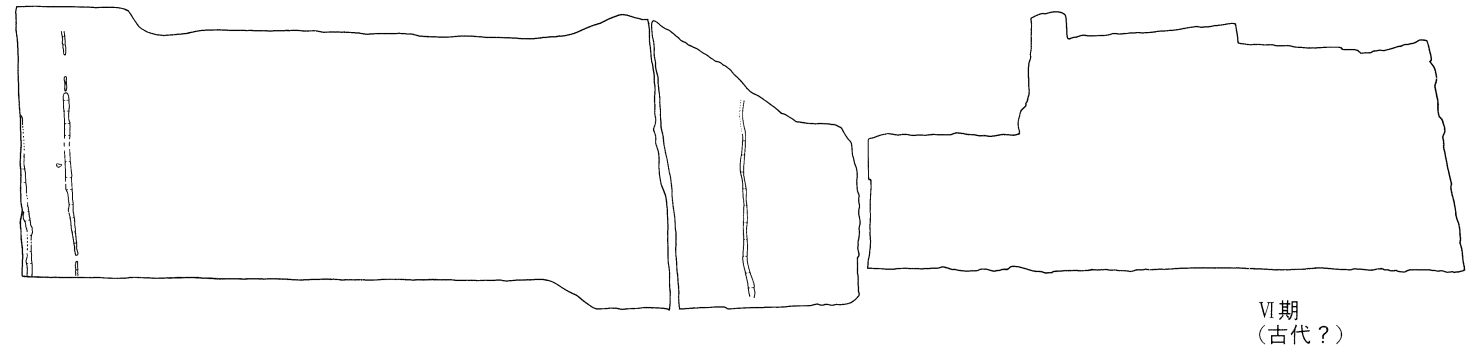
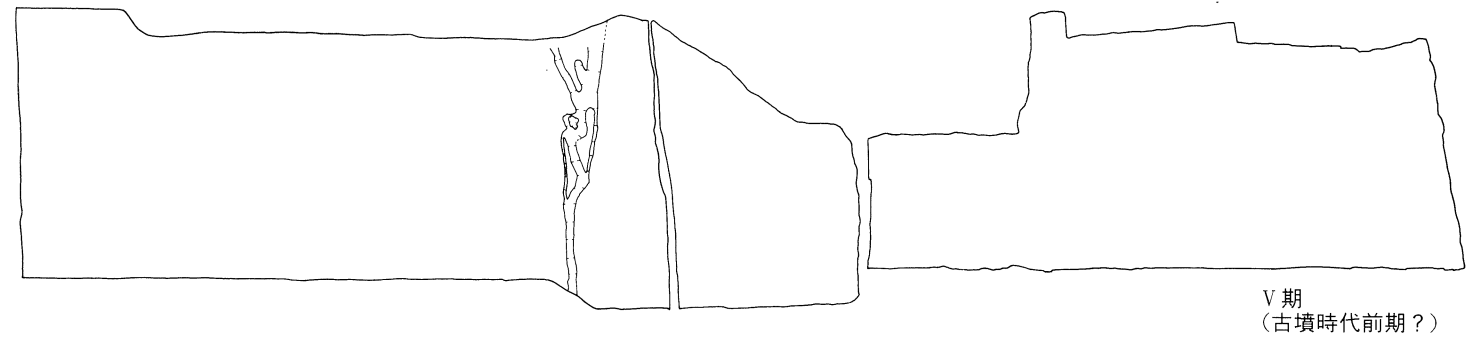
1区東部において唯一この時期と考えられる遺構が、溝状遺構SD15である。この遺構からの伴出遺物は、布留の中段階と考えられる甕の破片が1点出土しているのみであるため時期決定について不安が残る。このSD15は蛇行しながら南から北に方向を向くもので、深度は深く、しっかりした溝状遺構であるため水路等の機能が考えられる。この溝状遺構は、現在の高松平野の地割に合致する溝状遺構である。

#### Ⅵ期（古代?）

この時期に該当する遺構は、調査区西端において確認したSD01・02、1区SP11、1区東部において確認したSD46がある。いずれの遺構も後世の削平により遺構の残りはよくない。調査区西端において確認したSD01・02は、金田氏が作成した「高松平野条里分布図」<sup>(1)</sup>の山田香川郡境にあたる。2本の溝が同時に併存していたかは不明であるが、併存していると仮定すれば、郡境を示す一つの例となろう。また、SD46はSD01からの距離は103m、02からの距離は96mと条里一坪の距離108mには合わないが、浴・長池遺跡の西端で確認したSD01・02<sup>(2)</sup>の中間地点にあたることから、伴出遺物はないものの、方位、位置関係を考えれば、この遺構についても条里に関係する遺構と考えられる。

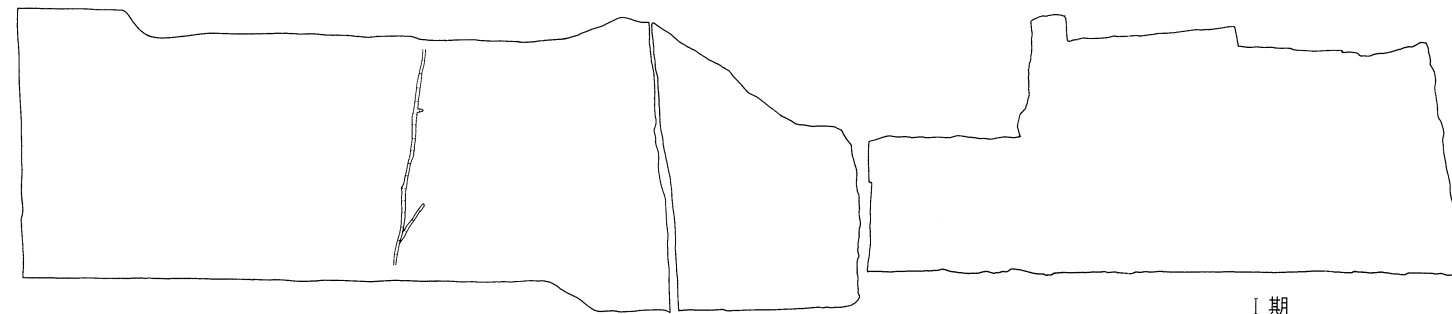
#### Ⅶ期（近世～現代）

この時期に該当する遺構は1区西部と、1区東部に集中する。1区西部は、掘立柱建物6棟、この建物を区画する溝状遺構、土坑等があり、建物の配置等から民家一軒分を検出したものと

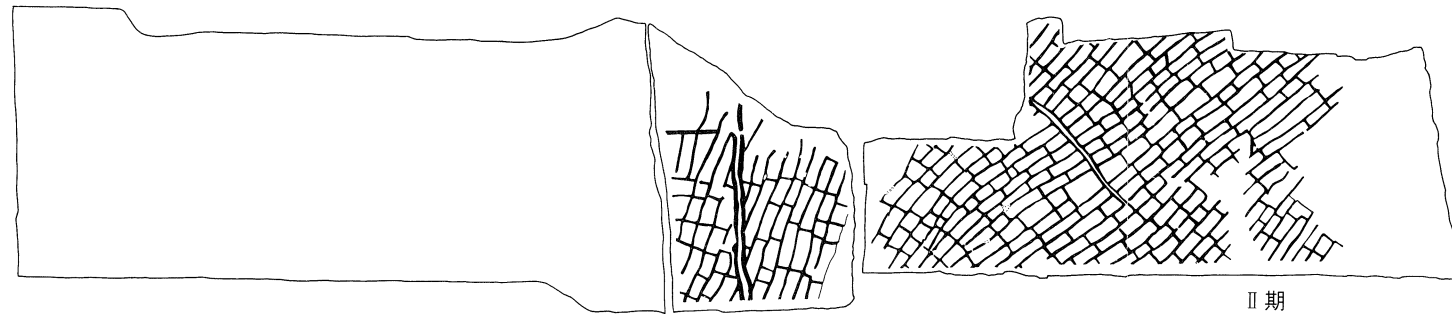


0 40m

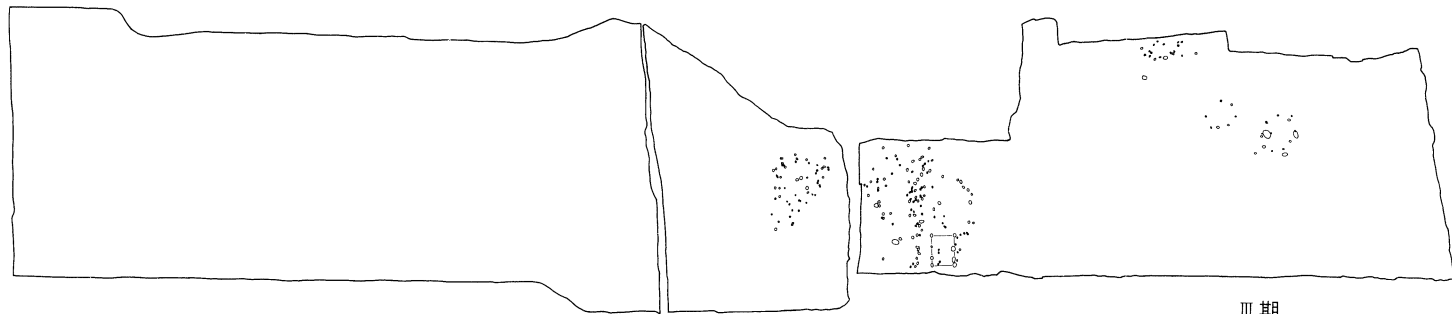
第96図 浴・長池Ⅱ遺跡遺構変遷図(2)



I 期  
(縄文時代晩期)



II 期  
(弥生時代前期末)



III 期  
(弥生時代中期中葉)



IV 期  
(弥生時代 中期中葉～後期)

0 40m

第97図 浴・長池Ⅱ遺跡遺構変遷図(1)

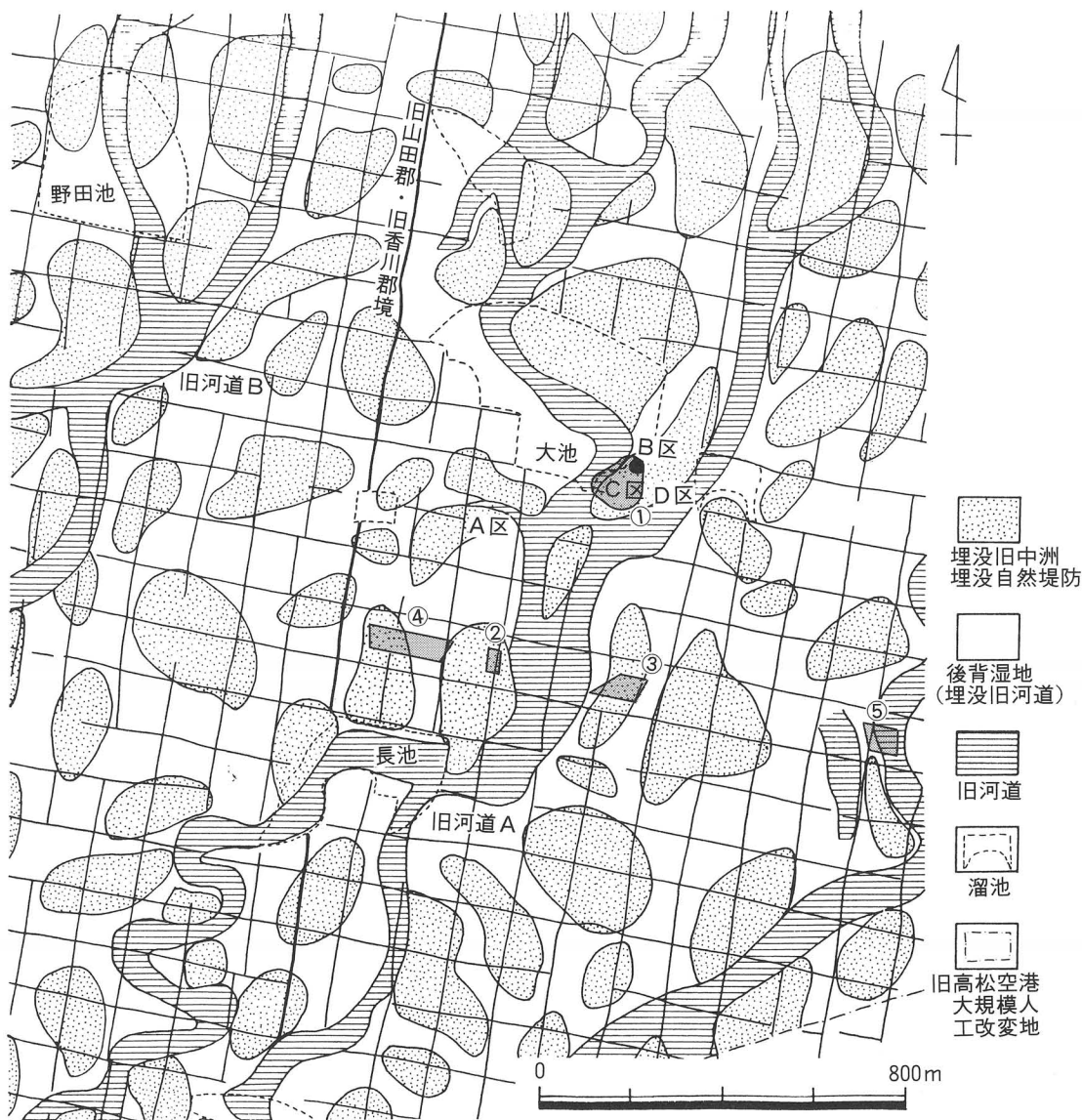
考えられる。土坑については、建物に取り込まれると考えられるものを除いて、坪境付近に集中する1区東部については土坑のみの検出であるが、やはり坪境付近に集中するようである。これらの土坑は、深さの深いものから浅いものもあり、これらの時期は、近世からごく最近のものも含まれているものと考えられる。

- (1) 金田章裕「高松平野条里分布図」『讃岐国弘福寺領の調査－弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書－』高松市教育委員会 1992. 3
- (2) 溝からの伴出遺物はないが上層の包含層である4 a層からは古代から中世の遺物を伴出していることから、このころの遺構と考えている。山本英之 第5節「古代の遺構」『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告 第一冊 浴・長池遺跡』高松市教育委員会、建設省四国地方建設局 1993. 3

## 第2節 水田遺構について

### 1. はじめに

坂出市川津町の下川津遺跡において水田遺構が確認されてから、現在までに県内において縄文時代晩期から近世にかけての水田遺構が13遺跡が確認されており、これらの水田遺構は近年増加の傾向にある。地域別にみれば、坂出市域と高松市域が大半を占める。これは、高速道路及び国道等の道路建設がこの地域に集中した点が大きく、この地域が突出して原始・古代から水



第98図 高松市林町周辺水田遺構検出遺跡位置図 (注1文献高橋報文第74図に加筆)

田開発が行われたことを示すものではない。  
 今後各地域において遺跡発掘調査が進むにしたがい、水田遺構の検出例が増加するものと思われる。水田遺構の検出例の多い高松市域の中でも、浴・長池Ⅱ遺跡が存在する高松市林町付近では、県内で最古段階に属する水田遺構及び関連遺物が確認されており、ある程度の状況がわかってきているため、浴・長池Ⅱ遺跡検出の水田遺構をまとめるにあたり、この地域で確認されている水田遺構も含めてまとめてみたい。

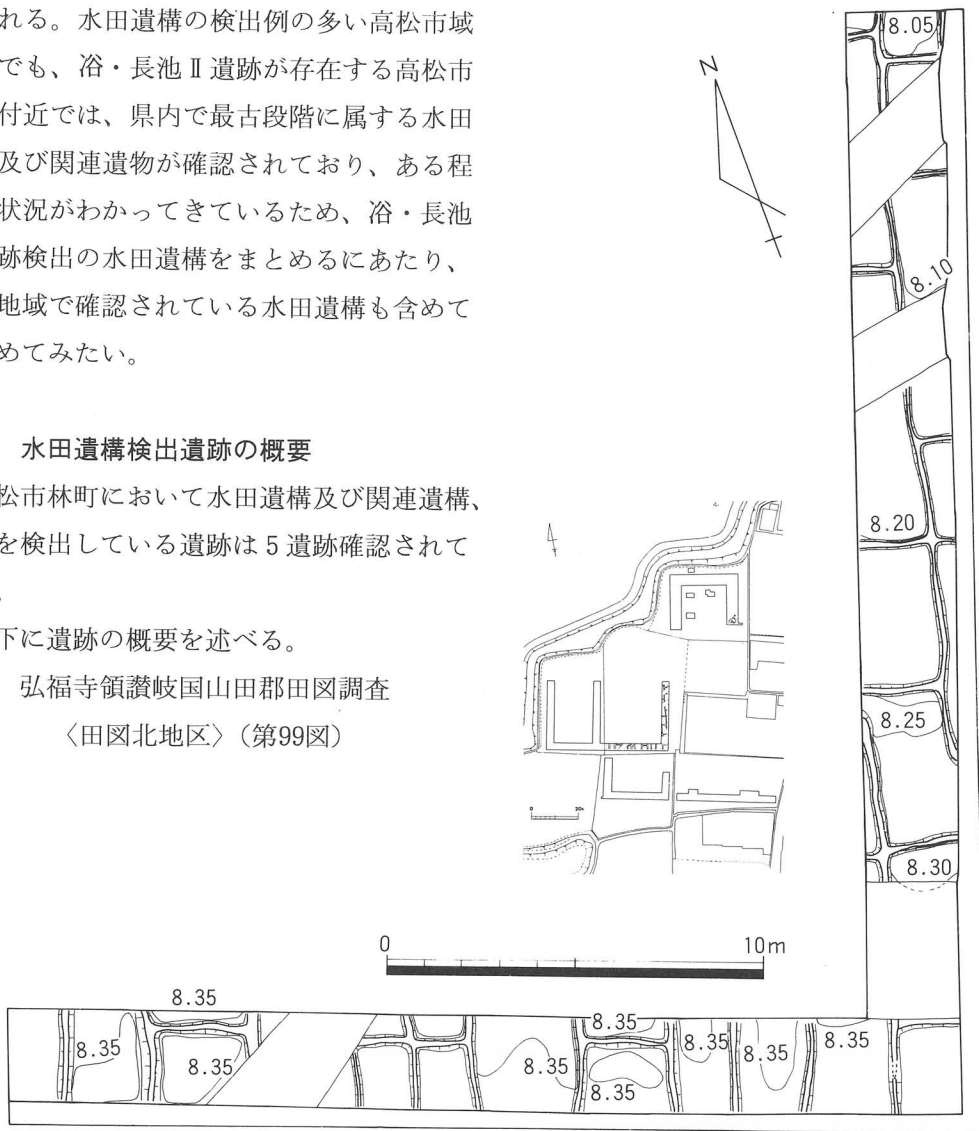
## 2. 水田遺構検出遺跡の概要

高松市林町において水田遺構及び関連遺構、遺物を検出している遺跡は5遺跡確認されている。

以下に遺跡の概要を述べる。

### (1) 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査

〈田図北地区〉(第99図)

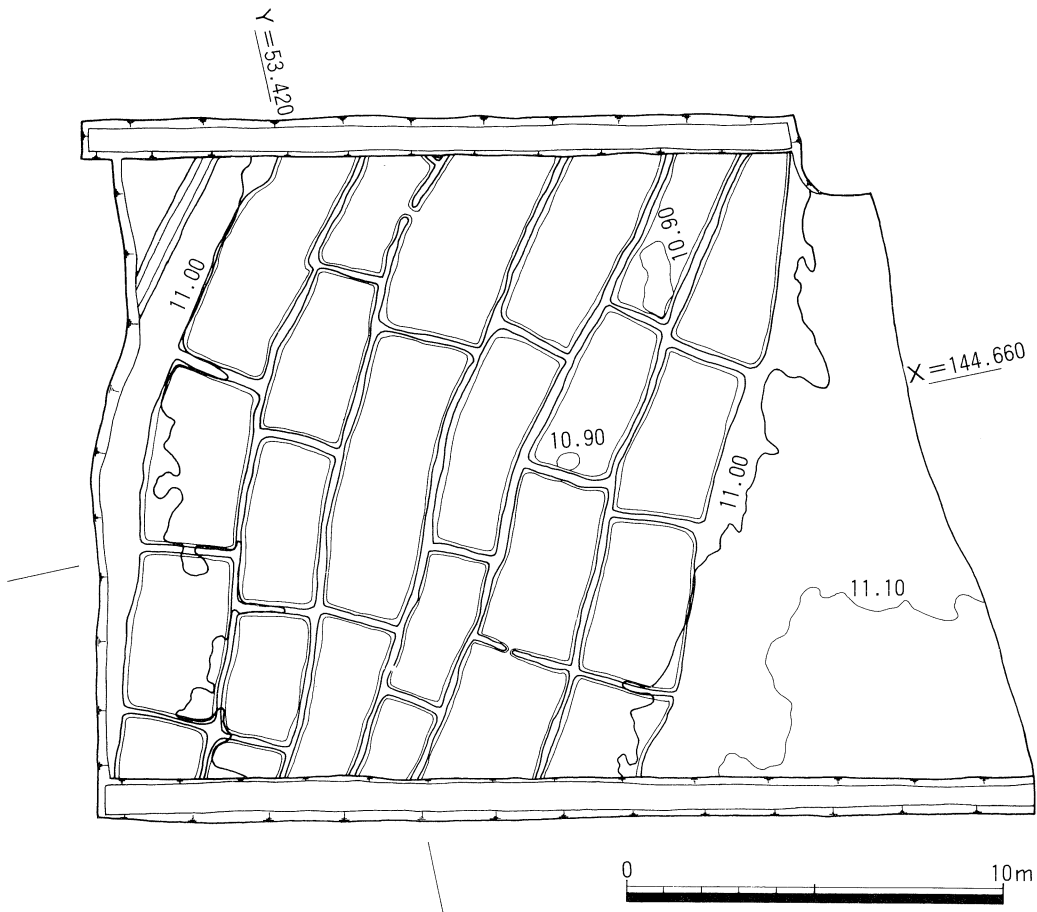


第99図 弘福寺田図北地区C区第Ⅸ層検出水田(注1文献に加筆)

昭和62年度から平成2年度にかけて国庫補助事業により田図北地区推定地の調査を行っている<sup>(1)</sup>。63年度から平成2年度の調査地は大池の南東にあたる。調査地の現在の標高は9.0m前後を測り、調査地周辺は北西に向かって緩やかに落ちる地形をする。高橋氏の地形分類<sup>(2)</sup>では調

査地の大半は自然堤防上にあたる。調査において平面的に水田遺構を確認したのは2面で、そのうちⅩ層で確認された水田はB・C区において平面的に検出している。水田面の標高は8.05～8.35mを測る。この水田遺構は平面的にはB・C区のみしか確認されていないが、土層観察では、調査区のほぼ全域において確認されている。この水田の時期は、水田土壌層からの伴出遺物はないが、上層からの出土遺物より弥生時代後期後半より以前の時期が考えられ、周辺で確認された同様の水田の時期から弥生前期の時期を考えている<sup>(3)</sup>。

(2) 浴・長池遺跡（第100図）



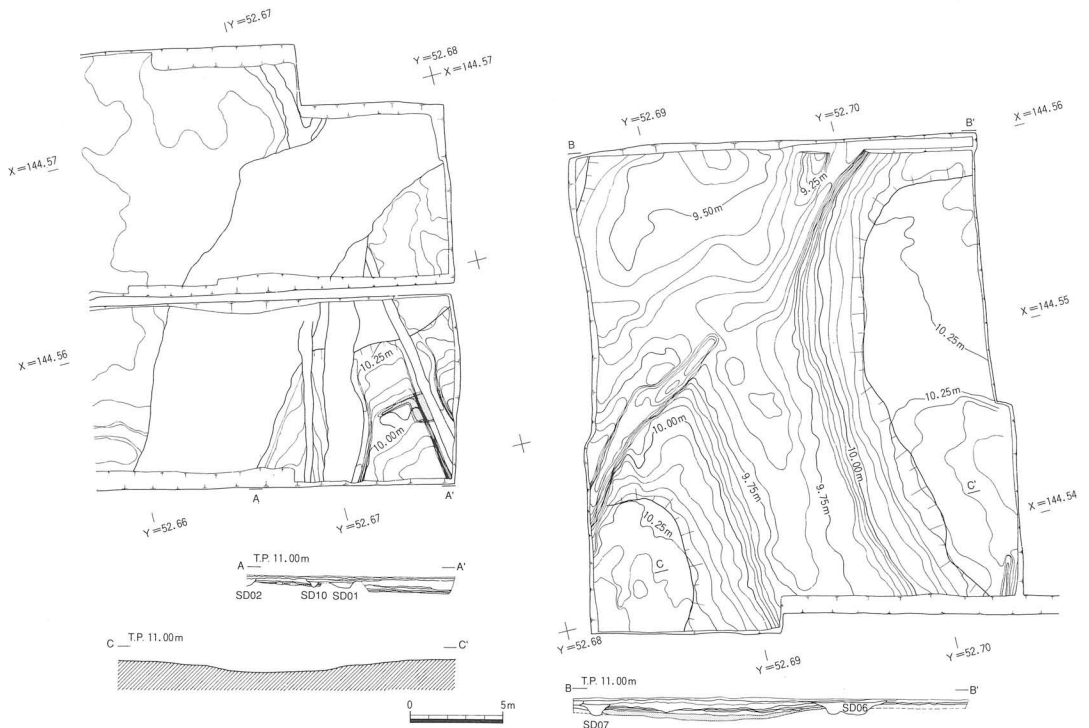
第100図 浴・長池遺跡検出不定形小区画水田（注 文献に加筆）

平成元年度に調査し、縄文晩期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物を確認した。このうち古い時期の水田遺構はSR01西岸の微高地上及びSR02西岸の微高地上で確認されている。これらの水田は高橋氏の地形分類による自然堤防上に位置する。水田の形状は残りのよいSR01西岸

の水田は工楽氏の分類によるB類にあたり、残りの悪いSR02西岸の水田遺構についても同様の形状であると考えられる。これらの水田遺構の時期は、SR01西岸で確認した水田遺構を覆う洪水砂層上面から切り込む遺構の最も古いものが、弥生時代前期末の時期であることにより、これよりも古い時期の水田であると考えられる。水田遺構は確認されていないが、SR02からは農耕具と考えられる鋤状木製品が1点、縄文晩期から弥生時代前期にかけての遺物とともに川底より出土している。この鋤状木製品に類似するものが林・坊城遺跡からも出土している<sup>(4)</sup>。

(3) 浴・松ノ木遺跡 (第101図)

平成2年度に調査をし、弥生時代後期後半から近世にかけての遺構・遺物を確認した<sup>(5)</sup>。このうち水田遺構と考えられるのは、調査区東端において確認したSX01である。この部分は高橋氏の地形分類では後背湿地部分にあたる。SX01は微高地上の帯状低地であり、その底面に堆積している黒褐色極細砂質シルト上面において等高線に平行する畦畔状高まりを確認し、一部上面検出を行っている。畦畔状高まりについては、一部分の範囲についての確認であるため詳細は



第101図 浴・松ノ木遺跡SX01

不明であるが、水田面の検出が9.50~10.25mであり、他の水田遺構に比べ水田土壌層の傾斜が急であるため、遺構の立地は他の水田と同様であるが、水田形状は他の水田と若干異なるものと考えられる。この水田遺構の時期は、上層の洪水砂層の堆積により機能を失っており、この

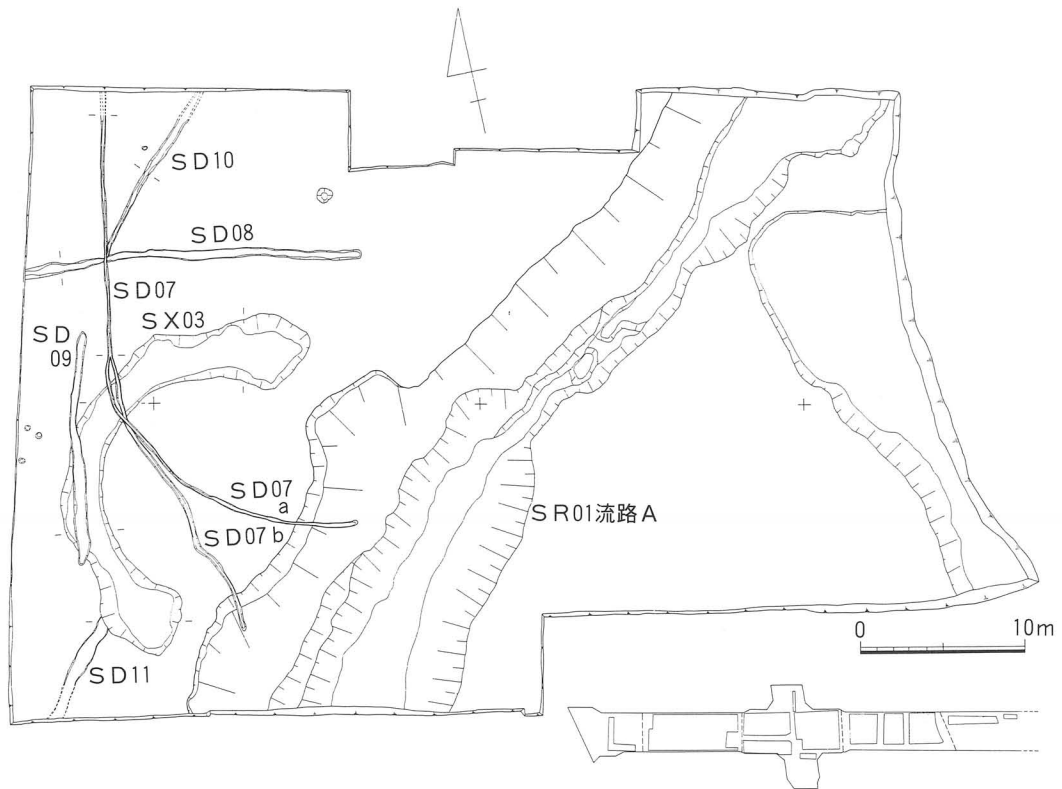


洪水砂層中から出土した土器より、弥生時代前期末の時期が考えられ、水田遺構はそれよりも古いものと考えられる。

#### (4) 浴・長池Ⅱ遺跡（第14図）

本書において詳しく述べたため、重複をさけるが、浴・長池遺跡の西側にあたり、高橋氏の地形分類では、後背湿地から自然堤防上にあたる<sup>(6)</sup>。水田遺構は調査区東半部の凹地において確認された。水田遺構の東部は途中で断絶するため不明であるが、浴・長池遺跡西端で確認した水田遺構と同一であると考えられる。この水田遺構も上層に堆積する洪水砂層によって機能を失っている。この水田は水田遺構を切る土坑から出土した遺物より、弥生時代前期末と考えられ、水田はそれよりも以前の時期が考えられる。

#### (5) 林・坊城遺跡（第102図）



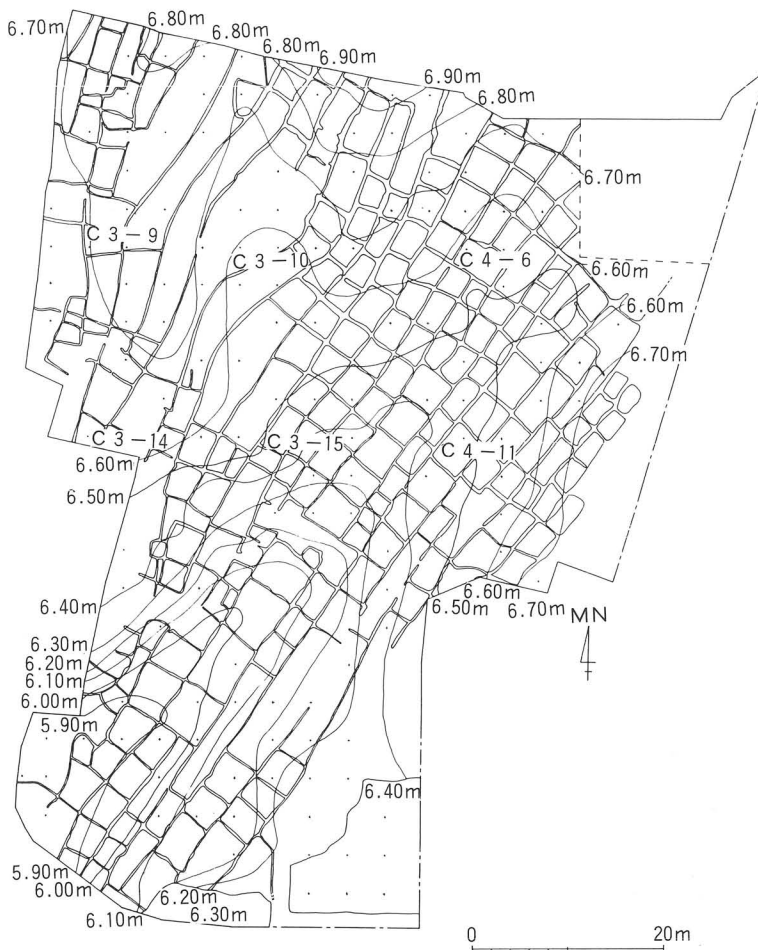
第102図 林・坊城遺跡SD01流路A

県道15線の東側に位置する。調査によって縄文時代晩期から近世にわたる遺構・遺物を確認している<sup>(7)</sup>。注目すべき遺物は、SR01流路Aから縄文時代晩期の突帯文土器が農耕具（狭鋤、スプーン状木製品）とともに多量に出土している。水田遺構は確認されていないが、前述の流路

Aの同時期の堆積物からイネのプラントオパールが確認されていることにより、水田耕作が行われている可能性が高いと想定されている<sup>(8)</sup>。プラント・オパール分析によると縄文晩期とされる層からは、水生植物の化石が多量に検出されていることから、当時の環境を低湿地や比較的水深の浅い場所に生育していたものと考えている。

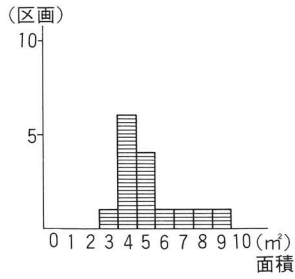
## 2 各水田遺構の立地環境と及び水田遺構の形状について

以上、各水田遺構検出遺跡の概要を述べたが、次に遺跡の立地環境について述べてみたい。

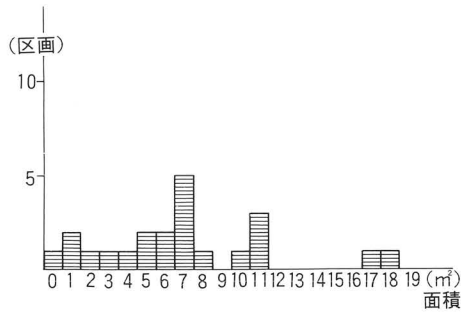


第103図 高知県田村遺跡L o c. 23・37水田遺構

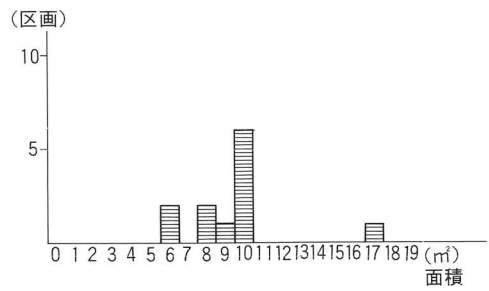
前述の(1)~(4)は高橋氏の分類図により旧河道Aの流域にあたり<sup>(9)</sup>、(5)は一本東の旧河道の流域にあたる。もう少し細かくみると(1)の大半は埋没自然堤防上、(2)も埋没自然堤防上、(3)のSX01は埋没自然堤防に挟まれた後背湿地部分にあたる。(4)は埋没自然堤防から後背湿地部分にあたる。各遺跡検出水田遺構のそれぞれの形状は(1)、(2)、(4)が不定形小区画水田であり工楽氏の分類のB類にあたる<sup>(10)</sup>。(1)に比べ(2、4)の区画形状が不正形になっているのは、(1)の等高線があまり入り込まず、地形が等間隔に緩やかに傾斜するのに対し、(2、4)は等高線が深く入り込むために形状が変わったものであると考



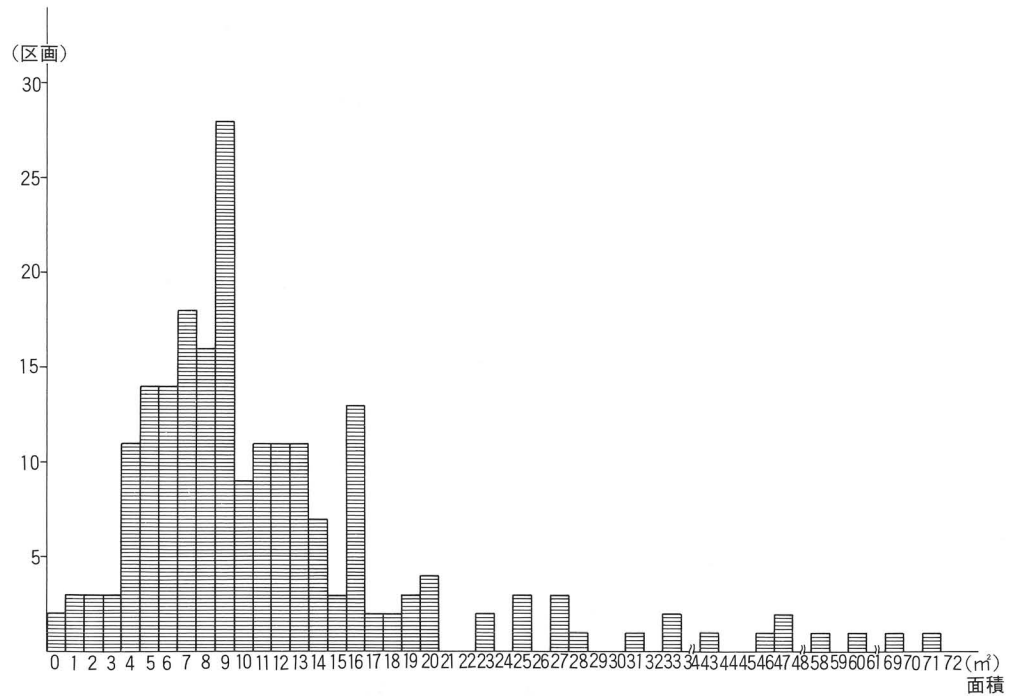
神戸市戎町遺跡検出水田



高知県南国市田村遺跡 L o c . 39 検出水田

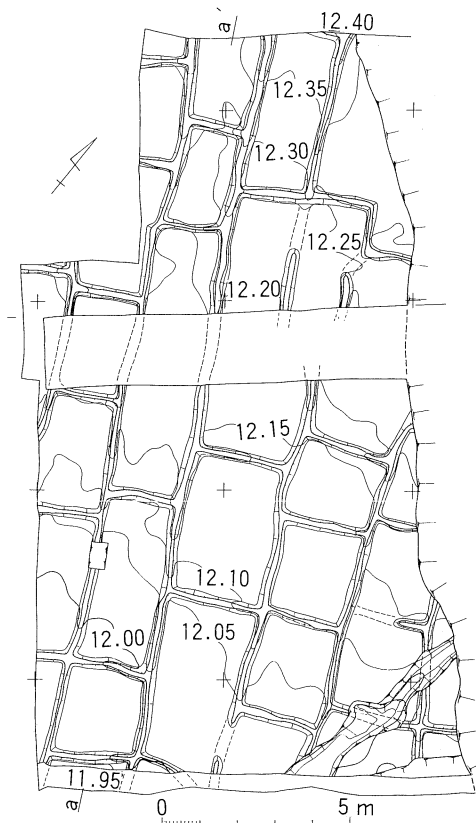


浴・長池遺跡 S R 01 西岸微高地検出水田

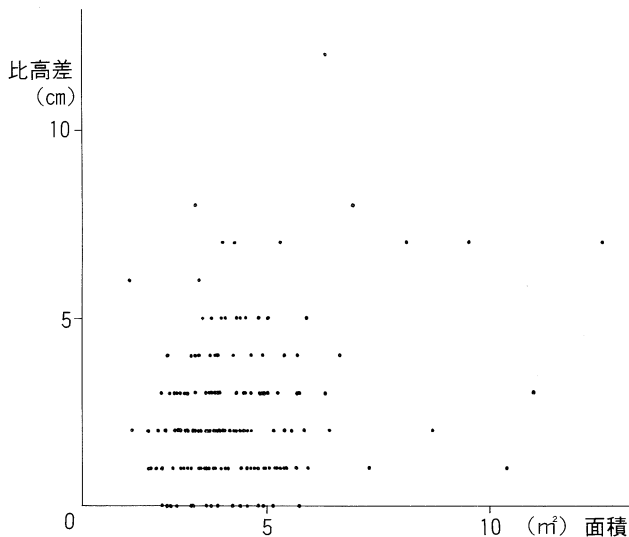


高知県南国市田村遺跡 L o c . 23・37 検出水田

第104図 各遺跡検出水田面積分布



第105図 神戸市戎町遺跡水田遺構



第9表 検出水田面積と比高差

えられる。(1)、(2)は狭い範囲での検出であるため、このような状況になっているが、広い範囲で水田遺構を検出している浴・長池Ⅱ遺跡では等高線が入り込んでいる不正形な部分と等高線が等間隔な整形に近い部分があることより、両水田は同一の形状であることがわかる。これらの水田が緩やかな傾斜を利用し、地形の起状をうまく利用した水田であることがわかる。

### 3 地形と水田一区画の面積

第104図は(1)、(2)、(4)と同様な立地条件を示す高知県南国市田村遺跡(第103図)、神戸市戎町遺跡(第105図)の検出水田区画数と面積を図にしたものである<sup>(11)</sup>。狭い範囲での検出であるが、地形の傾斜が緩やかな浴・長池遺跡の水田では、10～11㎡にピークがあり、田村遺跡Loc23・37では9～10㎡、同Loc39では7～8㎡、戎町遺跡では4～5㎡、浴・長池Ⅱ遺跡では4～6㎡にピークがみられる。田村遺跡では9～10㎡にピークがあるが、

4～15㎡の範囲内に多くの水田区画が入ることより、広い面積においては、地形の傾斜状況をうまく利用して耕作が行われているものと考えられる。正確な面積は不明であるが、弘福寺田図調査Ⅹ層上面水田では、33区画を検出し、安全な形で検出できた区画の面積は約8㎡で、その他の水田区画も同規模の面積であると考えられる。坂出市下樋遺跡では、400㎡ほどの範囲で水田区画を検出しており、畦畔の規模は一辺2.3～3㎡で正方形に近く、弘福寺田図調査Ⅹ層水田の区画形状に似る。区画の面積は不明であるが、ほぼ同規模であると考えられる。このことは、田村遺跡、浴・長

池Ⅱ遺跡の水田区画の状況からすれば、地形が低く等高線が緩やかに傾斜する部分（水の集まりやすい部分）は概して区画は大きく、地形がやや高く等高線が急な部分（水の逃げやすい部分）は区画を小さくし、水の確保につとめている。水田の傾斜の目安は地形の傾斜にもよるが、浴・長池Ⅱ遺跡を例にみれば、（第9表）水田区画の大半が、隣り合う水田区画との比高差が5cm以内であり、比高差3cm以内に7～8割が含まれることより3～5cmの比高差が水田区画の一つの目安であるらしい。

#### 4 水田の水の供給と水配り

これらの水田の水配りについては、大半のものが水口をもたない水田であり<sup>(12)</sup>、水配りは直接畔を越える「畦越え」もしくは「掛け流し」と呼ばれているものであり、灌漑用と考えられる水路は、高松市林町付近で浴・長池Ⅱ遺跡の水路以外はみられず、この水路についても補助的な水路である可能性が高い。広大な面積を確認している前述の田村遺跡においても水路は見あたらない。これらの水田の水の供給源を、工楽氏は微高地または傾斜地の上位に灌漑用水路やため池を設けて、そこから取水し、田から田へ水を供給する方法を想定している。林町において確認された水田遺構は確かに、いずれの水田も旧河道の流域に位置していることから水は得易かったものと考えられ、大東川流域に位置する坂出市下樋遺跡において、直接のつながりは不明であるが、前期頃と考えられる水田遺構の上流に合掌づくりの堰が確認されており、推測の域を出ないが、他の水田遺構も上流にこのような施設もしくは、これと同様な機能をもつものがあったのかもしれない。

#### 5 おわりに

高松市林町周辺で確認された水田遺構を中心にまとめてみたが、水田の位置関係と各水田遺構の紹介に終始してしまい、深く検討するまで至らなかった。機会をみて検討してみたい<sup>(13)</sup>。しかし、この地域で確認された水田遺構の下限が、水田土壌層を切る遺構及び上層の遺構からの出土遺物より、下限が弥生時代前期末であることは確定的である。各水田遺構は同様な立地をしており、調査をした範囲においては同様な地形状況をもつ部分はすべて、水田遺構を確認することができた。このことは当時の水田開発が広範囲において行われていたことを知る手がかりとなった。ただ、水田遺構が検出できたのは、後世において削平が及ばなかった部分であり、本来は、これよりも広がっていたはずであるが、現在においては確認できない。削平をのがれて現在までに確認された古式に属する水田遺構が、この周辺地域において多く確認できたことは、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての時期には比較的水の安定供給が可能であり、水田開発が行えやすい環境であったことは確かなようである。今後、高松平野の同様な地形において水田遺

構が検出される可能性が高く、周囲の調査の成果に期待する部分は大きい。

#### 注

- (1) 高松市教育委員会『讃岐国弘福寺領の調査』 1992年 3月
- (2) 高橋学「高松平野の地形環境」注(1)文献
- (3) 山本英之、中西克也「発掘調査の概要」注(1)文献
- (4) 山本英之、中西克也、山元敏裕「弥生時代前期の遺構と遺物」『浴・長池遺跡』高松市教育委員会、建設省四国地方建設局 1993年 3月
- (5) 山本英之、中西克也、山元敏裕『浴・松ノ木遺跡』高松市教育委員会、建設省四国地方建設局 1994年 3月刊行予定
- (6) 注(2)文献と同じ
- (7) 宮崎哲治『林・坊城遺跡』香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、建設省四国地方建設局 1993年11月
- (8) 注(7)文献「花粉分析とプラント・オパール分析」
- (9) 注(2)文献と同じ
- (10) 工楽善通「水田経営の立地と区画」『水田の考古学』東京大学出版会 1991年10月
- (11) 高知県南国市田村遺跡、神戸市戎町遺跡の水田区画数と面積の図は下記文献のデータを利用して図を作成した。
  - ・高知県教育委員会『田村遺跡群』1986年
  - ・山本雅和『戎町遺跡第1次発掘調査概報』神戸市教育委員会 1989年
- (12) 坂出市下樋遺跡で確認された水田は各水田区画に水口をもつようである。

片桐孝浩「川津下樋遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成2年度』香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、日本道路公団 1991年 8月
- (13) 弘福寺領山田郡凶北地区で検出されたK層において確認した水田に類似する水田として坂出市下川津遺跡において確認されている「水田1」が、弥生時代後期後半頃の洪水砂層によって埋没しており、水田土壌層からは前期古段階の土器が出土している。水田遺構の立地条件は前者が自然堤防、後者が埋没旧河道内にあたり状況は異なるが、両遺跡とも前期の後、後期後半までの間遺跡は空白期間があり、遺跡は継続しない。いずれの水田も前期の土壌層と考えられる層の直上からの出土土器により、水田遺構の下限を弥生時代後期後半頃と考えている。後期の水田であれば後期の土器が混在する可能性が非常に高いと考えられ、そう考えれば前期の古段階の土器しか含まれない土壌層であれば、下川津遺跡の「水田1」も前期の水田遺構と考えてよいのではないかと考えられる。

藤好史郎、西村尋文、大久保徹也『下川津遺跡』香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財  
調査センター、本州四国連絡橋公団 1990年3月

# 遺物觀察表



遺物観察表（土器）

S D 13

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第10図	図版27	縄文土器 壺	口縁径24.0 残存高4.8	口縁部外面 刻目突帯文

S K 35

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第12図- 1	図版27	弥生土器 底一部	底径6.0 残存高10.9	
- 2	—	弥生土器 甕	底径10.8 残存高23.2	

洪水砂層

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第17図- 1	—	弥生土器 壺	口縁径24.2 残存高2.4	口縁端部 円形浮文 綾杉文
- 2	図版27	弥生土器 壺	口縁径15.8 残存高2.6	
- 3	—	弥生土器 壺	口縁径13.2 残存高4.7	口縁端部 刻目文
- 4	—	弥生土器 壺	残存高6.0	頸部外面 突帯文残存 2 条 (三角形)
- 5	—	弥生土器 壺	残存高12.0	外面 櫛描沈線文 7 条
- 6	図版27	弥生土器 壺	底径6.2 残存高26.1	
- 7	〃	弥生土器 壺	底径7.4 残存高23.6	
- 8	—	弥生土器 甕	口縁径12.8 残存高4.0	
- 9	—	弥生土器 甕	口縁径16.8 残存高5.2	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	1 mm以下の長石、石英を含む	表 灰白色 裏 淡黄色	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
体部外面 ヘラミガキ	5 mm以下の長石を多量に含む	表 灰白色 裏 〃	良	底部中央付近に穿孔
内面 指頭圧痕 外面 ヘラミガキ	2～5 mm程度の長石、石英、角閃石を多量に含む	表 灰白色 裏 黒色	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英を微量含む	表 にぶい黄褐 裏 灰白色	良好	
口縁外面 指頭圧痕	1 mm以下の長石、石英を含む	表 灰黄褐 裏 浅黄褐	良	
口縁外面 ヨコナデ ハケメ	1 mm以下の長石、石英を微量含む	表 にぶい橙 裏 浅黄橙	〃	
頸部内面 ヘラミガキ 外面 ハケメ	1 mm以下の長石を少量含む	表 浅黄橙 裏 にぶい黄橙	良好	口縁部欠損
	1～2 mmの長石、角閃石、雲母を含む	表 にぶい赤褐 裏 にぶい褐	良	口縁部欠損
体部内面 ハケメ 指頭圧痕 底部内面 絞り目 底部外面 ヘラミガキ	1 mm以下の長石を少量含む	表 灰白色 裏 にぶい黄橙	〃	口縁部欠損
底部外面 ヘラミガキ	1 mm以下の長石、石英を少量含む	表 灰白色 裏 褐灰色	〃	口縁部欠損
内面 ナデ	1 mm以下の長石を含む	表 にぶい黄橙 裏 灰褐	〃	
	1～2 mm程度の長石、角閃石を含む	表 灰白色 裏 橙色	〃	

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第17図-10	—	弥生土器 甕	口縁径30.4 残存高3.2	
-11	—	弥生土器 脚部	脚径13.2 残存高6.9	
-12	—	弥生土器 底部	底径6.8 残存高3.5	
-13	—	弥生土器 底部	底径7.4 残存高4.0	
-14	—	弥生土器 底部	底径1.4 残存高5.5	
-15	—	弥生土器 底部	底径9.6 残存高4.3	
-16	—	弥生土器 底部	底径5.0 残存高4.6	
-17	—	弥生土器 底部	底径6.8 残存高4.5	

S H01

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第19図-1	図版28	弥生土器 壺	口縁径21.8 残存高3.0	口縁端部 刻目文
-2	〃	弥生土器 壺	口縁径23.4 残存高6.4	口縁端部 刻目文
-3	—	弥生土器 脚部	脚径11.0 残存高2.7	
-4	—	弥生土器 底部	底径4.6 残存高3.5	
-5	図版28	弥生土器 甕	口縁径20.4 残存高7.2	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁部 ヨコナデ 口縁外面 指頭圧痕	1mm以下の長石、石英を微量含む	表 にぶい黄橙 裏 灰白色	良好	
脚部内外面 ヨコナデ 脚部内面上方 絞り目	1mm以下の長石、石英を多量に含む	表 灰白色 裏 〃	良	
	5mm以下の長石、石英を多量に含む	表 にぶい黄橙色 裏 〃	良	
内面 指頭圧痕	1～5mmの長石、石英を含む	表 灰白色 裏 暗灰黄色	〃	外面に黒斑
	1～2mmの長石、石英を含む	表 にぶい黄橙色 裏 黄灰色	〃	
内・外面 ナデ 内面 指頭圧痕	1mm以下の長石、石英を含む	表 灰白色 裏 〃	〃	
内・外面 ヨコナデ	2mm以下の長石を多量に含む	表 にぶい橙色 裏 褐灰色	〃	
内・外面 ヨコナデ	1～3mm程度の長石を多量に含む	表 明赤褐色 裏 灰褐色		

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
頸部外面 ヨコナデ	1mm以下の長石、石英を微量含む	表 淡黄色 裏 〃	良好	
体部内面 ヘラミガキ	1mm以下の長石、石英を微量含む	表 灰白色 裏 淡黄色	〃	
	2mm以下の長石を含む	表 赤橙色 裏 褐灰色	良	
	1～3mmの長石を含む	表 黒褐色 裏 褐灰色	〃	底部側面から底面隔への穿孔
体部外面 ヘラミガキ	1mm以下の長石、石英、角閃石を多量に含む	表 赤褐色 裏 暗赤褐色	〃	

## S K 32

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第61図-1	—	弥生土器 壺	口縁径11.0 残存高4.1	

## S D 21

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第32図-1	—	紡鐘車	直径4.7 厚さ0.4	

## S D 24

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第36図-1	—	弥生土器 壺	口縁径17.6 残存高8.5	口縁端部内外面 刻目文 頸部外面 押圧突帯文
-2	—	弥生土器 壺	口縁径19.8 残存高6.5	口縁端部 刻目文 頸部外面 押圧突帯文
-3	—	弥生土器 壺	口縁径15.2 残存高3.2	
-4	—	弥生土器 底部	底径10.0 残存高6.7	
-5	—	弥生土器 底部	底径10.4 残存高4.6	

## S D 26

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第38図-1	—	弥生土器 甕	口縁径22.4 残存高11.0	

## S D 28

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第40図-1	図版28	弥生土器 甕	底径6.4 残存高22.0	底部側面から底面にかけて穿孔が2孔一対 体部に穿孔、残存2孔

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
外面 ハケメ	1mm以下の長石を多量に含む	表 明褐灰色 裏 褐灰色	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	2mm以下の長石を多量に含む	表 暗赤褐色 裏 黒褐色	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	2mm以下の長石を少量含む	表 灰白色 裏 明黄褐色	〃	
	1mm以下の長石を多量に含む	表 赤褐色 裏 灰白色	良好	
	1mm以下の長石を微量含む	表 灰白色 裏 〃	不良	
	1mm以下の長石、石英を少量含む	表 淡黄色 裏 灰白色	良	
	1mm以下の長石を微量含む	表 灰白色 裏 〃	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
体部外面 ハケメ	1mm以下の長石、石英を含む	表 赤褐色 裏 褐灰色	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	3mm以下の長石を多量に含む	表 暗赤色 裏 暗赤褐色	良	口縁部欠損

## S D29

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第42図-1	—	弥生土器 甕	頸部径18.6 残存高5.1	

## S D30

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第44図-1	—	弥生土器 壺	口縁径12.4 残存高1.2	口縁端部 刻目文 〃内面 突帯文1条 口縁部 穿孔残存1孔
-2	—	弥生土器 壺	口縁径16.0 残存高3.9	口縁端部 刻目文
-3	—	弥生土器 甕	残存高3.9	
-4	—	弥生土器 底部	底径5.6 残存高2.3	
-5	—	弥生土器 底部	底径14.2 残存高3.2	
-6	—	弥生土器 底部	底径11.0 残存高8.2	
-7	—	弥生土器 壺	口縁部26.8 残存高3.2	口縁端部 凹線3条
-8	—	弥生土器 甕	口縁径12.8 残存高2.7	
-9	—	弥生土器 鉢	口縁径37.2 残存高4.8	

## S D34

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第47図-1	図版28	弥生土器 壺	口縁内18.8 残存高1.4	口縁内面 刻目突帯文 口縁部 穿孔残存3孔
-2	〃	弥生土器 壺	口縁径12.0 残存高5.1	口縁外面 貼付突帯文 (三角形)

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	1 mm以下の長石、石英を多量に含む	表 にぶい赤褐色 裏 赤褐色		口縁端部欠損

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁部外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石を少量含む	表 にぶい赤褐色 裏 赤褐色	良	
頸部外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英を含む	表 橙色 裏 〃	不良	
胴部外面 ハケメのち荒いヘラ ミガキ 肩部外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、角閃石、 雲母を含む	表 淡黄色 裏 〃	良好	口縁端部欠損
	1 mm以下の石英、長石、角 閃石、雲母を含む	表 明赤褐色 裏 橙色	良	端部欠損
外面 ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ナデ	1 mm以下の長石、石英、角 閃石を多量に含む	表 にぶい黄褐色 裏 黄褐色	〃	外面下部に黒斑
外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	1 mm以下の長石を多量に含 む	表 明褐灰色 裏 にぶい橙色	〃	
	1 mm以下の長石、石英を多 量に含む	表 明赤褐色 裏 〃	〃	
口縁外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石を多量に含 む	表 にぶい赤褐色 裏 〃	〃	
口縁部 内・外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英を多 量に含む	表 にぶい黄褐色 裏 〃	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	1 mm以下の長石、角閃石を 多量に含む	表 にぶい赤褐色 裏 〃	良	口縁内面に黒斑
	2 mm以下の長石、角閃石を 多量に含む	表 明赤褐色 裏 にぶい赤褐色	〃	内面に接合痕が 顕著に残る



挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第47図-3	〃	弥生土器 壺	口縁径13.2 残存高5.4	口縁端部 斜格子文
-4	〃	弥生土器 壺	口縁径13.8 残存高2.9	
-5	図版28	弥生土器 壺	口縁径14.4 残存高4.9	
-6	〃	弥生土器 壺	頸部径14.4 残存高4.3	
-7	—	弥生土器 底部	底径6.0 残存高3.0	
-8	—	弥生土器 底部	底径9.0 残存高3.0	
-9	—	弥生土器 底部	底径6.6 残存高4.0	
-10	—	弥生土器 底部	底径8.0 残存高3.0	
-11	—	弥生土器 底部	底径8.6 残存高5.0	

S D35

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第49図-1	—	弥生土器 甕	口縁径20.8 残存高9.2	胴部外面 半截竹管文

S D36

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第51図-1	—	弥生土器 脚部	脚径15.8 残存高4.2	
-2	—	弥生土器 底部	底径7.4 残存高4.8	
-3	—	弥生土器 底部	底径7.2 残存高2.9	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
胴部外面 ハケメ	1 mm以下の長石を含む	表 にぶい黄橙色 裏 〃	〃	内面に黒斑
口縁部内・外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石を含む	表 赤橙色 裏 〃	〃	
口縁部内面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英、角閃石を含む	表 灰白色 裏 〃	〃	
	2 mm以下の長石、角閃石を少量含む	表 灰白色 裏 〃	〃	
	1 mm以下の長石、石英を含む	表 にぶい赤褐色 裏 明赤褐	〃	
	1 mm以下の長石を少量含む	表 灰白色 裏 淡黄色	〃	
内面 ヘラミガキ	1 mm以下の長石を少量含む	表 にぶい黄橙色 裏 黒褐色	〃	
	1 ~ 3 mmの長石、雲母を含む	表 灰白色 裏 黄灰色	〃	
外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	2 mm以下の長石、石英を少量含む	表 浅黄色 裏 暗灰黄色	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	2 mm以下の長石、石英を含む	表 橙色 裏 にぶい橙色	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
外面 ヨコナデ 内面 指頭圧痕	2 mm以下の長石、石英を多量に含む	表 浅黄色 裏 灰黄色	〃	
外面 ヘラミガキ 内面 ハケメ	1 mm以下の長石を含む	表 にぶい褐色 裏 にぶい橙色	〃	
外面 ナデ 内面 〃	1 mm以下の長石、石英を含む	表 明褐灰色 裏 褐灰色	〃	

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第51図-4	—	弥生土器 底部	底径7.0 残存高4.5	
-5	—	弥生土器 底部	底径6.0 残存高2.9	

S D37

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第53図-1	—	弥生土器 壺	口縁径10.2 残存高5.4	
-2	—	弥生土器 壺	頸部径16.8 残存高5.8	頸部外面 押圧突帯文

S D43

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第57図-1	—	弥生土器 甕	頸部径19.2 残存高5.5	

S D44

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第59図-1	—	弥生土器 体部	残存高3.9	外面 押圧突帯文 櫛描直線文 波状文6条
-2	—	弥生土器 甕	口縁径15.0 残存高22.0	

2区SP08

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第64図-1	—	弥生土器 壺	口縁径18.6 残存高1.7	
-2	—	弥生土器 底部	底径6.6 残存高4.7	
-3	図版29	弥生土器 壺	口縁径23.6 残存高5.9	口縁端部 円形浮文 綾杉文

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	2mm以下の長石を少量含む	表 灰白色 裏 にぶい黄橙色	〃	
外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	1mm以下の長石、石英を含む	表 にぶい橙色 裏 灰白色	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁端部 ヨコナデ	1～2mmの長石、石英を多量に含む	表 暗赤褐色 裏 暗赤灰色	〃	口縁部欠損
	2mm以下の長石を多量に含む	表 にぶい黄橙色 裏 灰白色	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁内面 ヨコナデ	1～2mmの長石を多量に含む	表 黄橙色 裏 灰白色	良好	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
内面 指頭圧痕	1mm以下の長石、角閃石を含む	表 にぶい黄橙色 裏 〃	良好	口縁部欠損
口縁部内外面 ヨコナデ	1mm以下長石を少量含む	表 にぶい黄橙色 裏 にぶい橙色		

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
口縁外面 ヨコナデ	1mm以下の長石、石英を含む	表 褐色 裏 明褐色	〃	
	1mm以下の長石を多量に含む	表 明赤褐色 裏 にぶい黄橙色		
外面 ハケメ 〃 ヨコナデ 内面 ミガキ	1mm以下の長石、石英を含む	表 浅黄橙色 裏 黒褐色		

## S X 01

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第66図- 1	図版29	弥生土器 壺	口縁径21.6 残存高3.6	口縁端部 刻目文
- 2	—	弥生土器 甕	口縁径19.8 残存高5.5	
- 3	—	弥生土器 底部	底径5.6 残存高5.0	
- 4	—	弥生土器 底部	底径6.6 残存高6.8	
- 5	図版29	弥生土器 脚部	脚径13.4 残存高4.7	

## S D 15

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第72図- 1	—	土師器 甕	頸径21.2 残存高5.2	

## 1区S P 11

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第76図- 1	図版30	須恵器 甕	口縁径19.6 残存高5.5	

## S K 01

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第85図- 1	図版30	染付 皿	口縁径13.8 底径4.6 器高3.4	唐草文?
- 2	—	染付 碗	底径10.4 残存高5.5	草文
- 3	—	染付 碗	底径3.5 残存高3.0	
- 4	図版30	土師器 皿	口縁径10.0 底径5.6 器高1.8	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英を微量含む	表 灰白色 裏 浅黄橙色	良	
	1 mm以下の長石を少量含む	表 浅黄橙色 裏 灰白色	〃	
外面 ヘラミガキ	1 mm以下の石英を少量含む	表 灰白色 裏 黒褐色	良好	
	1 mm以下の長石を少量含む	表 にぶい橙色 裏 浅黄橙色	良	
内外面 ヨコナデ	1 mm以下の長石、石英を多量に含む	外 にぶい黄橙色 内 灰白色	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	1 mm以下の長石、石英を含む	表 黄橙色 裏 にぶい黄橙色	良	口縁部欠損

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	1 mm以下の長石を含む	表 青灰色 裏 〃	良好	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
体部外面 ヘラ削り 高台 削り出し 内面 蛇ノ目釉剥	密	表 灰白色 裏 〃	良	
外面下部 ヘラ削り	〃	表 明緑灰色 (釉) 裏 〃	良好	
削って整形	〃	表 明青灰色 (釉) 裏 〃	〃	
底部 ヘラ切り 内面 ナデ	1 mm以下の長石、角石英を含む	表 橙色 裏 〃	良	

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第85図-5	—	備前焼 小鉢	底径7.0 残存高1.8	
-6	図版30	近世 焙烙	口縁径28.9 残存高7.6	
-7	—	近世 焙烙	口縁径42.0 残存高3.1	
-8	図版30	近世 焙烙	口縁径42.6 残存高7.6	

S K02

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第88図-1	図版30	唐津 鉢	底径10.8 器高11.0	

S K05

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第89図-1	—	須恵器 杯身	口縁径8.2 残存高2.6	
-2	—	染付 盃	底径4.0 残存高2.6	草文

S K06

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第91図-1	—	唐津 皿	底径13.4 残存高2.7	

S K07

挿図番号	図版番号	器種	法量 (cm)	施文の特徴
第92図-1	—	近世 土釜	口縁径16.4 残存高4.0	外面凹線文 (残存2条)

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
底部糸切りのちナデ	密	表 暗赤色 裏 にぶい赤色	良好	
体部外面 指頭圧痕 底部 ヶ タタキメ 内面 ハケメ 口縁部 ヨコナデ	微細な長石を少量含む	表 黒褐色 裏 褐灰色	〃	
体部外面 指頭圧痕 口縁部 ヨコナデ	微細な長石を少量含む	表 灰黄褐色 裏 黒色	〃	
体部外面 指頭圧痕 底部 ヶ タタキメ 口縁部 ヨコナデ	微細な長石を少量含む	表 灰褐色 裏 にぶい褐色	〃	外面に接合痕が 顕著に残る

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	密	表 暗オリーブ色 (釉) 裏 〃	〃	内外面にハケメ (釉)を施す。

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
内、外面 ヨコナデ	1mm以下の長石を含む	表 オリーブ灰色 裏 灰白色	良好	反転復元 堅緻
	密	表 うすい青色 (釉) 裏 〃	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	〃	表 茶色 (釉) 裏 〃	〃	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
外面ハケメ 内面 ヨコナデ	1mm以下の長石を微量含む	表 灰黄褐色 裏 灰色	〃	



## S K 20

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第93図-1	—	須恵器 蓋	返り部径12.4 残存高1.0	

## S K 25

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第94図-1	—	染付 盃	底径3.1 残存高1.5	高台部外面に圈線3条

## S K 30

挿図番号	図版番号	器 種	法量 (cm)	施 文 の 特 徴
第95図-1	—	肥前系 碗	直径3.4 残存高4.2	
-2	—	唐津 鉢	口縁径27.4 残存高2.9	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
内・外面 ナデ	密	表 青灰色 裏 ッ	良好	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
釉がけ	ッ	表 灰白色 裏 ッ	良	

成形及び調整技法	胎 土	色 調	焼成	備 考
	ッ	表 明緑灰色 裏 ッ	良好	
	ッ	表 オリーブ黒色 (釉) 裏 赤色	ッ	

遺物観察表 (石器)

S X 02

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第68図 -1	図版29	スクレイパー	10.1	5.3	1.2	60.8	サヌカイト	完形。下縁部は鋭利な大剥離面を利用し、若干の細部調整を行う。上縁部は厚く、粗い調整の後、敲打による背潰しを行う。両側縁部は未調整。
-2	〃	〃	(10.2)	5.3	0.9	(50.3)	〃	左側縁部を欠損。刃部が弯曲する半月状を呈する。下縁部は鋭利な大剥離面を利用し、若干の細部調整を行う。上縁部は直線的で、粗い調整の後、敲打による背潰しを行う。
-3	〃	〃	11.1	5.6	0.8	52.4	〃	完形。上縁部及び下縁部が弯曲する木葉形を呈する。一部に自然面を残す。下縁部は両面からの丁寧な調整により刃部をつくる。上縁部は粗い調整の後、敲打による背潰しを行う。
-4	〃	石 庖 丁	15.2	6.2	0.9	108.2	〃	完形。刃部及び背部が弯曲する形態である。刃部は鋭利な大剥離面を利用し、両面からの調整を行う。背部は、やや厚く、粗い調整の後、敲打による背潰しを行う。両側縁部には抉りが入る。

S H 01

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第19図 -6	-	スクレイパー	4.5	4.1	0.7	(11.9)	サヌカイト	下縁部以外は欠損。下縁部は両面からの粗い調整を行う。刃部は鋭利である。

S D 21

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第32図 -2	-	スクレイパー	6.4	2.6	0.6	(11.2)	サヌカイト	下縁部以外は欠損。下縁部は両面からの粗い調整を行う。また下縁部には使用による考えられる磨滅痕が認められる。

S D 22

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第34図 -1	図版28	石 匙	6.2	4.4	1.0	(26.7)	サヌカイト	下半部を欠損。やや厚めの素材を使用。つまみ部は薄く、刃部の部分は厚くつくられている。側縁部及びつまみ部の調整はあまり丁寧でない。

S D 24

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第36図 -6	図版28	石 檜	6.5	2.9	1.3	(31.7)	サヌカイト	上半部を欠損。厚めの素材を使用。両側縁部は両面からの調整を行い、両側縁部とも刃潰しを行う。基部には抉りもみとめられる。やや風化が進む。

S D 30

挿 番 号	図 版 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第44図 -10	図版28	石 錐	4.0	0.8	0.5	1.7	サヌカイト	完形。両面からの調整により丁寧につくられているが、先端部は鈍い。

## S D31

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第46図 -1	-	スクレイパー	5.0	3.5	0.6	11.5	サヌカイト	完形。両側縁部に裁断面及び自然面を残す。下縁部は両面からの調整により鋭利な刃部をつくる。上縁部は敲打による背潰しが認められる。

## S D37

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第53図 -3	図版28	石 槍	6.2	4.0	1.5	(25.5)	サヌカイト	下半部を欠損。両側縁部は片面からの調整により刃部をつくる。下半部にいくにしたがいがい厚い。
-4	-	スクレイパー	5.3	3.3	0.6	(11.5)	〃	明瞭な調整は下縁部はのみにみられるだけである。下縁部は粗い調整のみで刃部をつくる。

## S D39

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第55図 -1	-	スクレイパー	5.8	3.9	0.7	13.7	サヌカイト	薄い素材を使用、下縁部は粗い調整により刃部をつくる。

## S K36

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第63図 -1	図版29	石 剣	(5.0)	3.6	0.7	17.9	サヌカイト	先端部を欠損。両側縁部は両面からの調整を行い刃をつけた後、敲打による刃潰しを行う。下縁部についても、敲打による刃潰しが認められる。

## S K01

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第86図	図版30	スクレイパー	9.1	4.6	0.8	49.0	サヌカイト	完形。背部を弯曲し、刃部は直線的である。両側縁部は裁断面を残す。刃部は鋭利な大剝離面を利用し、両面からの調整により刃部をつくる。背部は両面からの調整の後、敲打による背潰しを行う。

## S K05

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第90図	-	楔形石器	4.6	3.2	1.0	21.5	サヌカイト	完形。両側縁に裁断面をもつ。上縁で下縁部とともに使用によるものと考えられる敲打痕が残る。

## 1・2区上面精査

挿 番 号	図 版 号	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
第69図 -1	写真2	石 鏃	2.0	1.6	0.2	0.5	サヌカイト	完形。凹基式。薄い素材を使用。鏃身中央部両側縁に抉りが入る。縁辺部は丁寧な調整が行われている。
-2	〃	〃	2.3	1.7	0.3	1.0	〃	先端部を欠損。凹基式。薄い素材を使用。縁辺部は両面からの調整により鋭利に仕上げられている。

挿 番 号	図 番 号	版 番 号	器 種	現 存 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴
-3	写真2		石 鎌	1.9	1.8	0.3	1.0	サヌカイト	先端部を欠損。凹基式。縁辺部の調整は粗く仕上げる。
-4	〃		〃	3.0	1.6	0.5	1.6	〃	先端部を欠損。凹基式。やや厚めの素材を使用。縁辺部の調整は粗く仕上げられているが鋭利である。長さの割に幅の狭いスマートな形状である。
-5	〃		〃	4.8	1.9	0.5	4.5	〃	基部を一部欠損。凹基式。縁辺部の調整は両面からの丁寧な調整により仕上げ、鋭利である。長さの割に幅の狭いスマートな形状である。
-6	〃		スクレイパー	5.0	4.0	0.8	21.2	〃	左側縁部に裁断面、右側縁部に自然面を残す。上縁部は粗い調整を施すが、下縁部(刃部)は両面からの調整により丁寧に仕上げられており、鋭利である。
-7	〃		〃	4.5	3.7	0.8	15.1	〃	左側縁部に裁断面を残す。明確に調整は下縁部のみである。下縁部は両面からの調整により刃部をつくる。
-8	〃		〃	6.5	3.6	0.8	25.2	〃	左側縁部に裁断面、右側縁部に自然面を残す。上縁部及び下縁部は両面からの調整により刃部をつくるが、上縁部及び下縁部は敲打痕が残る。
-9	〃		石 庖 丁 ?	6.5	5.0	0.4	20.0	結 晶 片 岩	薄い素材を利用。下縁部に若干の調整を加える。
-10	〃		スクレイパー	6.2	3.5	1.2	37.2	サヌカイト	右側縁部に裁断面、左側縁部を欠損する。厚めの素材を使用。上縁部は両面からの粗い調整ののち、敲打による背潰しを行う。下縁部は両面からの調整により刃部をつくる。
-11	〃		石 庖 丁	7.8	4.5	1.0	44.7	〃	左側縁部は欠損。右側縁部は欠損による裁断面が残る。下縁部は両面からの粗い調整により鋭い刃部をつくる。上縁部は厚いが、両面からの調査ののち、敲打による背潰しを行う。
第70図 -1	〃		スクレイパー	7.7	6.1	1.0	49.7	〃	左側縁部を欠損。右側縁部に裁断面を残す。下縁部は両面からの調整により刃部をつくる。上縁部は両面からの調整ののち、敲打による背潰しをおこなう。
-2	〃		石 庖 丁	9.8	5.2	1.1	76.2	〃	左側部を一部欠損。厚めの素材を使用。下縁部は両面からの粗い調整により鋭利な刃部をつくる。上縁部は両面からの調整ののち、敲打による背潰しを行い、背部をつくる。右側縁部に抉りを施す。
-3	〃		〃	13.5	5.2	1.0	96.2	〃	下縁部(刃部)の一部を欠損する。右側縁部に自然面を残す。下縁部は両面からの粗い調整により鋭い刃部をつくる。上縁部は両面からの調整ののち、敲打による背潰しを行う。左側縁部には抉りが施される。

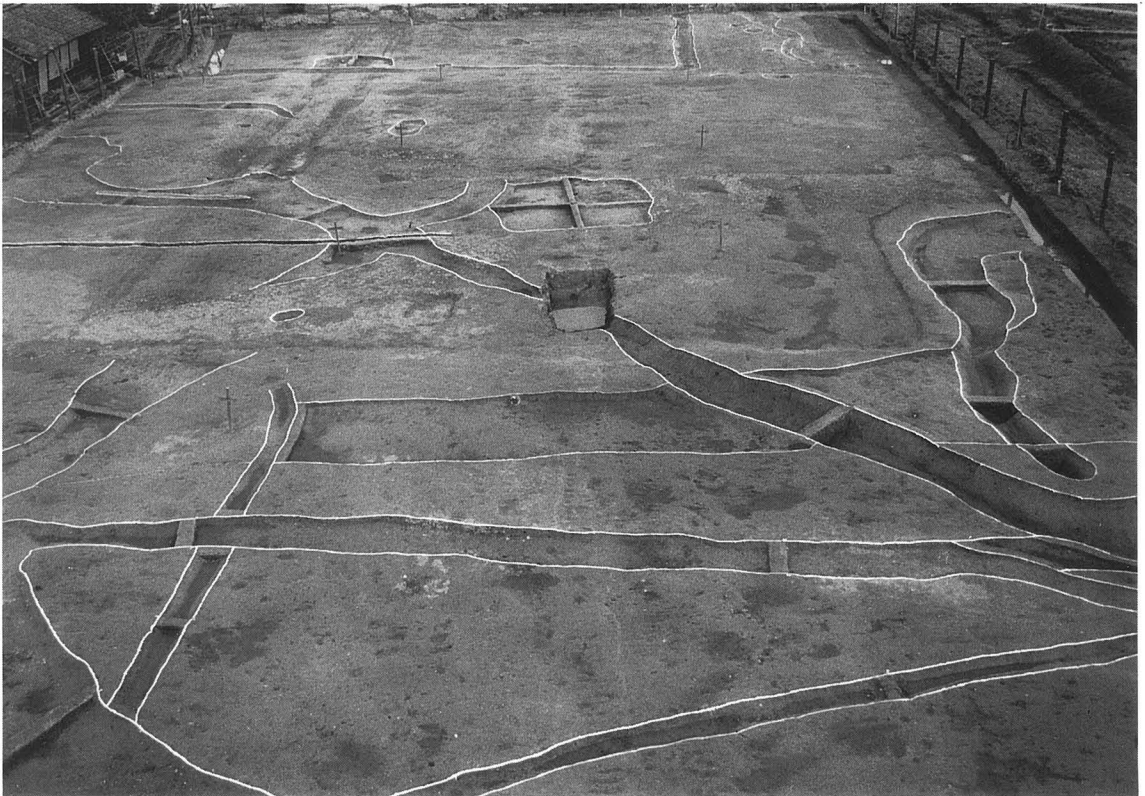
図 版



浴・長池Ⅱ遺跡不定形小区画水田



1. 1区 完掘状況（東から）



2. 2区 第1遺構面完掘状況（西から）



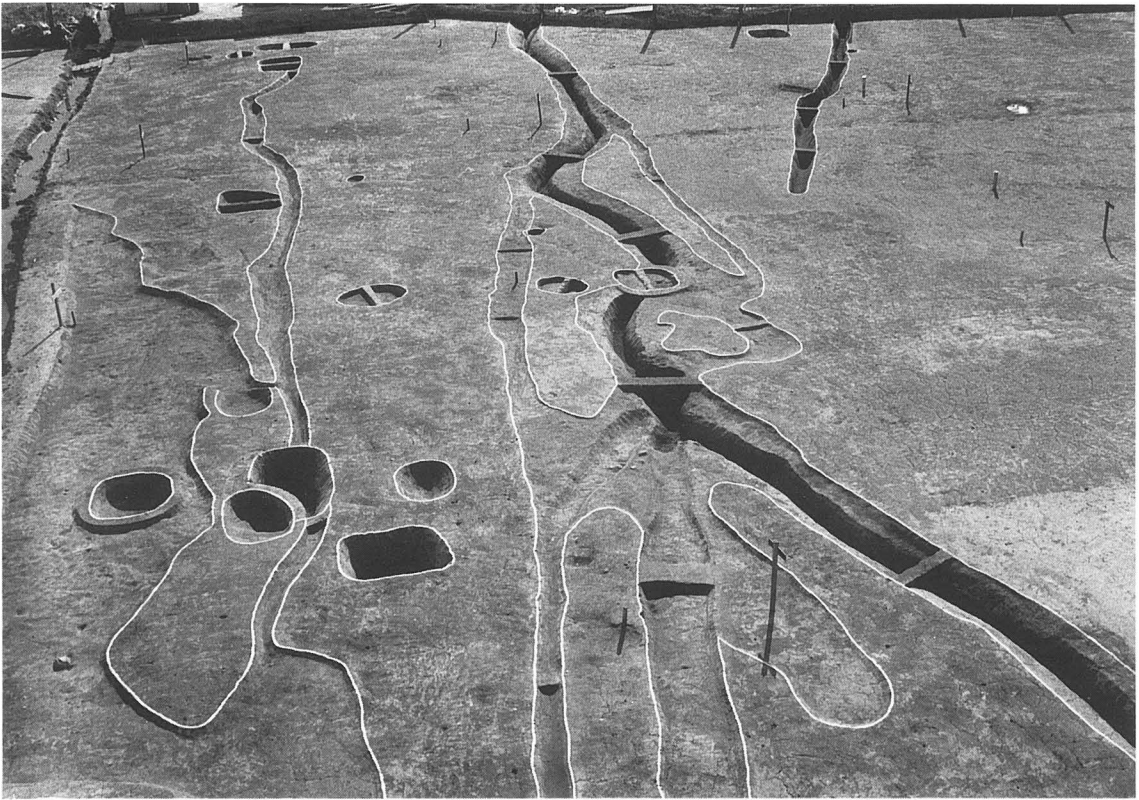


1. 1区 西部完掘状況（北から）

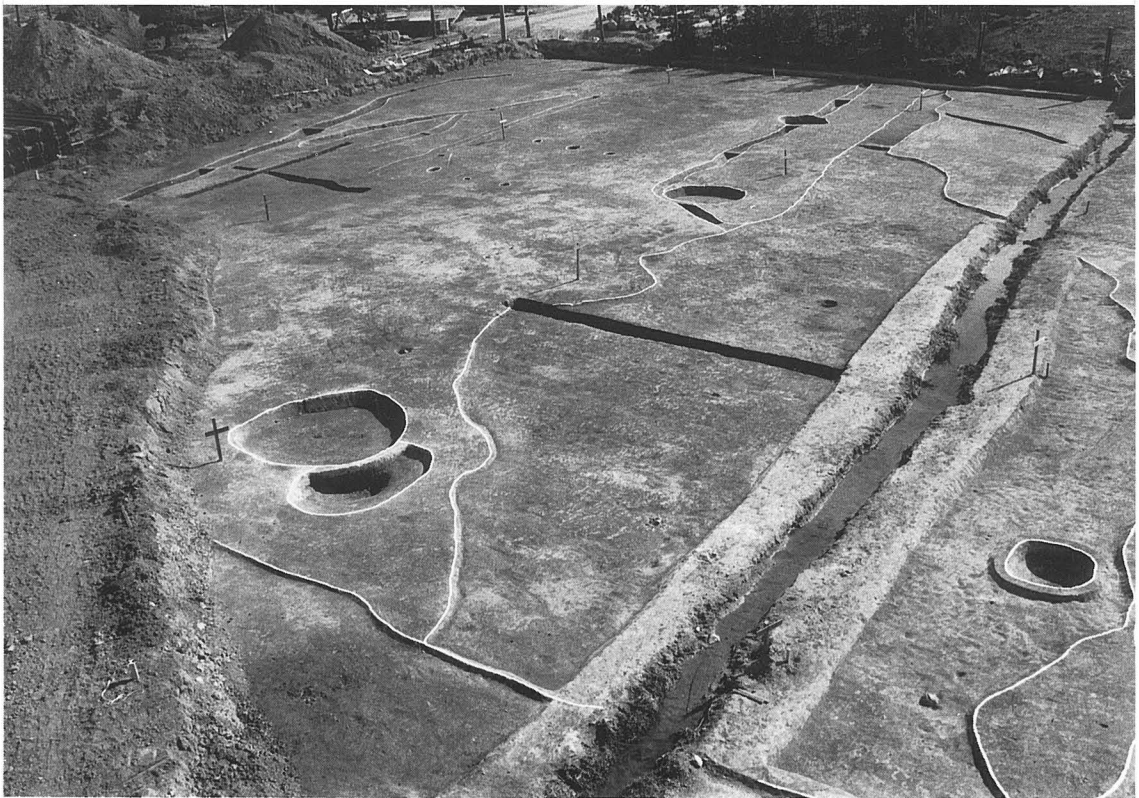


2. 1区 中央部完掘状況（北から）

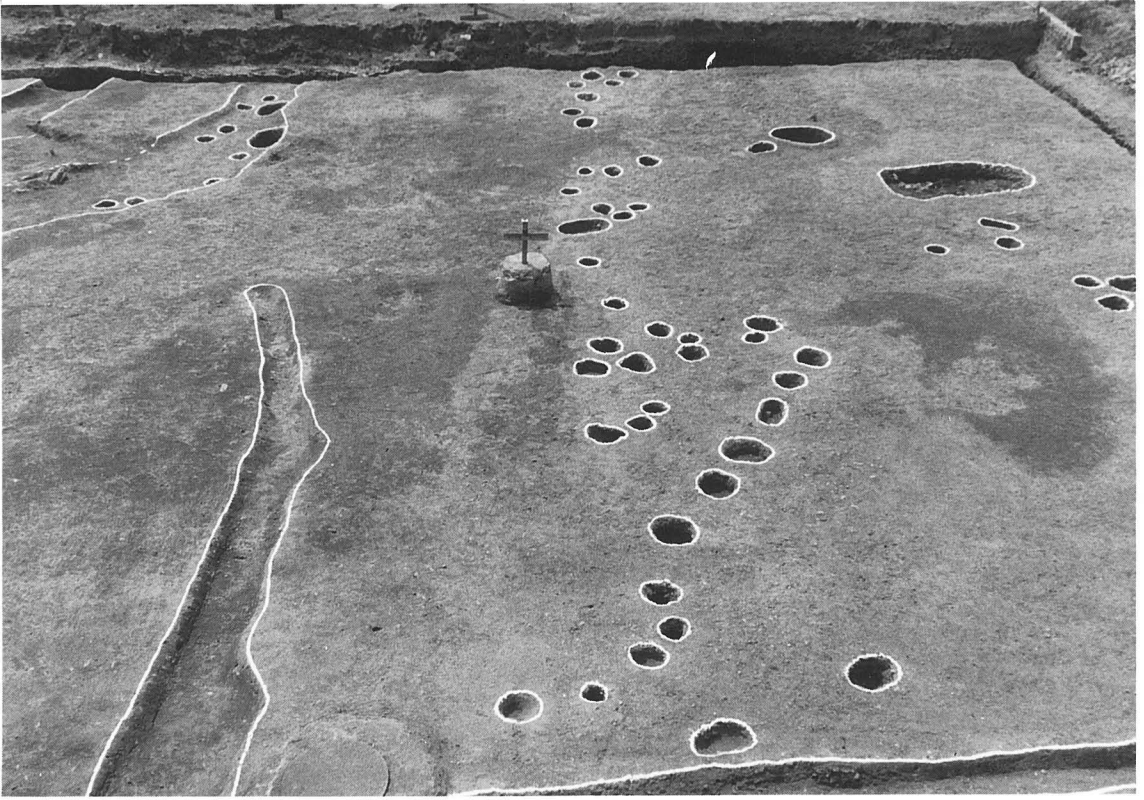




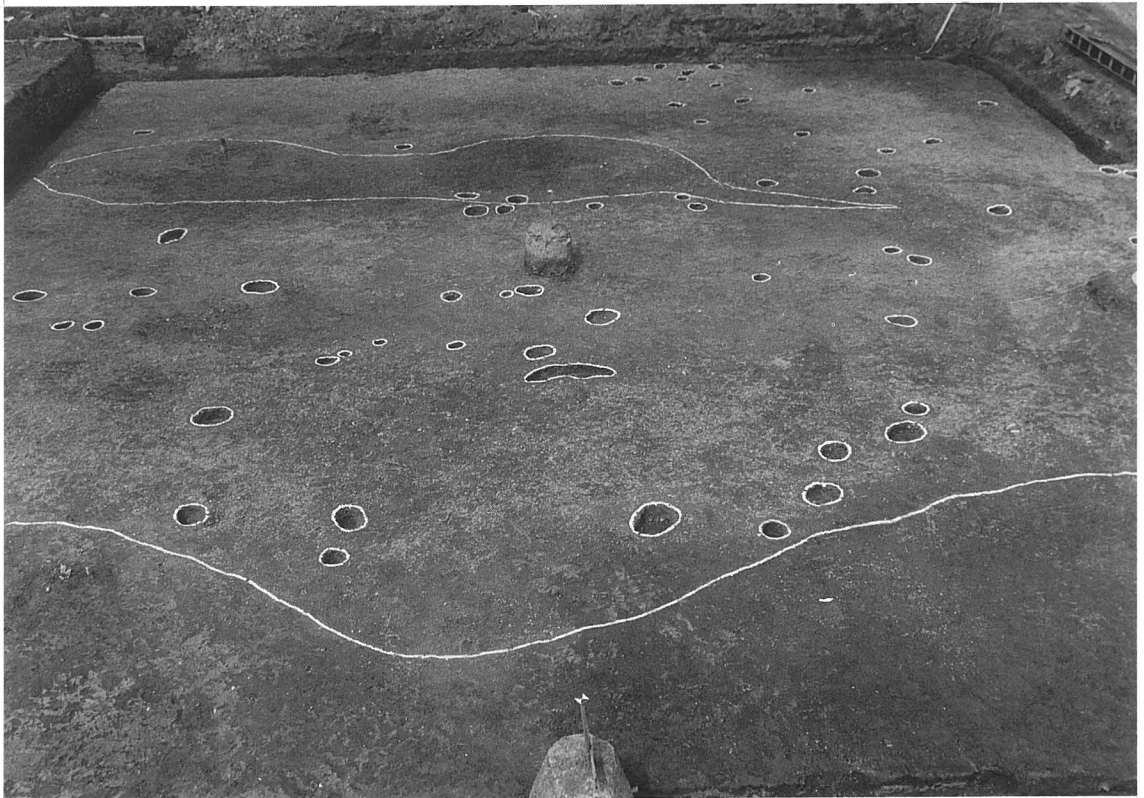
1. 1区東部-1 完掘状況 (北から)



2. 1区東部-2 完掘状況 (北から)



1. 第2次調査 第1遺構面完掘状況（北から）



2. 第2次調査 第2遺構面完掘状況（東から）

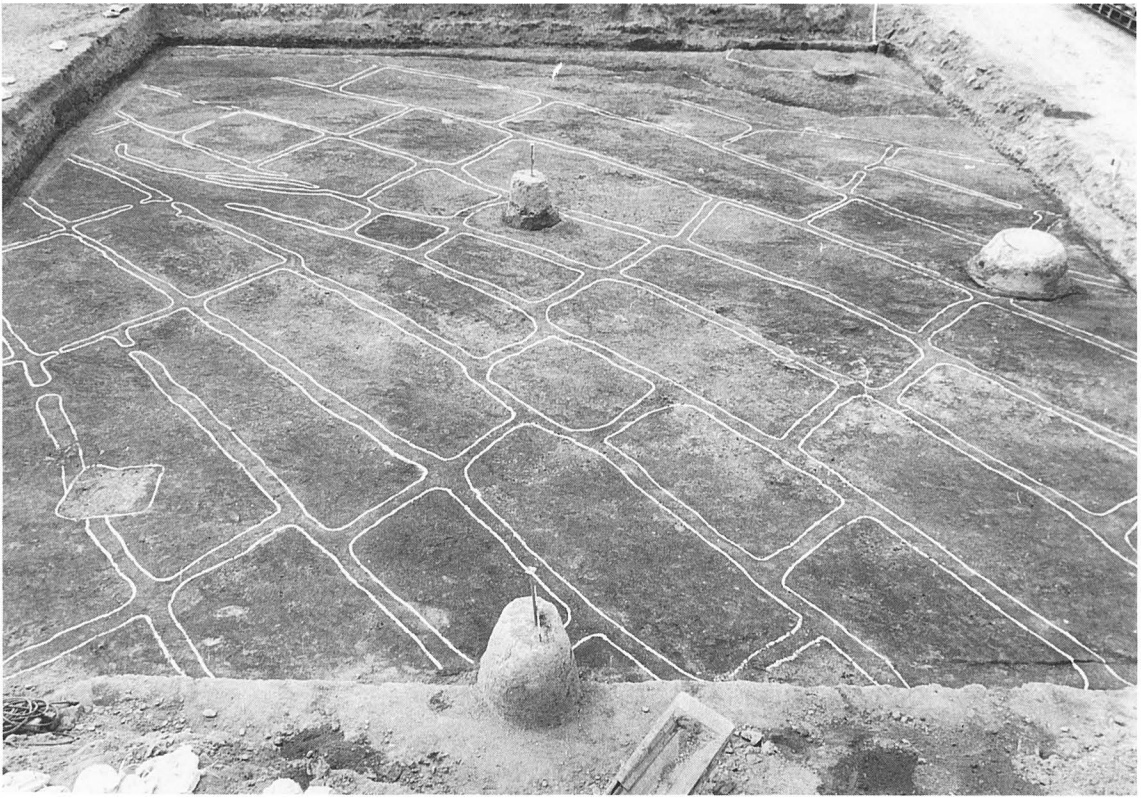


1. 2区 不定形小区画水田完掘状況（南西から）



2. 2区 不定形小区画水田完掘状況（西から）





1. 2次調査 不定形小区画水田完掘状況（東から）



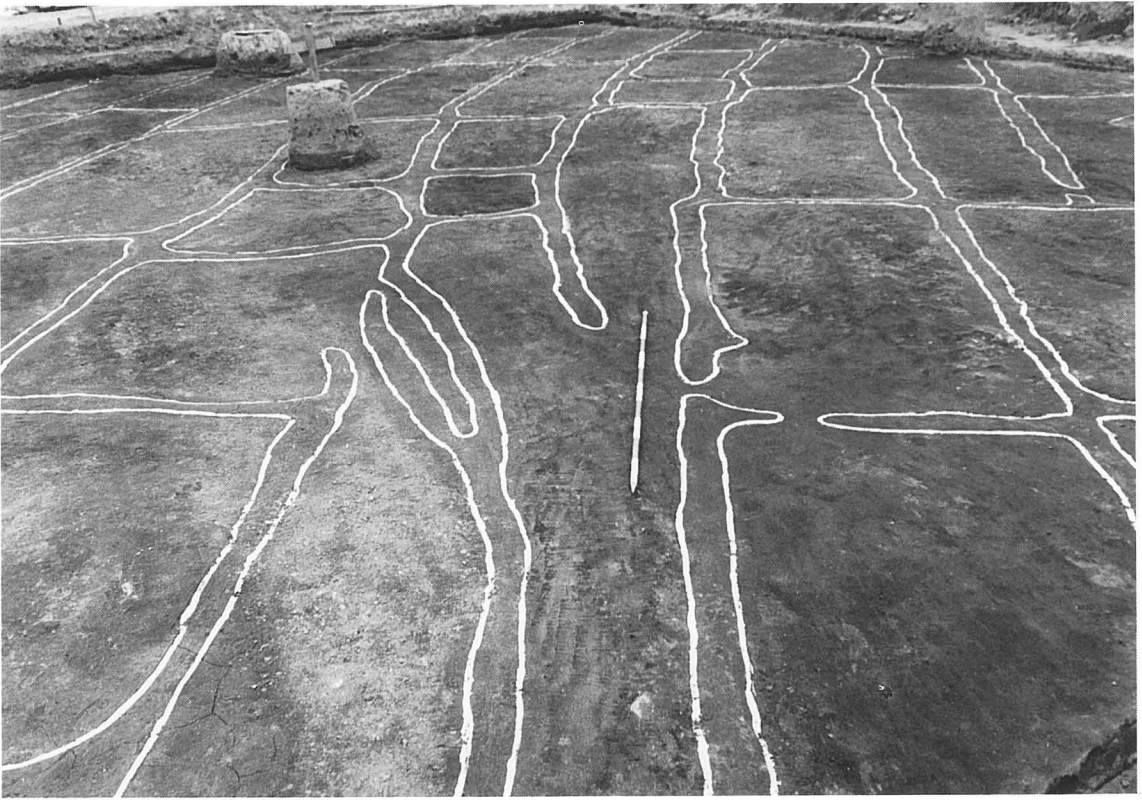
2. 1区東部 不定形小区画水田完掘状況（西から）



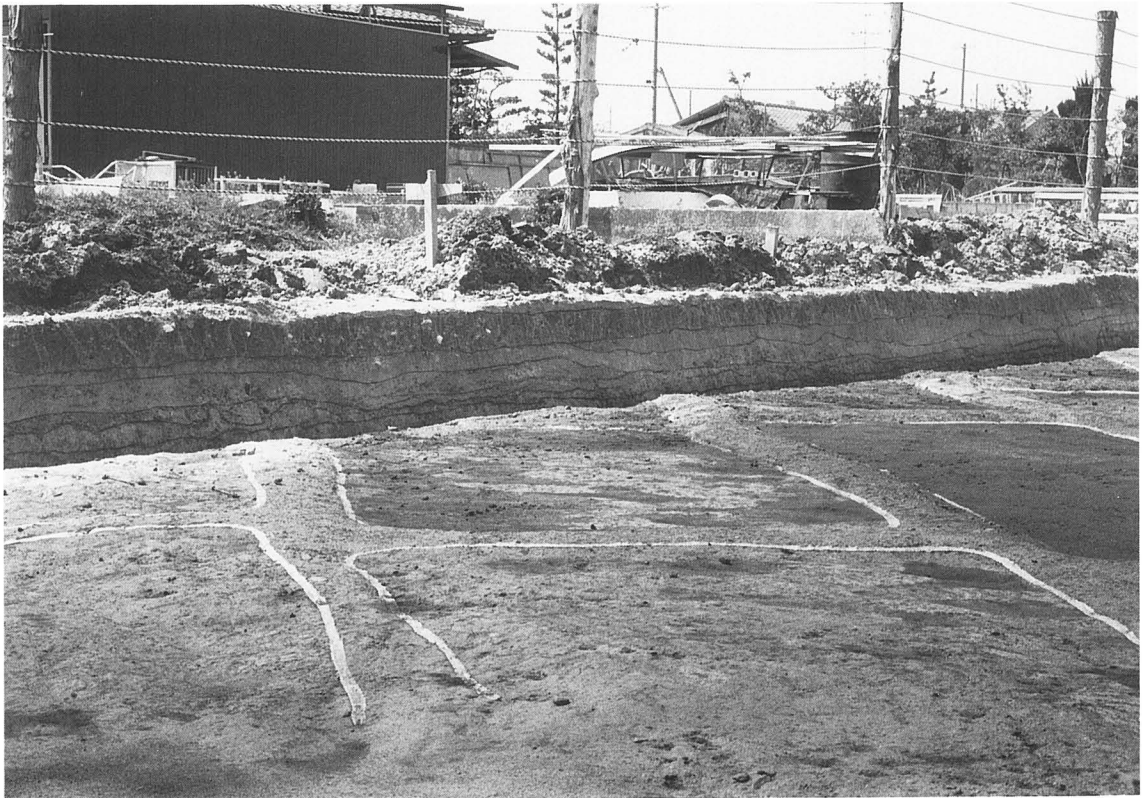
1. 2区 不定形小区画水田内水路（北西から）



2. 2区 不定形小区画水田内水路（南東から）



1. 2次調査 不定形小区画水田細部（南西から）



2. 2区 不定形小区画水田土層堆積状況





1. 2区 不定形小区画水田 洪水破壊状況（南から）



2. 2区 洪水層堆積状況（北から）



1. 1区東部 南壁土層堆積状況



2. 2区 南壁土層堆積状況





1. 2区SK35 遺物出土状況



2. 2区SK35 完掘状況



1. SH01 完掘状況（東から）



2. SH01 中央土坑土層堆積状況



1. SH01 南北セクション南部土層堆積状況

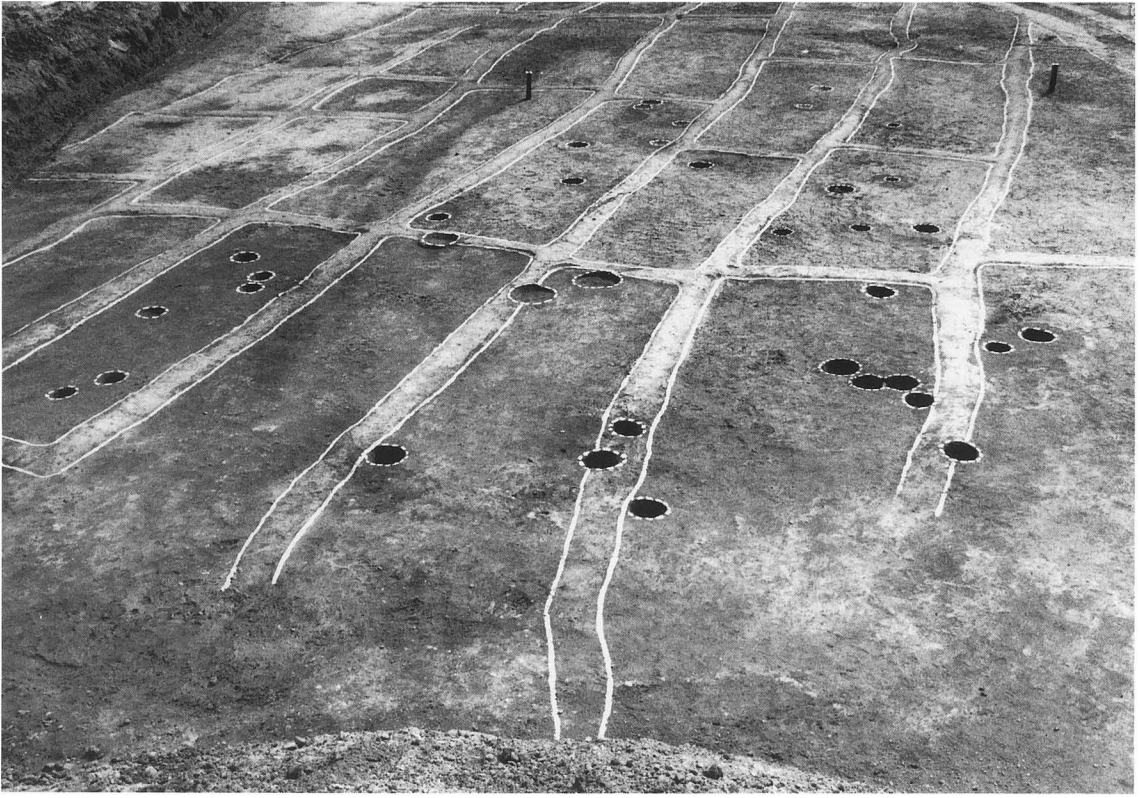


2. SH01 南北セクション北部土層堆積状況

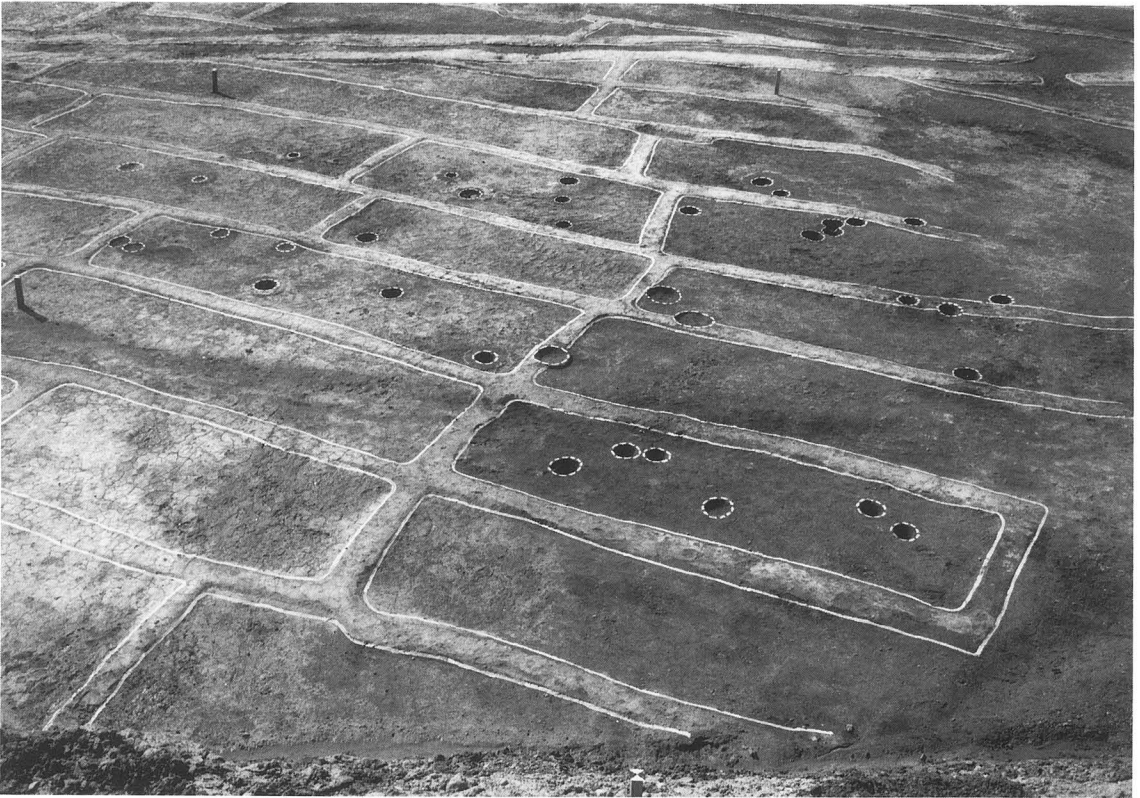


3. SH01 東西セクション西部土層堆積状況





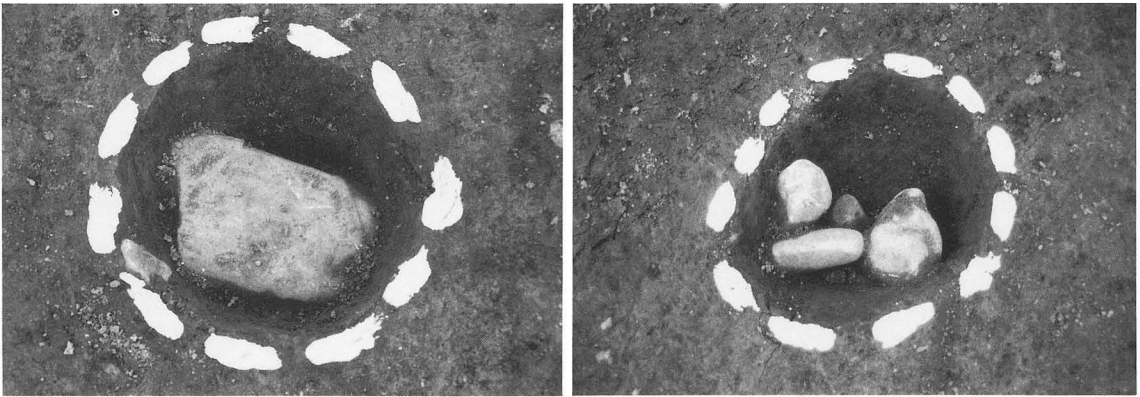
1. SH02 完掘状況（北から）



2. SH02 完掘状況（東から）



1. SH03 完掘状況（東から）



2. SH03 Pit内部状況

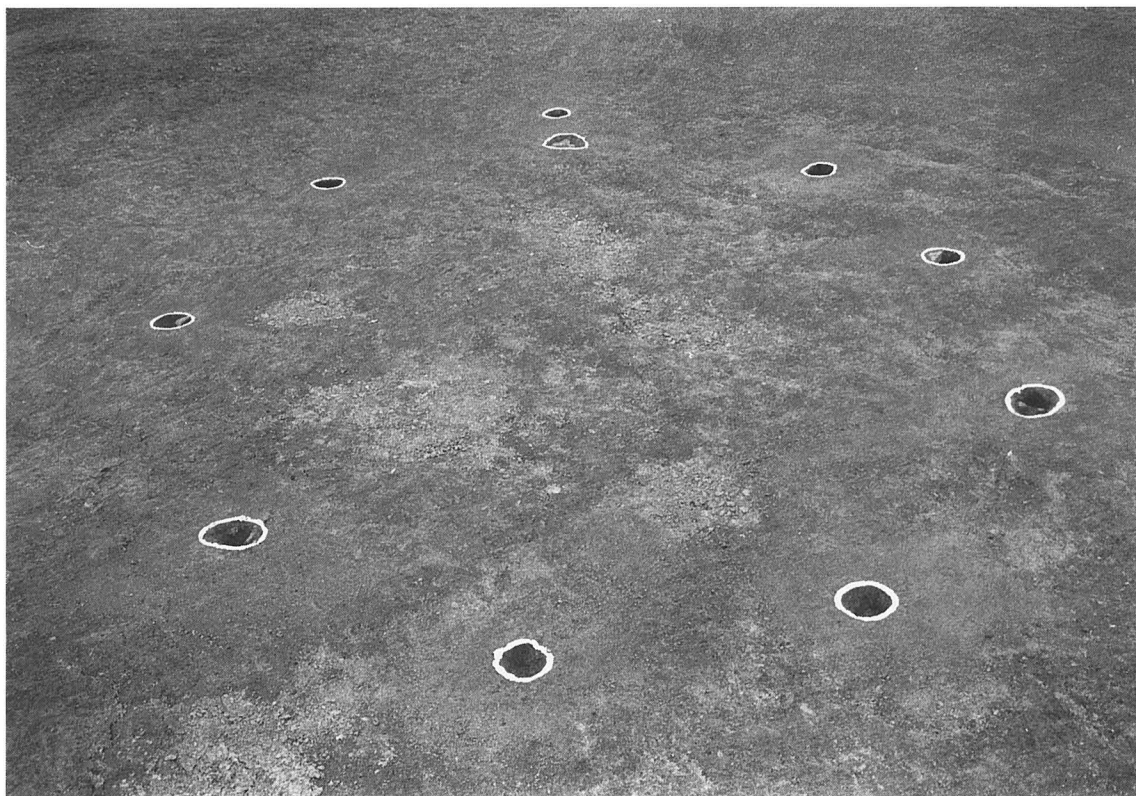


1. SH04 完掘状況（西から）

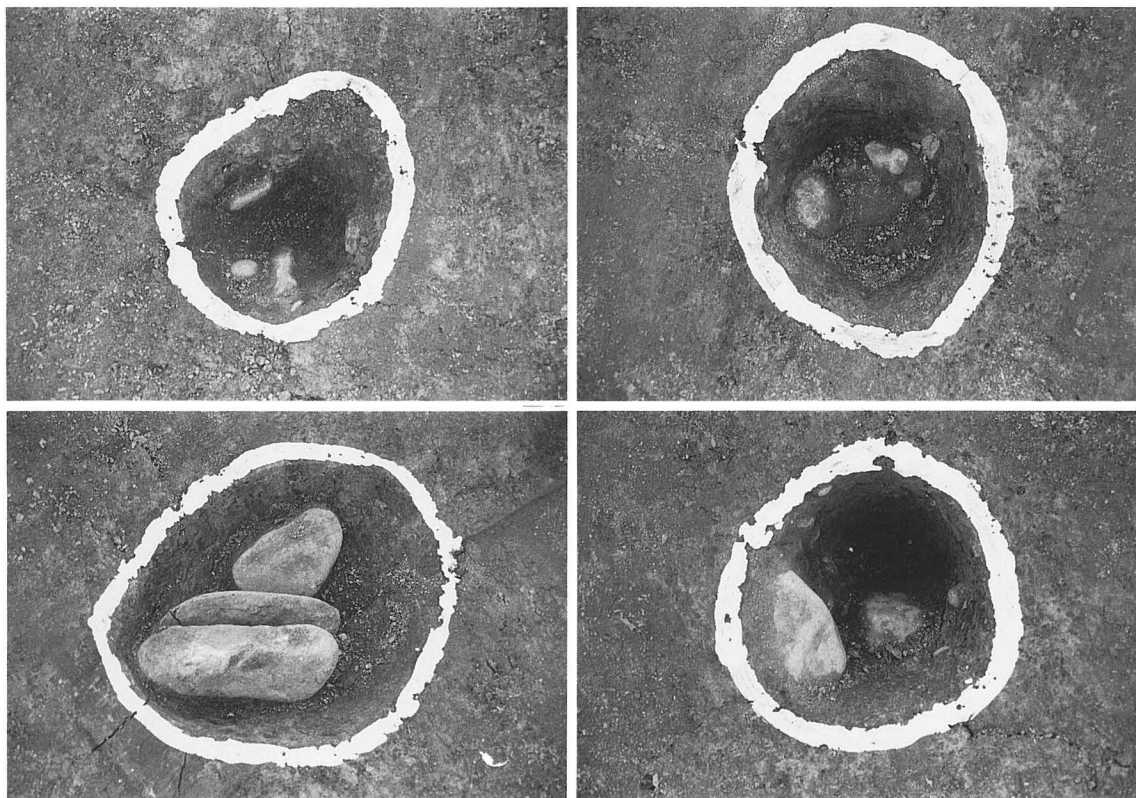


2. SH04 完掘状況（南から）

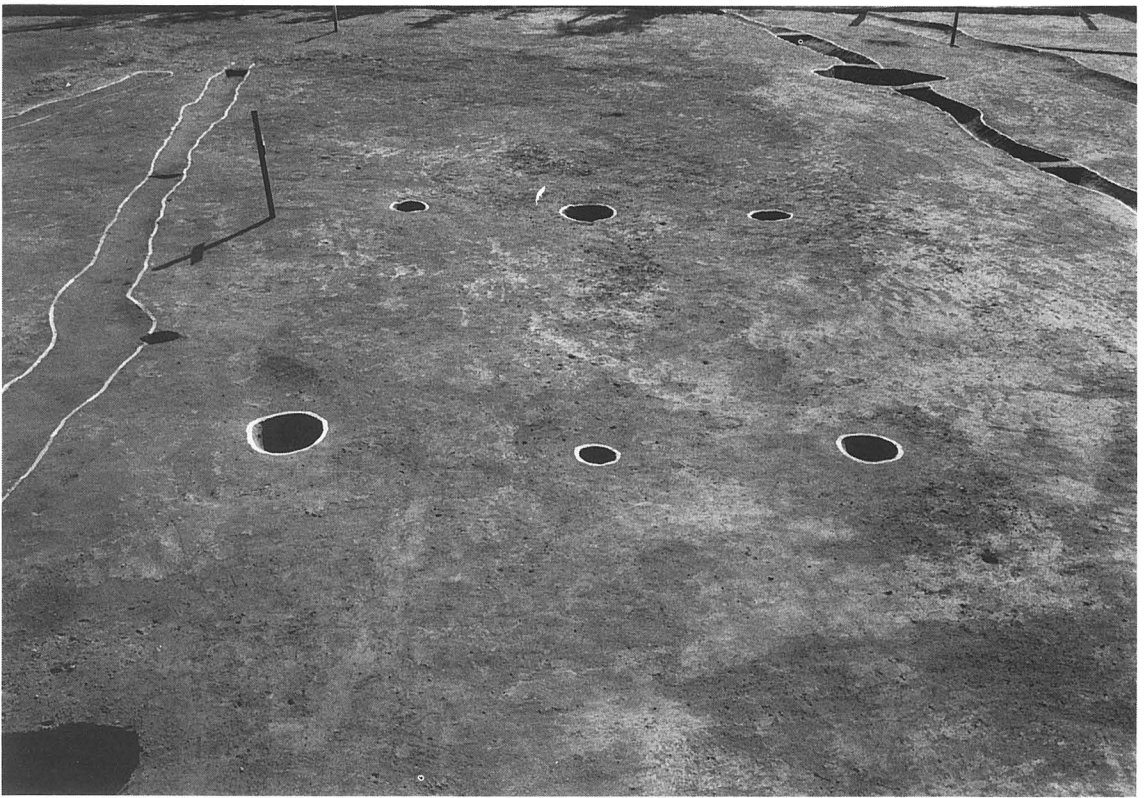




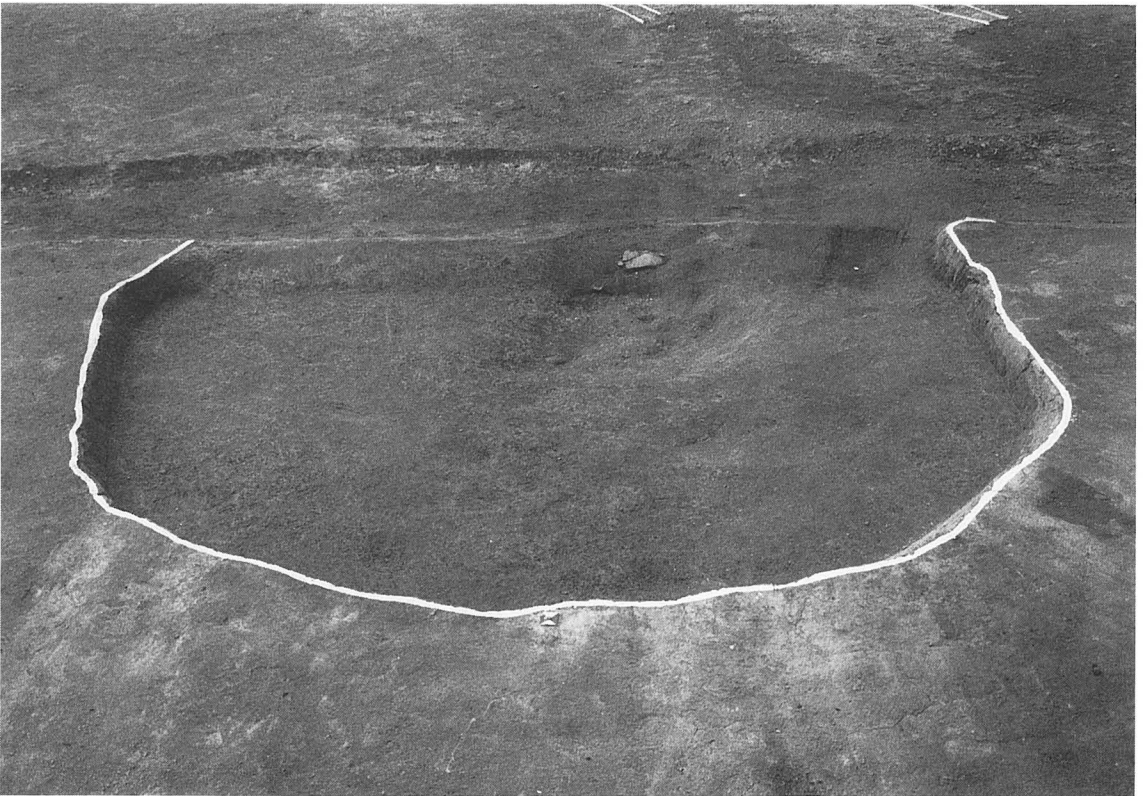
1. SH05 完掘状況（南から）



2. SH05 Pit内部状況



1. SB07 完掘状況（北から）



2. SX01 完掘状況（東から）